スリランカ国 健康増進・予防医療サービス向上 プロジェクト

事業完了報告書

平成 25 年 3 月 (2013 年)

独立行政法人 国際協力機構(JICA)

グローバルリンクマネージメント株式会社

スリ事 JR 13-002

交換レート (2013 年 2 月現在) ➤ US ドル = 91.04 円

▶ スリランカルピー = 0.72 円



略語表

AMO	Assistant Medical Officer	
BH	Base Hospital	
BHA, BHB	Base Hospital type A, Base Hospital type B	
BMI	Body Mass Index	
CD	Central Dispensary	
CI	Confidence Interval	
CVD	Cardio-vascular diseases	
DDG/DS	Deputy Director General, Dental Services	
DDG/ET&R	Deputy Director General, Education, Training & Research	
DDG/F	Deputy Director General, Finance	
DDG/LS	Deputy Director General, Laboratory Services	
DDG/MS	Deputy Director General, Medical Services	
DDG/P	Deputy Director General, Planning	
DDG/PHS	Deputy Director General, Public Health Services	
DG	Director General	
DGH	District General Hospital	
DH	District Hospital	
DM	Diabetes Mellitus	
ECG	Electrocardiograph	
ECU	Emergency Care Unit	
ET&R	Education, Training and Research	
FBG	Fasting Blood Glucose	
FY	Fiscal Year	
GH	General Hospital	
GoSL	Government of Sri Lanka	
GPT(ALT)	Glutamic Pyruvic Transaminase	
HC	Health Check-up (subgroup)	
HDL	High Density Lipoproteins	
HEB	High Density Lipoproteins Health Education Bureau	
HEO	Health Education Officer	
HI	Health Information (subgroup)	
HLC	Healthy Lifestyle Centre(s)	
HMP		
HR	Health Master Plan	
	Hazard Ratio	
HT up	Hypertension	
HP	Health Promotion (subgroup)	
HRH	Human Resources for Health	
HSDP	Health Sector Development Programme	
ICB	International Competitive Bidding	
ICU	Intensive Care Unit	
IEC	Information, Education and Communication	
IDA	International Development Association	
IFG	Impaired Fasting Glycaemia	
IHD	Ischaemic Heart Disease	
IMMR	Indoor Mortality and Morbidity Return	

JCC Joi	int Coordinating Committee	
	int Coordinating Committee	
	pan International Cooperation Agency	
·	Japanese Yen	
	pid Density Lipoproteins	
	aternal and Child Health	
	etabolic Equivalent for Task	
	yocardial Infarction	
MLT Me	edical Laboratory Technologist	
MO Me	edical Officer	
MoH Mi	inistry of Health	
MOH Me	edical Officer of Health, or Medical Office of Health	
NABNCD Na	ational Advisory Body for NCDs	
N/A No	ot Available	
NAFLD No	on Alcoholic Fatty Liver Disease	
NC No	orth Central Province	
NCD No	on-Communicable Diseases	
NHSL Na	ational Hospital of Sri Lanka	
	ursing Officer	
	CD Prevention Project	
	orth Western Province	
	utpatient Department	
	Odds Ratio Probability value	
	Package of Essential NCD interventions for primary health care in	
	low-resource settings	
	ovincial Director of Health Services	
PDM Pro	Project Design Matrix	
	Provincial General Hospital	
	Post Graduate Institute for Medicine	
PH Pro	Provincial Hospital	
	blic Health Inspector	
	blic Health Midwife	
	imary Medical Care Units	
	ogramme Planning Assistant	
	vripheral Unit	
	Person Years	
	Regional Director of Health Services	
	Rural Hospital	
	Ragama Health Study	
	Registered Medical Officer	
	Sri Lankan Rupees	
	andard Deviation	
	i Lanka Diabetes and Cardiovascular Study	
STEPS ST	EPwise approach to surveillance	
TAG Tri	iacylglycerol	
TH Tea	aching Hospital	
	aining of Trainers	

TWG	Technical Working Group
USD	United States Dollars
VP	Visiting Physician
WB	World Bank
WHO	World Health Organization

£		
第		イントロダクション1
1.1	スリラン	/カの非感染症の現状1
1.2)取り組み2
	121	NCD 政策の策定
	1.2.2	国家政策の実施体制
	1.2.2	国示政策の突起体内 リスクファクター調査
	1.2.0	
	1.2.4	NCD 文献調査
	1.2.5	セクター間の協力推進
1.3	NCDに	関する国際的な潮流とスリランカにおける支援機関5
	1.3.1	国際的な潮流5
	1.3.2	他ドナーによる NCD 対策支援6
1.4	健康増進	・予防医療サービス向上プロジェクト7
	1.4.1	背景
	1.4.2	プロジェクトの概要
	1.4.3	実施体制
	1.4.3	关爬冲前
第2	2 章	NCD の危険因子13
2.1	はじめに	<u> </u>
2.2	ラガマハ	ヘルススタディの背景13
	2.2.1	目的
	2.2.1	調査地域
	2.2.3	対象人口
	2.2.4	調查項目14

·追跡調査デザイン......14

追跡調査で調べた変数......15

2.2.5

2.3.1

2.3.2

2.3.3

2.5.1

2.5.2

2.6.1

2.6.2

目次

	1/ 1 - 1		
第	3章	NCD 予防のための NPP モデル	
3.1	健診モラ	デル	28
	3.1.1	健診モデルの形成過程	
	3.1.2	健診モデルの変遷	

	3.1.3	情報システム	36
	3.1.4	治療方法	37
	3.1.5	リファラル及びバックリファラル体制	38
3.2	対象地域	なにおけるフィージビリティーテストの結果	
	3.2.1	クルネガラ県のフィージビリティーテストの結果	38
	3.2.2	ポロンナルワ県のパイロットテスト結果	39
3.3	健診の初	J期の影響	
	3.3.1	心血管イベント高リスク者追跡調査	
	3.3.2	健診が住民の健康増進行動に与えた影響	43
3.4	保健指導	算モデル	3
	3.4.1	モデル作成経緯	
	3.4.2	保健指導のためのツール	
	3.4.3	保健指導トレーニングモデル	
3.5	健康増進	<u></u> モデル	
	3.5.1		
	3.5.2	ヘルスプロモーション・セッティングの開設方法	
	3.5.3	ヘルスプロモーション活動の実施	
	3.5.4	TOT 研修	
	3.5.5	セッティングにおける活動内容	
	3.5.6	モニタリングと評価	
	3.5.7	キャパシティディベロップメント	
3.6		'ーシャルマーケッティングモデル	
3.7		→祈調査	
	3.7.1	コスト分析調査の概要	
	3.7.2	コスト分析調査結果の概要	
	3.7.3	コスト分析/保健財政セミナー	
	01110		
<u> </u>	4 ====	ヘルシーライフスタイルセンターと NPP モデルの普及	`
	•		
		-ライフスタイルセンターの導入60	
4.2	-	見況	
4.3		予算計画	
	4.3.1	試算のための基本的な考え方	
		シミュレーションモデル	
		ジルでの展開に必要となる人的資源の面のリソースの算定	
4.5		223よび全国展開における NPP の役割	
	4.5.1	ガイドライン、マニュアル、ツールの作成	
	4.5.2	HLC 設置のための DVD 制作	64
	T.		
		: 教訓および今後に向けての提言 66	
5.1	教訓		5
		平価提言の実現状況69	
5.3	提言		2

第1章 イントロダクション

1.1 スリランカの非感染症の現状

スリランカは独立以後、衛生状態の改善、ワクチンの普及、母子保健サービスの拡充の徹底 を図り感染症制圧、出産関連死、小児死亡の減少に努め成果をあげてきた。近年、疫学転換、 人口転換に伴い疾病パターンは感染症、母子関連から心血管病、がん、呼吸器疾患、糖尿病 に代表される非感染症¹(以下 NCD)に移行している。現在、NCD は死亡や障害の原因疾患 の大半を占め、有病率も増加傾向にある。

過去 10 年で感染症死の割合は 24%から 12%と減少したのに対し、心血管病死の割合は 5%以 下から 30%に増加している。NCD による死亡率は先進国平均に比べ 20%から 50%高い。この 格差は心血管病と喘息で最も顕著である。全死亡の約 3 分の 2 が NCD によるものであり、中 でも心血管病が 29.6%、がんが 9.4%、呼吸器疾患が 8.5%、糖尿病が 3.9%を占める。また 2005 年と 2010 年の入院件数の比較では糖尿病が 36%、高血圧性疾患が 40%、虚血性心疾患が 29% 増加している²。

スリランカでは NCD の慢性外来患者は主に専門外来(ほとんど二次レベル以上の病院の外来、 または専門医の私立診療所)で、入院は二次レベル以上の医療機関で診られるのが一般的と なっている。一次医療機関の外来は普通慢性患者の初診から治療方針決定までには関わらず、 時に安定した慢性患者の継続治療を行うくらいである。スリランカはどの公立医療機関も紹 介状なしで受診することができるフリーアクセス制のため、より充実した医療スタッフ、検 査体制、薬剤を求め患者は一次医療機関を飛び越して最初から高次の医療機関を受診する傾 向にある³。

2010年の世界銀行の報告書によると 2008年の高次医療機関の病床占有率は約85%、一次医療施設は 50%以下と報告されている。NCD 患者の65%が高次医療機関の過密な専門外来に通院しており、一次医療機関では急性非感染症⁴の継続治療の33%を診療しているに過ぎない。 NCD の診療に必須の検査や医療機器に関しては、一次は言うまでもなく二次医療施設でも設置されていないことが多く、「divisional hospital」や「primary health care unit」といった一次医療施設では NCD の治療薬が不足することも多い。

喫煙、バランスの悪い食事、運動不足、過度の飲酒の4つの生活習慣は、4つの主要 NCD(心血管病、がん、慢性呼吸器疾患、糖尿病)に寄与する主要な危険因子として知られ、人口に

¹ 特に注記しない限り、本報告書では、慢性非感染症(慢性非伝染性疾患)を指す。

² Ministry of Health (MoH), Country Report, Regional Meeting on Health and Development Challenges of Noncommunicable Diseases, 1-4 March 2011, Jakarta.

³ Engelgau, Michael, et al. 2010. "Prevention and Control of Selected Chronic NCDs in Sri Lanka: Policy Options and Action, HNP Discussion Paper, World Bank, Washington D.C.

⁴ Acute NCD: 事故、中毒など

占めるこれらの危険因子の有病率は NCD の有病率、死亡率を左右する。2008 年の保健省の 調査では男性成人の喫煙率は 22.8%、女性は 1%以下だった。ここ数年喫煙率は減少傾向であ るもののタバコ関連売り上げの減少には至っていない。

脂肪摂取は多くないものの(15~18%)、スリランカ人の食事には飽和脂肪酸の割合が高い。 高い飽和/不飽和脂肪酸比は心血管病の重要な危険因子である。平均食塩摂取量(10g/日)、平 均追加糖分量(食物消費調査では 60g/日、個別食事日記調査では 35g/日)も WHO の推奨よ り多い。伝統的にはスリランカ人の食事は野菜中心であったが、現在 82%の成人が十分な量 の野菜を摂っておらず、豊富な果物に恵まれているにもかかわらず果物の平均摂取量も不十 分である。

大多数(78%)のスリランカ人は中程度以上の身体活動(600MET・min/週)を行っているが、 習慣的にスポーツを楽しむ人は僅かである。低身体活動の女性(30%)は男性(19%)に比 して多く、このためか BMI が 25 以上の過体重が女性では 30.4%と多い。飲酒する男性(26%) は女性(1.2%)に比して多いが、週4日以上飲酒する習慣的飲酒家は 5%未満である。

1.2 保健省の取り組み

1.2.1 NCD 政策の策定

スリランカ政府はNCD が個人の生活の質を低下させ、家族に経済的負担を強いるのみならず 国家の経済成長にとっても多大な負担となることから、NCD の予防と管理を保健行政の重要 課題に位置付け、ヘルスマスタープラン(2007-2016)にも、優先事項として掲げている。

続いて保健省は、2010 年に「NCD の予防・管理における国家政策⁵」を策定した。その中で 強調されたのは前一次予防 (primordial prevention)、一次予防、二次予防、三次予防の4つの 予防を通じた、健康増進と人口学的な福利の向上である。政策は前一次予防、一次予防で NCD の危険因子自体を遠ざけ、二次予防、三次予防では急性期、慢性期 NCD 治療の充実を図り、 患者の生活の質の向上をも目指している。NCD 政策策定に当たっては世界保健機構(以下 WHO)の一連の政策指針⁶を参考にしている。特に、WHO が提唱する NCD 対策の4つの重 要課題 1) 危険因子低下への取り組みの際のマルチステークホルダー・パートナーシップ、2) 保健システムの強化、3)必須医薬品・技術の提供、4)説明責任につながる監査・評価、は保健 省が NCD 政策を策定する際の指針となっている。

本政策の目的は NCD による早期死亡(65 才以下)を減らすことであり、今後 10 年、年 2% の低下を目指している。また、その手段としてエビデンスに基づいた治療や個人・集団の危険因子を減らすための健康増進の普及を掲げており 9 つの主要戦略により具体化されている。

⁵ National Policy for Prevention and Control of Chronic Non-communicable Diseases

⁶ World Health Assembly Resolution (WHA 57.17) on WHO Global Strategy on Diet & Physical Activity、Health and Preventing Chronic Diseases - A Vital Investment (WHO 2005)、WHO Strategic Framework for NCD Control and Prevention 2008-2013 等

1.2.2 国家政策の実施体制

NCD 政策を実現するため保健省は中央、州・県に活動の実施・管理・評価を行う担当部署を 設置した。中央で、NCD 対策の要を担うのは NCD 対策課(以下 NCD ユニット)で、ナショ ナル・ヘルス・カウンシル(National Health Council)、NCD ナショナル・ステアリング・コミ ッティ(National Steering Committee for NCD)、NCD ナショナル・アドバイザリー・ボディ (National Advisory Body for NCD: NABNCD)による決定事項の遂行を担当する。

州レベルの保健局(以下 PDHS⁷)では計画調整課が、県レベルの保健局(以下 RDHS⁸)では NCD セルが NCD 対策活動の実施機関である。RDHS には、NCD 対策技官(以下 MO/NCD⁹) が 2010 年から導入され、RDHS の監督下、NCD 対策の中期計画、年間計画を策定し関係各 位と協力・調整し NCD 対策の実施を担っている。

1.2.3 リスクファクター調査

STEPS とは、NCD とその危険因子の調査法として WHO が推奨する手法である。STEPS では まず質問票調査と簡便な身体計測から主要な危険因子の解析を行い、さらに医療施設での血 液検査へと進む。質問票調査と身体計測から、人口学的および生活習慣に関するデータを集 め、血液検査では糖尿病または高血糖、脂質異常の有病率を調査する。

スリランカでは 2003 年から 5 年ごとに NCD 危険因子の STEPS 調査を施行しているが、最後 の調査は 2007 年であった。この調査では、ランダムに選ばれた 5 つの県の 15 才から 64 才の 男女 12,500 人を対象に質問票と身体計測の調査が実施された。2012 年の STEPS 調査は、全 国から抽出された 6,300 人の 15 才から 64 才の男女を対象に、質問票、身体計測、血液検査 の 3 段階すべてを実施する計画で、2013 年半ばからデータ収集を開始する予定である。

1.2.4 NCD 文献調査

NCD と危険因子の有病率や国民に与える社会経済学的負担を把握するため、NCD ユニットは 過去に実施された NCD 関連研究のマッピング調査を行った。この調査は、2012 年 9 月から 12 月の4か月間で実施され、1990 年 1 月 1 日から 2012 年 11 月 30 日の間に発表された NCD 関連の研究、調査、その他の報告書を分析した。調査を行った 7 つの図書館/研究機関¹⁰に収 納されている総計 356 の NCD に関する出版物のうち 241 が危険因子の有病率に関するもの、 75 が NCD と危険因子の有病率に関するものであった。

NCD と危険因子の有病率を含む 75 の研究のうち、単一の危険因子について調べたものが

⁷ Provincial Directorate for Health Services または、州保健局長(Provincial Director)の意

⁸ Regional Directorate for Health services または、県保健局長(Regional Director)の意

⁹ Medical Officer-NCD

¹⁰ Post Graduate Institute of Medicine (PGIM), Alcohol and Drug Information Centre (ADIC), Sri Lanka Medical Association (SLMA), National Science Foundation (NSF), World Health Organisation (WHO), University of Colombo and Ministry of Health.

57.6%、複数の危険因子について調べたものが 42.4% であった。表 1-1 は危険因子の有病率を示している研究の件数である。このデータに解析を加え「スリランカの NCD とその危険因子の有病率、1990-2012 年¹¹」として保健省から発表する予定である。

NCD 関連危険因子	研究件数
喫煙	25
飲酒	14
身体活動度	13
高血糖	19
高血圧	17
高コレステロール血症	4
体重(過体重/低体重)	20
喘息	4

1.2.5 セクター間の協力推進

NCD 予防のための生活習慣改善には個人の行動変容を促す社会環境の整備が重要である。よって NCD 対策の効果を高めるため保健省のみならず他の省庁、産業界、団体との連携強化が不可欠となる。この重要性に鑑み、2011 年9月保健省主催で政治リーダー数名、各政府機関または非政府機関の代表を集め NCD に関するマルチステークホルダー会議が開かれた。その際、「ベストバイ¹²」の実施には多様な機関の協力が不可欠であること、NCD の予防と管理にとって各機関がいかに重要で社会に対して責任があるかということが強調された。

このマルチステークホルダー会議後、青少年能力開発省(Ministry of Youth and Skills Development)と国立青少年評議会(National Youth Council)が NCD 予防活動に青少年を動員 するなど、少しずつ連携が始まっている。今後は、NCD の危険因子低下や生活習慣改善のた め、青少年リーダーを育成し州・県レベルで NCD 予防活動を拡大していく予定である。

また、野菜果物の摂取、児童・生徒の食事改善、運動の促進等の分野で関係省庁、組織間での協力に関する話し合いが進められている。活動の進捗に関しては、前述のステアリング・ コミッティ、NABNCD、NCD ワーキンググループなどが頻繁にモニタリングと評価を行って いる。マルチステークホルダー・パートナーシップの課題は、それぞれ独自の優先課題を持 つ各省庁・組織にいかに現在の NCD 対策への興味と責任を持続させるかという点である。

¹¹ Ministry of Health, 2012, "Abstract of Non Communicable Diseases and Prevalence of Risk Factors in Sri Lanka, published from 1990-2012".

¹² WHO が提唱する費用対効果の高い、または根拠が確立している手段のこと、例えば加工食品の塩分規制など

1.3 NCD に関する国際的な潮流とスリランカにおける支援機関

1.3.1 国際的な潮流

WHO は主要な NCD である心血管疾患(以下 CVD)、糖尿病、がん、慢性呼吸器疾患を対象 とした「NCD の予防と管理に関する世界戦略(以下、世界戦略)」を 2000 年に策定した。こ の戦略は 3 つの目標: ①NCD の流行状況の明確化、②危険因子及びその決定因子に対する個 人・集団の暴露量減少、③医療体制の強化、で構成されており、2008 年には世界戦略に関す る行動計画が策定され、2013 年までに達成すべき具体的な 6 つの目標が設定された。

2011 年 9 月には NCD の予防管理に関する国際連合総会のハイレベル会合が開催された。同 会合で採択された政治宣言では、NCD 対策は開発重要課題の一つと位置付けられ、①社会全 体での取り組み、②健康を促進する環境の創出、③国内の政策と医療制度の強化、④国際協 力の推進、⑤研究と開発の推進、⑥モニタリング評価のための指標の策定、という 6 つの対 策が掲げられた。

同政治宣言では、NCD 予防管理のためのモニタリングフレームワーク(指標と世界目標)の 策定が課せられ、このモニタリングフレームワークは2013 年から2020 年を対象とした NCD 行動計画案にまとめられ、2013 年 5 月の第 66 回世界保健総会にて採択される予定である。 2025 年までに NCD による早世を25%低下させることなど9つの世界目標を設定するととも に、各国の国家戦略やその行動計画の進捗状況をモニタリングするために「死亡・罹患」「危 険因子」「国内政策の対応」の3つの領域に分けた合計25 個の指標が合意されている(2013 年1月末)。



図 1-1: 2025 年までに達成する NCD 予防管理のための 9 つの世界目標合意案(2013 年 1 月現在)

出典: WHO, Report of the Formal Meeting of Member States to conclude the work on the comprehensive global monitoring framework, including indicators, and a set of voluntary global targets for the prevention and control of noncommunicable diseases, November 21, 2012

1.3.2 他ドナーによる NCD 対策支援

スリランカにおける NCD 対策のパートナーは、WHO、世界銀行及び世界糖尿病財団であり、 各機関の活動概要は以下のとおりである。

(1) WHO

WHO は、スリランカ国援助計画(2012~2017年)の中で、NCD 対策を6つの優先課題の1 つに位置付けている。特に、NCD と傷害による罹患、障害、及び早世を予防・減少させるた め、①傷害を含めた NCD 予防・対策に高い優先順位が置かれるよう、全政府省庁および民間 セクターに働きかけ、②人口全体で危険因子を削減するための政策や規制、サービス提供方 法対策を強化する、③健康的な生活習慣を取り入れるようコミュニティをエンパワメントす る、④費用対効果の高い介入策を予防・治療の両面で行っていくための持続可能な資金調達 の仕組みを確保する、及び、⑤疾病及び危険因子サーベイランスを含む国の保健情報システ ムを強化することに焦点を当てている。

また、WHOは、慢性腎疾患対策、資源に乏しい環境のプライマリヘルスケアにおける基本的な NCD の包括的計画 (Package of Essential NCD intervention for primary health care in low-resource settings: PEN)、たばこのない世界構想、健康的な高齢化対策などの活動をスリランカで実施している。WHO はスリランカに PEN を導入するにあたり、2008 年から 2011 年にかけて関連医師会とともに必須医薬品リストの精査やフォローアップ治療のためのプロトコール作成を実施した。同時にバドゥラ県の3保健管区 (MOH¹³エリア)にある 18 医療施設をパイロット地域に設定し、必要人的資源の調査、NCD に関する研修、必要機材の調査及び 供与、必須医薬品の供与、心血管イベント発症リスクチャート (CVD risk prediction chart) 普及のための研修を行い、一次医療施設における NCD 対策の強化を図った。WHO が作成した NCD 必須医薬品リストは保健省によって最終化され、ヘルシーライフスタイルセンター¹⁴の 設置ガイドラインに添付されている。フォローアップ治療のためのプロトコール作成には本 プロジェクト専門家も協力し、保健省とともに最終化を行った。さらに中央での専門医および MO/NCD の研修は本プロジェクト、また、地方での医師・専門医への研修は WHO の支援 により実施されている。

(2) 世界銀行

保健省及び州保健局は 2004 年から 2010 年まで世界銀行による 6,000 万米ドルの無償資金協 力及び 2,400 万米ドルの追加融資支援¹⁵により、保健セクター開発プロジェクト (Health Sector Development Project: HSDP)を実施した。プロジェクト開発目標は保健セクターの効率性、利 用状況、アクセスの平等性、サービスの質の向上に、特に県と州に焦点を当てて寄与するこ とであった。さらに世銀は、第二次保健セクター開発プロジェクト (HSDP-II、総額 51 億 6,300

¹³ Medical Office (Officer) of Health, 保健所あるいは保健所長の意

¹⁴ 健診と保健指導を定期的に行うセンター、第4章を参照

¹⁵ World Bank, 2011, Sri Lanka Health Sector Development Project – Report No. ICR1842

万米ドル、内世界開発協会 IDA 部分は2億米ドル¹⁶)を計画しており、2013の開始を予定している。プロジェクトの開発目標はスリランカが直面している保健課題、特に栄養と NCD 課題に対応できるよう、保健医療システムを改善することである。世銀のパートナーシップ戦略(2013年~2016年次)には、中所得国家となったスリランカの課題に取り組んでいくことが掲げられ、HSDP-II は、その中でも重要なプロジェクトと見なされている。

HSDP-II では主に、①たばこの規制に関する WHO 枠組条約の推進、②室内空気汚染、殺虫剤 の使用、過度のアルコール摂取、塩分、糖質、トランス脂肪酸の使用に関する規制の導入、 ③全レベルの医療機関に 24 時間稼働緊急治療センターの設置、④全国の 325MOH エリアに 少なくとも1 ヘルシーライフスタイルセンターの設置、⑤職場健診実施のための移動健診シ ステムの活用、⑥病院における NCD 治療の向上、⑦ラボ、集中治療室、クリニック、その他 の検査室の強化、⑧医薬品の質の確保、⑨ロジスティクス及び流通システムの改善等の支援 が計画されている。

(3) 世界糖尿病財団¹⁷

2009年より糖尿病予防管理を目的としたニロギ・ランカプロジェクトが世界糖尿病財団の無 償資金協力によってコロンボで実施された。同プロジェクトの目的は、糖尿病教育看護師の 育成、一次から三次医療施設を結んだヘルスケアモデルによる糖尿病治療の質の向上、およ び一般住民の啓発とリスク人口の特定による予防の促進であった。同プロジェクトは 2012年 に終了し、フェーズ 2 が 2013年より開始される予定である。

1.4 健康増進・予防医療サービス向上プロジェクト

1.4.1 背景

日本は、過去数十年にわたり、スリランカ保健セクターに対する協力を行ってきた。既述の ヘルスマスタープランの作成、血液銀行、近年では、ジャフナやアヌラダプラ教育病院の改 修、および病院改善のための 5S-TQM の導入など、近年のプロジェクトだけでも列挙にい とまがない。

NCD の増加に伴い、2007 年、スリランカ保健省は NCD 対策のための実施モデルを策定する ため「健康増進・予防医療サービス向上プロジェクト」の実施を要請した。本技プロの背景 には、図 1-2 に示す通り、第1次開発調査(2002 年~2003 年)でマスタープランを作成し、 第2次開発調査(2005 年~2007 年)では優先課題の内、①5S-TQM、②コスト分析、および ③NCD 対策の3つの分野を調査し、スリランカ政府と協働で行動計画を策定したという2つ の開発調査がある。その流れを受け、今回、NCD 対策、特に心血管病予防に焦点をあてた生 活習慣病対策の要請が出された。

¹⁶ World Bank. 2013. Sri Lanka-Second Health Sector Development Project: environmental assessment.

¹⁷ World Diabetes Foundation

図 1-2: 本技プロの背景



出典:プロジェクト資料

1.4.2 プロジェクトの概要

本プロジェクトの目標は、「効果的かつ効率的な非感染症対策実施モデルを策定すること」で あり、達成度を測る指標として以下の3つが設定された。

- 1)年間で、対象人口の2割を健診できるモデルであること、
- 2) ハイリスクと診断された受診者の7割が継続指導を受けられること、および
- 3) 健診で発見された患者の9割が治療を開始できること。

このプロジェクト目標を達成するためのアウトプットは以下の4つ。

- アウトプット 1: 心血管病の危険因子がラガマ調査のエビデンスで特定される。
- アウトプット 2:現存するエビデンスおよび関係文書に基づき、介入ガイドライン・マニュ アルが策定される。
- アウトプット3: NCD 対策モデルの開発のため、介入ガイドラインの組織的・技術的フィー ジビリティがパイロット地域で査定される。
- アウトプット 4:心血管病予防のための健診・保健指導・健康増進実施計画が全国展開に向 けて策定される。

本プロジェクトの PDM は 2010 年 9 月の中間評価時に確定し、その枠組みに沿って活動を実施した。(添付 1)

表	1-2:	PDM	の改定
---	------	-----	-----

プロジェクトの概 要	PDM version 3 (2009 年 2 月 11 日)	PDM version 4 (2010 年 9 月 24 日)	
上位目標	プロジェクトで策定された NCD 予防対策	NCD 糖尿病、高血圧症、および脂質異常症)	
	が他の県に導入される。	予防のための効果的、かつ効率的な実施モ デルがスリランカの全県に導入される。	
プロジェクト目標	NCD(糖尿病、高血圧症、虚血性心疾患、	NCD(糖尿病、高血圧症、および脂質異常	
ノロシエンド日际	NCD(福永州、高皿圧症、虚皿性心疾志、 脳卒中、および脂質異常症)予防のため	RCD (福永州、同皿圧症、わよび加損共常 症)予防のための効果的、かつ効率的な実	
	の効果的、かつ効率的な実施戦略が策定	施モデルが策定される。	
	される。		
アウトプット	1) NCD、特に心疾患の予防につながる	1) 心血管病の危険因子がラガマ調査のエ	
	社会医学的根拠が得られる。	ビデンスで特定される。	
	2) 介入戦略が、社会医学的根拠を基に	2) 現存するエビデンスおよび関係文書に	
	策定され、レビューされ、決定され	基づき、介入ガイドライン・マニュア	
	る。	ルが策定される。	
	3) 対象地域において戦略を実施するた	3) NCD 対策モデルの開発のため、介入ガ	
	めの体制とメカニズムが構築され	イドラインの組織的・技術的フィージ	
	る。	ビリティがパイロット地域で査定され	
	4) 4) 全国レベルでの NCD 対策(案)	る。	
	が計画される。	4) 心血管病予防のための健診・保健指	
		導・健康増進実施計画が全国展開に向	
		けて策定される。	

出所:中間レビュー調査団作成資料。和訳文責プロジェクト総括。

1.4.3 実施体制

(1) JCC と TWG

R/D¹⁸により、プロジェクト・ディレクターは保健省の次官、プロジェクト・マネージャーは 計画部の部長¹⁹が担当した。ジョイント・コーディネーション・コミッティ(JCC)は、保健 省各部の部長、パイロットを実施した北西部州・北中部州の保健局長(PDHS)、クルネガラ 県・ポロンナルワ県の保健局長(RDHS)、大学、学会等から構成され、年間計画、ガイドラ イン(実施計画)、マニュアル、ツール類の検討・承認を行った。

また、R/D には、課長級から構成されるテクニカル・ワーキング・グループ(TWG)の設置 が合意されていたが、実質的な議論を行うには大きすぎ、また、課長級だけでは決定権がな いという理由で、部長級を頭に立てたサブグループを結成することとした。健診・保健指導・ 健康増進の実施モデル案を検討していた 1~2 年次は、サブグループで協議した案を TWG で 検討し、JCC で決定するというプロセスを経たが、ある程度枠組みが固まってきた 3 年次ご ろから TWG 開催の必要性が薄れ、TWG のメンバーも含めた JCC を開催することとなった。

¹⁸ Record of Discussion

¹⁹ Deputy Director General, Planning を局長補と訳す場合もあるが、本稿では部長と訳す

		JCC	TWG
1	Secretary-Ministry of Health (MoH)	Chair	
2	Additional Secretary (Medical Services) - MoH	\checkmark	
3	Director General (Health Services) - MoH	\checkmark	Chair
4	Deputy Director General (Planning) - MoH	\checkmark	✓
5	Deputy Director General (Medical Services I) - MoH	\checkmark	\checkmark
6	Deputy Director General (Medical Services II) - MoH	\checkmark	✓
7	Deputy Director General (Public Health Services I) - MoH	\checkmark	\checkmark
8	Deputy Director General (Public Health Services II) - MoH	\checkmark	✓
9	Deputy Director General (Education, Training and Research) - MoH	\checkmark	✓
10	Chief Accountant - MoH	\checkmark	✓
11	Deputy Director General (Finance II) - MoH	✓	✓
12	Director, Non-Communicable Diseases - MoH	✓	✓
13	Representative, Department of External Resources, Ministry of Finance & Planning Planning	✓	
14	Representative, Department of External Resources, Ministry of Finance & Planning Planning	✓	
15	Representative, Ministry of Higher Education	✓	✓
16	Representative, Ministry of Education	✓	✓
17	Representative, Sri Lanka Medical Association	✓	✓
18	Representative, College of Physicians	✓	
19	Representative, College of Community Physicians	✓	
20	Representative, College of General Practitioners	✓	
21	Provincial Director of Health Services, North Central Province	✓	
22	Provincial Director of Health Services, North Western Province	✓	
23	Regional Director of Health Services, Kurunegala	✓	✓
24	Regional Director of Health Services, Polonnaruwa	✓	✓
25	Representative, Ragama Health Study	✓	✓
26	Director, Epidemiology - MoH		✓
27	Director, Family Health Bureau - MoH		✓
28	Director, Health Education Bureau - MoH		✓
29	Director, Information - MoH		✓
30	Director, Mental Health - MoH		✓
31	Director, Nutrition - MoH		✓
32	Director, Planning - MoH		✓
33	Director, Youth, Elderly and People with Disability - MoH		✓
34	Director, Cancer Control Programme - MoH		✓
35	JICA NPP Team	~	✓
36	Representative, JICA Sri Lanka Office	✓	✓
37	Representative, Embassy of Japan (Observer)	~	
38	Representative, World Health Organization (Observer)	✓	
39	Representative, World Bank (Observer)	✓	
40	Others to be designated by MoH and JICA, if necessary	✓	✓

表 1-3: JCC & TWG のメンバーリスト

(2) スリランカ側カウンターパート

5年間の実施期間中、主なカウンターパートは述べ21名であったが、最も重要なカウンター パートである保健省 NCD ユニットの課長が4人交代したため、その都度の関係構築と調整が 大変であった。カウンターパートのリストは添付2のとおり。

(3) 日本人専門家

添付3のとおり、延べ11名の専門家が94.5人/月派遣され、プロジェクトの実施にあたった。 最終年度の専門家体制は、下表のとおり。

担当分野	氏名	所属・肩書
総括/生活習慣病対策(1)/健康増進(1)	西野桂子	グローバルリンクマネージメント株 式会社(GLM、専務取締役)
副総括/臨床疫学(2)	村山智子	GLM(研究員)
医療情報システムマネージメント/ 保健指導	佐多玲子*	GLM(研究員)
臨床疫学(1)/生活習慣病対策(2)	神谷保彦*	長崎大学国際健康開発研究科教授
コスト分析	杉本孝生	聖マリア病院国際事業部次長

表 1-4:第5年次の専門家体制

注:*医師

(4) 予算および供与機材

年間の一般業務費は表1-5、供与機材のリストは添付4を参照されたい。

表 1-5: 一般業務費(円)

	2008	2009	2010	2011	2012	Total
一般業務 費	9,670,000	11,372,000	13,776,000	18,567,000	14,875,000	68,260,000
機材	1,867,000	284,000	700,000	5,735,000	0	8,586,000

スリランカ側からは、コロンボ(マラリア対策キャンペーンビル)、クルネガラ(RDHS内)、 ポロンナルワ(RDHS内)の3カ所の執務室を水道光熱費無料で提供された。

なお、実施期間中3回本邦研修を実施し、研修員のリストおよび研修先は添付資料5を参照 していただきたい。

(5) パイロット地区ならびに年間活動目標

アウトプット1の危険因子調査はコロンボに隣接するガンパハ県ラガマ MOH エリアで、ケ ラニア大学医学部に再委託して実施。その他のパイロットはクルネガラ県のアラッワ MOH エリア、ナランマラ MOH エリア、およびポロンナルワ県のメディリギリヤ MOH エリアの3 カ所で実施した。下表は、2008 年~2013 年のロードマップである。

アウトプット	1 年次	2 年次	3年次	4 年次	5 年次
1) ラガマ調査	調査項目等の確	第1回追跡調	第 2 回追跡調	調査結果の深堀	分析結果の公表
	認・合意、ベー	査・結果分析	査・結果分析	分析	
	スライン調査分				
	析				
2)ガイドライン	NPP ガイドライ	NPP ガイドライ	マニュアル・ツ	ガイドライン・	ガイドライン・
/マニュアル/コ	ン案の策定	ン案の改定	ール整備/コスト	マニュアル修正/	マニュアル等の
スト			分析	コスト分析結果	最終化
				公表	
3)フィージビリ	実施体制の確認	3MOH で試行開	3MOH の実施状	対象県全域へ拡	対象県全域へ拡
ティの確認		始	況確認	大 (支援)	大 (支援)
4) 全国展開支援			レビュー+他機		実施戦略策定·
			関の実施状況確		全国展開準備
			認		

表 1-6: NPP のロードマップ

以下、第2章にアウトプット1のラガマ調査結果、第3章にはアウトプット2と3の試行に 基づくモデルづくり、第4章に全国展開支援、そして第5章に教訓と提言を述べる。

第2章 NCD の危険因子

2.1 はじめに

心血管病は世界の多くの国において死亡最大要因となっており、そのうちの約80%が中・低 所得国で発生し、心血管病による死亡は今後も増加することが予測されている。過去数十年 に渡り心血管病の危険因子や発症率および死亡率に関し多数の疫学調査が先進国で実施され てきた。一方、これまでスリランカにおいては、経年変化を調査する疫学調査は実施されて いなかった。

心血管病の危険因子、有病率及び死亡率に関する自国データを有することの重要性を鑑み、 入手可能なエビデンスに基づきスリランカにおける重要な CVD リスクを特定する作業が本 プロジェクトのアウトプット1に加えられた。アウトプット1の対象として、ラガマヘルス スタディの対象人口が選ばれたが、その理由は、① 2007 年に危険因子調査が実施されてお り、②調査方法や調査実施体制が明確であり、③同じ人口を追跡調査することで高血圧・糖 尿病・脂質代謝異常症や心血管イベントの発症率やその発症に関連する危険因子を特定する ことが可能である、と考えられたためである。

2.2 ラガマヘルススタディの背景

2.2.1 目的

ラガマヘルススタディはケラニア大学医学部が日本の国立国際医療研究センターの協力で、 メタボリックシンドロームの有病率と診断基準を作成することを主目的として 2007 年に実施した調査である。本調査は、NCD 対策を目的とし、国立国際医療研究センターがベトナム、 中国、タンザニア、スリランカで行った国際ゲノム疫学コホートの一部でもあった。

2.2.2 調査地域

ラガマヘルススタディはケラニア大学医学部のフィールド活動対象地区であるラガマ MOH エリアで実施された。ラガマのあるガンパハ県はスリランカで2番目に人口密度の高い都市 部であり(表 2-1)、特にラガマ MOH エリアは、スリランカの典型的な都市部地域とみなさ れている地区である。

州	西部州
人口	2,298,588 人
人口密度	1,714 /km ²
都市部の割合	都市部 14.6%, 農村部 85.4%, プランテーション 0%
民族	シンハラ 90.6%, スリランカ・タミル 3.5%, インド・タミル 0.5%, スリランカ・ム
	ーア 4.2%, バーガー 0.4%, マーレー 0.5%, その他 0.1%
宗教	仏教 71.5%, ヒンズー教 2.3%, イスラム教 5.0%, キリスト教 21.2%, その他 0.1%

表 2-1: ガンパハ県の基本情報

出典:国勢調査 2012 年、都市部の割合は国勢調査 2001 年

2.2.3 対象人口

調査対象人口は、ラガマ MOH エリアの選挙人名簿を使用し、年齢層別無作為抽出法で 35~64 歳の 3,150 人が抽出された。そのうちの 3,000 人が調査に招待され、2,986 人が検査を受診し、対象コ ホート人口とされ(表 2-2)。44.8% (n=1,338) が男性であった。

誕生年	調査時の年齢層	総数 (2,987 人)	男性 (1,338 人)	女性 (1,649 人)
1942-1951	55-64	1,332	601	731
1952-1961	45-54	1,140	497	643
1962-1971	35-44	515	240	275

表 2-2: 年齢層および性別調査人口

出典: 基礎調査報告書 2009 年

2.2.4 調査項目

調査項目は、構造的インタビュー(既往歴、家族歴、食習慣、運動習慣、喫煙習慣、飲酒習 慣など)、身体計測(身長、体重、腹囲)、血圧、空腹時血糖、脂質検査、血清インスリン、 ヘモグロビン A1c²⁰、GPT (ALT)²¹などの血液検査、血算、微量アルブミン尿測定、肝臓超音 波検査、心電図の測定であった。

データは研修を受けたインターン前の医学部生が収集し、インタビューの終わりには、記入 用紙への記載が適切かどうか確認を行い、参加者には検査結果の通知日が通達された。また、 調査に来なかった対象者は、後日世帯訪問や電話で心血管イベント発症の有無が確認された。

2.2.5 倫理的配慮

本調査はケラニア大学医学部倫理委員会の承認を受けて実施された。参加者は調査の説明を 受け、同意書への署名の後、調査に参加した。血液検査は、研修を受けた看護師が行い、滅 菌された使い捨て器具を用いて行われた。調査結果は参加者全員に通知され、異常が見つか った場合には、大学が開設したフォローアップクリニックやコロンボ北教育病院へ照会され、 必要な検査と治療が行われた。

2.3 危険因子に関する追跡調査の実施方法

2.3.1 追跡調査デザイン

追跡調査はラガマヘルススタディの対象人口であった 2,986 人を対象とし、2008 年から 2010 年の3年間に実施された前向きコホートである。

²⁰ 糖尿病の血液検査

²¹ 肝機能検査

本プロジェクトの1年目に、ラガマヘルススタディをベースラインデータとして活用するた めに、ラガマヘルススタディのデータ分析を実施した。同時に、プロジェクト期間中に実施 する追跡調査の内容をケラニア大学と協議し、調査デザインを合意した上で、ケラニア大学 に再委託した。また、プロジェクト4年次には、保健省とプロジェクト専門家、コロンボ大 学及びケラニア大学でタスクフォース・グループを組織し、保健省がNCDの介入戦略を検討 する際に活用できるよう深堀分析を実施した。深堀分析の結果は5年次にラガマ調査報告セ ミナーを開催し、関係者に広く共有するとともに「エビデンスに基づくNCD対策」という観 点より議論を行った。

表 2-3:アウトプット1に関するベンチマーク

年	主な活動
2008	ラガマヘルススタディを分析し、基礎調査報告書を作成
2009	第一回追跡調査を実施し、第一回追跡調査報告書(2009年)を作成
2010	第二回追跡調査を実施し、第二回追跡調査報告書(2010年)を作成
2011	タスクフォース・グループを組織し、深堀分析を実施
2012	深堀調査報告書を作成し、ラガマ調査報告セミナーを実施

2.3.2 追跡調査で調べた変数

追跡調査で調べた変数は表 2-4 に示す通りである。

表 2-4: 調查対象変数

	調査した変数
社会経済的因子	教育、職業、民族、宗教、世帯収入
人口的因子	年齡、性別
行動的因子	アルコールの摂取、喫煙習慣、食習慣、運動習慣、ストレス、睡眠パターン
宿主物理的因子	血圧、体重、身長、体重、腹囲
宿主歴史的因子	生活習慣病の既往歴、家族歴、健康状態、妊娠歴
生化学的状態	空腹時血糖、脂質

出典: 第一回追跡調查報告書(2009年)、第二回追跡調查報告書(2010年)

調査分析で採用した疾病の定義は以下の通りである。

- 1) 高血圧: 過去に高血圧と診断されたことがある、あるいは追跡調査時の血圧 140/90mHg 以上。
- 2) 糖尿病: 過去に糖尿病と診断されたことがある、あるいは追跡調査時の空腹時血糖 126mmHg/dl 以上。
- 3) 脂質代謝異常症:過去に脂質代謝異常症と診断されたことがある、あるいは次のいずれ かに当てはまる場合:LDLコレステロール160mg/dl以上、HDLコレステロール40mg/dl

以下、中性脂肪 20mg/dl 以上、総コレステロール 240mg/dl 以上。

4) 心血管イベント(アウトカム): 致死的あるいは非致死的な脳卒中、心筋梗塞、その他の 虚血性心疾患の発症が、本調査職員による直接観察、保健機関からの報告、あるいは死 亡証明書により確認できた事例。

また、ケラニア大学は、栄養分野に強いワヤンバ大学に食物摂取頻度調査票の作成を依頼し、 ラガマ MOH エリアでプリテストを実施した後に、第二回追跡調査において採用した。

2.3.3 統計手法

収集した情報の入力及び確認作業は EPIINFO を用いて行った。矛盾点の確認及び修正作業は 手作業で行い、情報の質を確保するために、頻度や論理的妥当性の確認を行った。ベースラ イン調査時の有意性の確認はχテストを用いて検証した。高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症、 あるいはこれらの合併症、および心血管イベントの発症に関連する危険因子の分析は、二変 量分析で有意性の確認できた因子に対し、コックス比例ハザードモデルを用いた多変量解析 を行った。

2.4 ベースラインデータの分析

ベースライン時の高血圧や糖尿病、脂質代謝異常症及び合併症の有病率、危険因子の率は表 2-5 に示す通りである。年齢調整別有病率は脂質代謝異常症において女性の有病率が 64.3% (95%信頼区間:61.2-67.2)と男性の有病率 35.8% (95%信頼区間:27.5-44.1)よりも有意に 高かった (p<0.001)。表 2-6 には危険因子の平均値を性別に示す。

	男性	女性
年齡調整別有病率		
高血圧	33.0% (25.6-40.4)	36.6% (34.2-39.1)
糖尿病	19.4% (17.4-21.4)	19.3% (13.7-24.8)
脂質代謝異常症	35.8% (27.5-44.1)	64.3% (61.2-67.2)
高血圧と脂質代謝異常症	13.5% (11.8-15.3)	24.8% (22.7-27.0)
高血圧と糖尿病	9.0% (7.7-10.3)	10.6% (9.3-11.9)
糖尿病と脂質代謝異常症	N/A	N/A
高血圧と糖尿病と脂質代謝異常症	4.1% (3.2-5.1)	7.1% (6.0-8.2)
粗率		
運動不足	15.7%	21.4%
過体重	25.4%	34.9%
肥満	4.3%	11.5%
喫煙	36.0%	0.3%

表 2-5: ベースライン時(2007年)の年齢調整別有病率と危険因子の率(95%信頼区間)

注釈:年齢調整はスリランカの内務省統計局の2007年の年央人口推計を用いた。 出典:ベースライン調査報告書(2009年)、深堀分析報告書(2012年)

16

	男性	女性	p值
	(1,338 人)	(1,649 人)	(男性対女性)
	平均值 (標準偏差)	平均値 (標準偏差)	
空腹時血糖	118.3(43.5)	117.9(44.8)	0.78
収縮期血圧	133.9(21.0)	136.1(22.7)	0.01
拡張期血圧	79.3(12.6)	79.7(12.0)	0.34
総コレステロール	205.3(41.0)	217.5(42.4)	< 0.01
HDL コレステロール	48.8(4.7)	50.2(4.1)	< 0.01
LDL コレステロール	129.0(35.9)	141.9(38.2)	< 0.01
中性脂肪	138.1(71.8)	126.2(64.6)	< 0.01
体格指数(BMI)	23.1(3.9)	24.9(4.4)	< 0.01
腹囲	86.1(10.6)	87.1(28.9)	0.17

表 2-6: ベースライン時の臨床的および生化学的変数の平均値

出典: ベースライン調査報告書 (2009年)

表 2-7 はベースライン調査時の対象人口の特徴を示している。対象人口の 71%に相当する 2,106 人が、高血圧・糖尿病・脂質代謝異常症のいずれかの生活習慣病を有していた。二変量 分析で生活習慣病の有病率と関係が見られた変数は年齢層、性別、宗教、喫煙習慣、BMI>25 および運動習慣であった(p<0.05)。

	総数	生活習慣病を有する人	生活習慣病ではない人
	(2,987人)	(2,106 人) (%)	(881 人) (%)
年齢層 ++			
35-44	515	245(47.6)	270(52.4)
45-54	1,140	785(68.9)	355(31.1)
55-64	1,332	1,076(80.8)	256(19.2)
性別 *			
男性 (%)	1,338	916(68.5)	422 (31.5)
民族			
シンハラ	2,805	2,004(71.4)	846(30.2)
タミル	48	35(72.9)	13(27.1)
その他	73	56(76.7)	17(23.3)
宗教 +			
仏教	1,823	1,237(67.9)	586(32.1)
キリスト教	1,097	816(74.4)	281(25.6)
ヒンズー教	15	12(80.0)	3(20.0)
イスラム教	34	28(82.4)	6(17.6)
その他	1	1(100.0)	0(0.0)
教育			
正規教育なし	33	23(69.7)	10(30.3)
初等教育まで	213	135(63.4)	78(36.6)
中等教育まで	2,155	1,544(71.6)	611(28.4)
高等教育以上	572	395(69.1)	177(30.9)
世帯月収			
< Rs. 10,000	1,314	928(70.6)	386(29.4)

表 2-7: ベースライン時(2007年)の対象人口の特徴

\geq Rs.10,000	1,607	1,128(70.2)	479(29.8)
喫煙習慣 +			
なし	2,128	1,532(72.0)	596(28.0)
あり	854	571(66.9)	283(33.1)
BMI ++			
<25	1,547	917(59.3)	630(40.7)
≧25	1,425	1,179(82.7)	246(17.3)
運動習慣 ++			
低度	563	434(77.1)	129(22.9)
中度	741	544(73.4)	197(26.6)
高度	1,683	1,128(67.0)	555(33.0)
野菜の摂取習慣			
毎日	834	586(70.3)	248(29.7)
毎日ではない	504	330(65.5)	174(34.5)
果物の摂取習慣			
毎日	422	312(70.6)	110(24.9)
毎日ではない	916	655(71.5)	261(28.5)

注釈: 喫煙習慣は過去の喫煙習慣も含める ;* p<0.05; + p<0.01; ++ p<0.001 欠測データは それぞれ民族 61, 宗教 17, 教育 14, 世帯月収 66, 喫煙習慣 5, BMI15 出典: ベースライン調査報告書 (2009 年)

2.5 追跡調査の結果

2.5.1 追跡調査の参加者

対象コホート 2,987 名のうち、2,738 名 (93.1%) が少なくとも 1 回 (2009 年あるいは 2010 年) の追跡調査に参加した。各追跡調査の参加者数は図 2-1 に示す通りであり、2,987 名の観 察期間は 9186.46 人年であった。

追跡期間中に報告された死者数は49名(1.8%)、うち16名(32.7%)が心筋梗塞やその他の 虚血性心疾患が死因で、5名(10.2%)は脳卒中により死亡した。

図 2-1: 調査対象者の追跡状況



注釈: *スクリーニング調査に参加しなかった対象者に対しては、訪問や電話で疾病発症の有無の確認をした。 出典:第一回追跡調査報告書(2009年)、第二回追跡調査報告書(2010年)

2.5.2 調査結果

(1) 発生率

追跡調査中に新たに診断された生活習慣病は、高血圧 407 名、糖尿病 434 名、脂質代謝異常 症 893 名であり、発症が確認された心血管イベントは 88 件であった。表 2-8 は高血圧、糖尿 病、脂質代謝異常症の発症率を性別に表す。脂質代謝異常症の発症率は高血圧や糖尿病の発 症率と比べ2 倍以上高かった。

	性別	ベースライン 時に疾病を有 していない対 象者数	2010 年までの 新発症数 (%)	追跡人年	1000 人年あ たりの発症 率	95% 信頼区間
高血圧	男性	798	192 (24.1)	2465.43	77.88	(67.25-89.71)
	女性	846	215 (25.4)	2610.75	82.35	(71.71-94.13)
	総数	1,644	407 (24.8)	5076.17	80.18	(72.58-88.36)
糖尿病	男性	1,050	197 (18.8)	3242.63	60.75	(52.71-69.69)

表 2-8: 高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症の性別発症率

	女性	1,227	237 (19.3)	3783.99	62.63	(55.03-70.99)
	総数	2,277	434 (19.1)	7026.62	61.77	(56.16-67.78)
脂質代謝	男性	887	495 (55.8)	2725.29	181.63	(165.98-198.36)
異常症	女性	558	398 (71.3)	1728.53	230.25	(208.18-254.02)
	総数	1,445	893 (24.8)	4453.82	200.50	(187.57-214.10)

出典:深堀分析報告書(2012年)

表 2-9 は高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症の併発状況を示している。これら 3 つの生活習慣 病の組み合わせでは、男女ともに脂質代謝異常症と糖尿病を併発した事例が最も多く報告さ れた。

	性別	ベースライ ン時発症し ていなかっ た対象者数	2010 年までの 新発症数 (%)	追跡人年	1000 人年 あたりの 発症率	95% 信頼区間
高血圧と	男性	540	83 (15.4)	1663.24	49.90	40.01-61.53
脂質代謝	女性	304	69 (22.7)	942.59	73.20	57.42-92.05
異常症	総数	844	152 (18.0)	2605.83	58.33	49.60-68.17
高血圧と	男性	477	39 (8.2)	1476.02	26.42	19.07-35.73
糖尿病	女性	511	40 (7.8)	1576.36	25.37	18.39-34.19
	総数	989	79 (8.0)	3052.38	25.88	20.64-32.07
脂質代謝	男性	706	84 (11.9)	N/A	N/A	N/A
異 常 症 と	女性	419	60 (17.3)	N/A	N/A	N/A
糖尿病	総数	1125	144 (12.8)	N/A	N/A	N/A

表 2-9: 性別高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症の併発状況

出典:深堀分析報告書(2012年)

追跡期間中、心筋梗塞 35 事例、脳卒中 15 事例、その他の虚血性心疾患 38 事例が報告された。 発症密度は表 2-10 に示す通りであった。

	性別	2010 年までの 新発症数 (%)	追跡人年	1000 人年あ たりの発症 率	95% 信頼区間
心筋梗塞	男性	17	4146.94	4.10	2.47-6.43
	女性	18	5039.52	3.57	2.18-5.54
	総数	35	9186.46	3.81	2.70-5.24
脳卒中	男性	9	4146.94	2.17	1.06-3.98
	女性	6	5039.52	1.19	0.48-2.48
	総数	15	9186.46	1.63	0.95-2.63
その他の虚	男性	12	3268.62	3.67	1.99-6.24
血性心血管	女性	26	4248.57	6.12	4.09-8.83
	総数	38	7517.19	5.06	3.63-6.86

表 2-10: 性別心筋梗塞、脳卒中、虚血性心疾患の発症率

出典:深堀分析報告書(2012年)

(2) 危険因子

a) 高血圧

55~64 歳(ベースライン時)の年齢層は 33~44 歳の年齢層と比べて高血圧発生リスクが 2 倍以上高かった(P<0.001)。ベースライン時に糖尿病を有していること、BMI が 25 以上であること、運動習慣がないこともそれぞれ高血圧発生に対する独立危険因子であった(表 2-11)。

危険因子	%	危険率	95%信頼区間
年齢 55~64 歳	31.9	2.0	1.52 - 2.73 ++
BMI≧25	32.5	1.49	1.13 - 1.96 *
腹囲 男性>80cm, 女性>90cm	28.7	0.916	0.70 - 1.20
ベースライン時に糖尿病を発症している	37.0	1.47	1.16 - 1.86 +
非アルコール性脂肪肝	38.7	1.50	1.12 - 1.90
定期的なアルコール摂取	21.0	0.83	0.64 - 1.07
運動習慣がない	32.2	N/A	N/A *
ストレスの多い出来事があった自覚	27.7	0.96	0.78-1.17

表 2-11: 高血圧発生と危険因子の多変量分析(1,644人)

注釈: * p<0.05; + p<0.01; ++ p<0.001 出典: 深堀分析報告書(2012年)

b) 糖尿病

表 2-12 に示す通り、ベースライン時に空腹時血糖異常が見られた人は糖尿病を発症するリス クが3 倍以上高かった(p<0.001)。高血圧の発症リスクと同様に、55~64 歳(ベースライン 時)の年齢層は33~44 歳の年齢層と比べて糖尿病の発症リスクが2倍以上高かった(P<0.001)。 ベースライン時に非アルコール性脂肪肝を有していることも糖尿病の発症の有意な危険因子 であった(p<0.01)。女性の場合、閉経は糖尿病発症の有意な危険因子であった(相対危険率 1.61,95%信頼区間 1.25-2.07)。

表 2-12: 糖尿病発生と危険因子の多変量分析(2,277人)

危険因子	%	危険率	95%信頼区間
年齢 55~64 歳	23.2	1.92	1.38-2.65++
BMI ≥ 23	22.6	1.36	1.03-1.79
腹囲 男性>80cm, 女性>90cm	22.4	0.82	0.62-1.09
ベースライン時に空腹時血糖異常	27.4	3.14	2.45-4.02++
ベースライン時に高血圧を発症している	22.8	0.94	0.74-1.13
脂質代謝異常症の家族歴がある	242	1.12	0.84-1.48
糖尿病の家族歴がある	22.6	1.01	0.86-1.30
ベースライン時に非アルコール性脂肪肝を発症していた	28.6	1.54	1.21-1.98+

注釈: * p<0.05; + p<0.01; ++ p<0.001 出典: 深堀分析報告書(2012年)

c) 脂質代謝異常症

多変量分析による危険因子の検討ではシンハラ人および女性が独立した予測因子であった (表 2-13)。性別を調整した後では有意な相関は認められなかったものの、男女ともに若い年 齢層において脂質代謝異常症の発症率が多く見られた(表 2-14)。

危険因子	%	危険率	95%信頼区間
女性	71.3	1.39	1.18 - 1.62 ++
年齢 45~54 歳	63.3	0.96	0.79 – 1.16
年齢 55~64 歳	57.1	0.94	0.77 - 1.14
シンハラ	62.3	2.12	1.39 - 3.24 +
BMI >=23	65.1	1.06	0.912 - 1.24
ベースライン時に高血圧を発症している	58.1	0.88	0.76 – 1.03
ベースライン時に非アルコール性肝炎を発症してい	71.9	1.22	1.01 - 1.47
3			
定期的な喫煙習慣	54.7	0.92	0.74 – 1.16
定期的なアルコール摂取習慣	52.2	9.93	0.74 - 1.18
不満足な睡眠パターン	44.7	0.79	0.65 – 0.95 *

表 2-13: 脂質代謝異常症発生と危険因子の多変量分析(1,455人)

注釈: * p<0.05; + p<0.01; ++ p<0.001

出典: 深堀分析報告書(2012年)

左松屋	ベースライン	2010 年までの新		1000 人年あ	
年齢層	時に発症して	発症数	追跡人年	たりの発症	95% 信頼区間
性別	いない対象者	(%)		率	
男性	887	495	2725.29	181.63	(165.98-198.36)
35-44	154	101 (14.6)	484.23	208.58	(169.89-253.44)
45-54	305	167 (20.7)	935.47	178. 52	(152.47-207.74)
55-64	428	227 (33.9)	1305.59	173.87	(151.98-198.02)
女性	558	398	1728.53	230.25	(208.18-254.02)
35-44	108	85 (19.6)	337.80	251.63	(200.99-311.15)
45-54	207	157 (26.1)	640.79	245.01	(208.18-286.48)
55-64	243	156 (29.6)	749.94	208.02	(176.65-243.34)
総数	1445	893 (24.8)	4453.82	200.50	(187.57-214.10)

表 2-14: 年齢層・性別脂質代謝異常症の発症率

出典: 深堀分析報告書(2012年)

d) 高血圧・糖尿病・脂質代謝異常症の併発

ベースライン時の BMI が 23 以上(危険率: 1.63; 95%信頼区間: 1.05-2.53; p<0.05)や女性であること(危険率: 1.49; 95%信頼区間: 1.02-2.20; p<0.05)、あるいはベースライン時に非アルコール性肝炎を発症している(危険率: 1.72; 95%信頼区間: 1.13-2.62; p<0.05)ことが、それぞれ、高血圧と脂質代謝異常症の併発に対する独立した危険因子であった。

高血圧と糖尿病を併発する有意な独立危険因子はベースライン時の BMI が 23 以上(危険率: 2.11; 95%信頼区間: 1.13-3.92; p<0.05)、ベースライン時に非アルコール性肝炎を発症している(危険率: 2.50; 95%信頼区間: 1.41-4.45; p<0.05)、ベースライン時の年齢層が 45~54歳(危険

率: 2.07; 95%信頼区間:1.03-4.13; p<0.05) あるいは年齢層が 55~64 歳(危険率: 4.46; 95%信頼 区間:2.27-8.79; p<0.001)であることであった。

脂質代謝異常症と糖尿病を併発する有意な独立危険因子はベースライン時の BMI が 23 以上 (危険率: 1.53; 95%信頼区間: 1.05-2.23; p<0.05) やベースライン時に非アルコール性肝炎を発 症している(危険率: 1.64; 95%信頼区間: 1.06-2.54; p<0.05)ことであった。

高血圧と脂質代謝異常症及び糖尿病を併発する有意な独立危険因子はベースライン時の BMI が 23 以上(危険率: 4.16; 95%信頼区間: 1.45-11.93; p<0.05)であった。

e) 心血管イベント

多変量解析により、年齢層が上がることが心血管イベントの発症の独立した危険因子である ことが判明した。ベースライン時に45~54歳および55~64歳であった年齢層では心血管イ ベントが35~44歳の年齢層に比較してそれぞれ2.7倍および3.3倍高かった(表2-15)。また、 年齢層による影響を調整した後にも、高血圧は独立した心血管イベント発症の危険因子であ ることが示唆された。

表 2-15: 心血管イベントと危険因子に関する多変量分析

危険因子	%	危険率	95%信頼区間
年齢 45~54 歳	1.2	2.73	1.05-7.09*
年齢 55~64 歳	3.1	3.34	1.29-8.64*
ストレスの多い出来事があった自覚	4.7	0.67	0.43-1.05
高血圧	4.4	1.70	1.06-2.70*

注釈: * p<0.05; + p<0.01; ++ p<0.001 出典: 深堀分析報告書(2012年)

心血管イベントの相対危険度は高血圧・脂質代謝異常症・糖尿病のいずれかの疾病を併発することで有意に高くなり、相対危険度は 2.45 であった(95% 信頼区間: 1.62-3.71)。

(3) 食事プロファイル

表 2-16 に 2010 年の追跡調査時に実施した食事プロファイルによって明らかになった 1,917 名のカロリー摂取量、炭水化物や脂質およびタンパク質の占める割合、ナトリウム摂取の中 央値を示す。

	男性 (830人) 中央値 (四分位範囲)	女性 (1,087 人) 中央値 (四分位範囲)
カロリー摂取量 (Kcal)	2,950 (2,430-3,604)	2,370 (1,872-2,839)
炭水化物 (%)	72.7 (68.5-76.3)	72.7 (68.1-76.4)
脂質 (%)	16.5 (13.5-20.1)	16.8 (13.6-20.6)
タンパク質 (%)	10.4 (9.7-11.4)	10.2 (9.5-11.1)
塩分 (g)	7.6 (5.6-10.3)	6.1 (4.8-7.9)

表 2-16: 参加者の栄養摂取状況

注釈: 塩分摂取量は摂取ナトリウム量を 2.5 倍することで計算 出典: 深堀分析報告書(2012 年)

94%以上の男女において総摂取カロリーに占める炭水化物の割合が 60%以上であり、約 60% (1,271 人)は炭水化物の割合が 70%以上であった。総エネルギーの 60%以上を炭水化物より摂取している参加者において、脂質代謝異常症を有している割合は高く(オッズ比 1.64,95% 信頼区間: 1.02-2.65, p<0.05)、一方、糖尿病の有病率は有意に低いことがわかった(オッズ比 0.63,95% 信頼区間: 0.42-0.92, p<0.05)。

糖尿病を発症している割合は、総エネルギー量に占めるタンパク質の割合により有意に差が 出た。タンパク質の占める割合が 10.3%以上の対象者では 44.6%が糖尿病を有しており、 10.3%未満の対象者では 36.6%であった(オッズ比 1.397, 95%信頼区間: 1.16-1.68, p<0.001)。

約 18% (348 人)の対象者は塩分を一日に 10g 以上摂取していることが明らかになった。日 に 5g 以上摂取している割合は 75.1% (794 人)であった。しかし、塩分摂取量と高血圧の有 病率・発症率に有意な関係は認められなかった。

2.6 考察

2.6.1 NCD の有病率

本調査は高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症および心血管病の危険因子に関するスリランカ初 のコホート研究である。コホート調査は長期間にわたり同一集団を追跡し経年変化を追うた め、一度で終了する横断調査と比較し時間と費用がかかるため、これまでスリランカで実施 されてこなかった。コホート研究の強みは、リスクファクター曝露から疾病の発症までの過 程を時間を追って観察でき、その関係性を明らかにできる点や、リスクファクターの広範な 健康影響を調べることが可能な点がある。こうしたコホート研究をスリランカの院内死亡の 最大要因である心血管病に対して実施できた意義は高いといえる。

ベースライン時の糖尿病の年齢調整有病率は 19%であり、これまでに行われた他の研究と同 レベルであった(Katulanda, 2008²²)。一方、ベースライン時の高血圧の年齢調整有病率は、 これまでに発表されてきたスリランカにおける研究(Wijewardene, 2005²³, Katulanda, 2008)と 比べ、高い結果(男性 33%、女性 37%)であった。

これまでスリランカの高血圧有病率は国際標準と比べて低いと見なされてきたが(Engelgau, 2008²⁴)、本ベースライン調査で観察した有病率は先進国の平均有病率(男性 32.2%、女子 30.5%)とほぼ同じレベルであった²⁵。

スリランカの脂質代謝異常症の有病率に関するデータは非常に限られているが、総コレステ ロールの平均値は 200~236mg/dl のレベルと報告されており(SLMA, 2004)、また性別では女 性で有意に高い(Katulanda, 2008)との報告があり、本調査の結果もこれらの調査と同様の傾向 を示している。 総コレステロール平均値は男性で 205.3mg/dl、女性で 217.5mg/dl、LDL コレ ステロール平均値は男性 129mg/dl、女性 141.9mg/dl と女性で有意に高い結果となった。

²² Katulanda P., Constantine G.R., Mahesh J.G., Sheriff R., Seneviratne R.D., Wijeratne S., *et al.* (2008). Prevalence and projections of diabetes and pre-diabetes in adults in Sri Lanka - Sri Lanka Diabetes, Cardiovascular Study (SLDCS). *Diabet Med.* 25(9): 1062-9.

²³ Wijiwardene, K, *et.al*, 2005, "Prevalence of Hypertension, Diabetes and Obesity: Baseline Findings of a Population-based Survey in Four Provinces in Sri Lanka", Ceylon Medical Journal 50 (2); 62-70.

²⁴ Engelgau, Michael, et al. 2010. Prevention and Control of Selected Chronic NCDs in Sri Lanka: Policy Options and Action, HNP Discussion Paper. Washington DC: World Bank.

²⁵ Ibrahim , M. Mohsen, and Damasceno, Albertino. 2012 "Hypertension in developing countries". Lancet; 380:611-619

2.6.2 危険因子

加齢及び高血圧は、心血管イベントに対する独立した危険因子であることが本調査において も示された。二変量分析では、高血圧、脂質代謝異常症及び糖尿病の併病および脂質代謝異 常症の存在が心血管イベントの発症を有意に高めていることが示唆された。

加齢、運動不足、糖尿病の存在および BMI25 以上は高血圧発症の独立した危険因子であった。 また、年齢の増加、空腹時血糖異常症、非アルコール性肝炎は糖尿病発症の有意な危険因子 であった。シンハラ人および女性であることは本調査では脂質代謝異常症発症の有意な危険 因子であった。

本調査の結果は、高血圧および糖尿病の早期発見が、特に高齢者において、心血管予防戦略 上で重要であるという事実を強固にしたといえる。さらに、BMI が 23 以上であることが高血 圧、糖尿病あるいは脂質代謝異常症を併発する有意な危険因子であることが本調査で明らか になった。このことは、心血管病イベントリスクを軽減する上で、保健指導や健康増進活動 において BMI を 23 未満に下げることを一つの目標設定として活用できることを示唆してい る。

本調査で用いた食生活質問票は簡易な質問票であるため精度に限界があることを念頭におき つつ、本調査では、これまでにスリランカで行われた調査(Jayawardena, 2012²⁶)に比べ、高 いエネルギー摂取状況(男性の中央値 2,950kcal、女性の中央値 2,370kcal)が報告された。ス リランカでは、一日の総エネルギー摂取の 50~65%を炭水化物、10~15%をタンパク質、15 ~30%を脂質からとり、5g 未満の食塩を摂取することを推奨している²⁷。本調査では、一日 の総エネルギー摂取の平均が炭水化物 73%、タンパク質 10% 、脂質 17%、及び塩分摂取量 が男性 7.6g、女性 6.1g という結果となった(表 2-17)。

	推奨量	本調査結果(平均値)
炭水化物	50~60%	73%
タンパク質	10~15%	10%
脂質	15~30%	17%
塩分	5g 未満	男性 7.6g、女性 6.1g

表 2-17:一日の総エネルギー摂取に占める割合および一日の塩分量

出典:深堀分析報告書(2012 年)、Food Based Dietary Guidelines for Sri Lankans (2011 年)

南アジア地域における研究²⁸では、比較的高い炭水化物摂取習慣が報告されており、炭水化物の高い摂取量は高インスリン血症や血清トリグリセロールの上昇、HDL コレステロールレベルの低下を引き起こす可能性も指摘されている。また、本調査では炭水化物摂取量と脂質代謝異常症の罹患状態に有意な関係性が示唆された。本調査で見られた炭水化物の比較的低い

²⁶ Jayawardena, R., Swaminathan, S., Byrne, Nuala M. *et al.*, (2012). Development of a food frequency questionnaire for Sri Lankan adults. *Nutrition Journal*, 11(1),63.

²⁷ Ministry of Health, Nutrition Division, Sri Lanka.2011. Food Based Dietary Guidelines for Sri Lankans. Colombo

²⁸ Misra A., Khurana L., Isharwal S. & Bhardwaj S., South Asian diets and insulin resistance. Br. J Nutrition 2009, 101(4), 465-473.

摂取状況と糖尿病の罹患状態の関係は、糖尿病患者が治療の一環として栄養指導を受け、食 生活を改善していることが理由として推測できる。脂質代謝異常症と脂質摂取量の間には有 意な関係性は認められなかった。これは、スリランカでは脂質摂取量自体よりも、飽和脂肪 酸の割合が多価不飽和脂肪酸の割合と比べて推奨割合の 1:1 よりも高いことが脂質代謝異常 症の発症に関与していることを Abeywardena (2003)²⁹が指摘している。本調査では、脂質の 種類については調査しておらず、飽和脂肪酸と多価不飽和脂肪酸の割合は不明であった。

2.7 提案

以上の結果を踏まえ、以下の提案を行った。

- 本調査では食事のバランスの偏りや比較的高エネルギー摂取状況、運動不足の傾向が見られた。BMI23 以上が心血管イベントの有意な危険因子である事実を踏まえ、バランスの良い健康的な食事と健康のための運動を推進し、BMI を 23 未満に維持することが推奨される。
- 2) 高血圧が心血管イベント発症に大きな影響を及ぼしている事実を踏まえ、妊産婦クリニック³⁰や公衆衛生観察官(以下 PHI³¹)の事務室、保健所や病院など地域で定期的に血圧測定ができる環境を創ることを提案する。糖尿病は高血圧発生の危険因子であり、空腹時血糖異常は糖尿病の有意な危険因子であることより、健診で空腹時血糖異常が見つかった住民に対し、保健指導により糖尿病及び高血圧発生の予防を目指すことが重要である。
- 3) 高齢化は高血圧、糖尿病及び心血管イベントの有意な危険因子であるため、健診では特に 55歳以上の高齢者を優先的に扱うことが推奨される。
- 4) 脂質代謝異常症・高血圧・糖尿病の併発は心血管イベント発症リスクを有意にあげている。 このため、健診で発見された高血圧患者及び糖尿病患者に対しては脂質検査を実施するこ とが望ましい。
- 5) スリランカの心血管イベント発症率を明らかにするためには、長期間の追跡調査を行う必要があり、本調査対象人口の追跡を継続することを提案する。

2.8 調査の限界

本調査の限界として、十分な数の心血管イベントの発症を追跡するには調査期間が短かった 点があげられる。本調査は、脂質代謝異常症および糖尿病と心血管イベントの間に有意な関 係性を検証するための統計的検出力を有さなかった。食習慣は重要な危険因子の一つであり、

²⁹ Abeywardena, M.Y., 2003, Dietary fats, carbohydrates and vascular disease: Sri Lankan perspectives, Elsevier Ireland Ltd.

³⁰ Antenatal clinic

³¹ Public Health Inspector のことで、保健所に所属している。

それゆえにスリランカの食事に由来する特有な危険因子の発見も期待されたものの、本調査で使用した食事質問票では、脂質の種類別摂取状況や糖分の摂取量の把握など詳細な情報を得ることは困難であった。

第3章 NCD 予防のための NPP モデル

第1章で述べたとおり、本プロジェクトの目的は、効果的かつ効率的な NCD の予防管理モデ ルを作ることである。NPP のモデルは、①健診、②保健指導、③ヘルスプロモーション、お よび④啓発活動の4構成であり、ポスターやバナー等を見て健診所に行き、自分の健康状態 を知る、リスクが発見されれば早期治療や生活改善を行い、健康的な生活環境で健康を維持 しつつも、定期的にポスターやキャンペーン等で啓発され、健診を受けるというサイクルを 提示している。



図 3-1: NPP モデルの概念図

注釈: IEC: Information, Education and Communication

NPP モデルは、NCD 政策の9つの戦略の内、特に戦略2と4の実現を支援するものである。

- ▶ 戦略 2: NCD 特に心血管病の予防のためのコスト効果の高い健診プログラムを導入する
- ▶ 戦略 4: NCD の予防と管理のため、健康的な生活を送れるようにコミュニティをエンパワ ーする。

本章では、各モデルがどのような過程をへて形成され、どのように NCD 予防ガイドラインに 取り纏められたかを説明する。なお、本章はアウトプット 2 のガイドラインの作成(コスト 分析を含む)と、アウトプット 3 のフィージビリティテスト(モデルの試行)を合わせて報 告する。

3.1 健診モデル

3.1.1 健診モデルの形成過程

健診モデルの作成にあたり、具体的な議論をする場として TWG の下に健診サブグループ及
び保健情報サブグループを組織した。サブグループのメンバーは保健省カウンターパートや パイロット地域の MO/NCD の他に、医師会、コロンボ大学医学部、ケラニア大学医学部、及 び WHO の NCD 担当官を含めた。サブグループの議長は2名体制とし、健診サブグループは 医療サービス第1部および第2部の部長が、保健情報サブグループは公衆衛生第1部の部長 と計画部の部長が務めた。プロジェクトの1~2年目は、どちらのグループも頻繁に会合を持 ち、スリランカに適したモデル策定に集中的に取り組んだ。対象県においては、RDHS にて サブグループが提案するモデルの実施可能性に関する議論を行い、その結果をサブグループ にフィードバックし、モデルの修正を行う体制をとった。図 3-2 に、健診モデル形成体制を 示す。





3.1.2 健診モデルの変遷

NPP は図 3-3 に示すとおり、プロジェクト期間中、3 つの健診モデルを形成した。1 年目はモ デルと健診指針をサブグループで素案し、3 ステップモデル(図 3-4)を 2009 年 1 月から 3 月まで、クルネガラ県とポロンナルワ県で試行した。対象保健医療機関の職員は健診になじ みがないため、研修後、対象 MOH エリアの全保健関係者を対象に健診を行った。1 年目の終 わりには、研修に使用した資料や試行中に作成した資料を健診マニュアル案として冊子に取り纏めた。

フィージビリティーテストの結果は2年目の初めに健診サブグループで検証され、目標達成のためにはモデルを修正する必要があると結論づけられた。このため、3ステップモデルは2ステップモデル(図 3-5)に修正され、2009年7月から2011年12月までポロンナルワ県にて試行した。

一方、人口密度の高いクルネガラ県では2ステップモデルの導入に当たり、同モデルの検査 内容では、都市住民の参加が見込めず、またステップ1の健診を実施する MOH 職員の負担 が重過ぎるとの判断より、1ステップモデル(図 3-6)の導入が RDHS より提案され、2009 年8月より施行することとなった。

2年次に作成した健診マニュアルは2ステップモデルと1ステップモデルを対象にしている。 両モデルのフィージビリティーテストに対しては、中央保健省も現場視察を何度も行い、健 診サブグループや NCD ユニットが結果の検証を行った。

プロジェクト4年目には対象県の健診マニュアルの使用状況を調査し、マニュアル最終化に 向けて必要な作業のリストアップ作業を行うため、NCDユニット、家族健康課 (Family Health Bureau)、コロンボ大学医学部地域医療科の教授、専門家で構成した協議委員会を設立し、最 終提案書の作成を行った。この提案書内容を受け、2012年に健診マニュアルを最終化した。



図 3-3: 健診モデルの形成工程

図 3-4:3 ステップモデル



図 3-5:2 ステップモデル (ポロンナルワモデル)







パイロット地域におけるフィージビリティーテストの結果を基に、保健省が検討を重ね、 全国展開に向けた健診モデルとして1ステップモデル(クルネガラモデル)に若干の修 正を加えたもの採用した。後述のとおり、2ステップモデル(ポロンナルワモデル)の 効率性とフィージビリティは認められているものの、以下の点について保健省内で根強 い反対意見があり、同モデルの全国展開は見送られることとなった。

- ▶ 母子保健を業務とする助産師に NCD 健診の体系的リクルートメント及び健診実施 を依頼することの可否
- ▶ 助産師が電子血圧計測定をし、その結果により最初のスクリーニングを行う可否³²

各健診モデルの主要な特徴をまとめた表を 3-1 に示す。

³² スリランカでは血圧測定は主に医師の業務と位置付けられており、病院の看護師が血圧測定をすること は許容されているが、助産師の測定は正式には認められていない。ただし、現場においては、実質行われ ている地域も存在する。

	3 ステップモデル (1 年目のモデル)	2 ステップモデル (ポロンナルワモデル)	1 ステップモデル (クルネガラモデル)	最終モデル (NPP ガイドラインモデル)
試用期間	2008-2009	2009-2011	2009-2012	2012-
対象人口	20 歳以上全員	高血圧、糖尿病、脂質代謝異常症、) 40~75 歳	脳卒中や虚血性心疾患の既往歴がない	1 ステップモデル及び 2 ステップモ デルに同じ
検査項目	 (ステップ1) 症状の有無 既往歴 喫煙 家族歴 BMI 腹囲 血圧 空腹時血糖(毛細血) (ステップ2) 空腹時血糖(静脈血) 総コレステロール (ステップ3) 医師による診断 	 (ステップ1) 生活習慣に関する質問:タバ コの使用、運動、野菜と果物 の摂取状況 BMI 血圧 (ステップ2) 空腹時血糖(毛細血) 血圧 	 生活習慣に関する質問:タバコ の使用、運動、野菜と果物の摂 取状況 BMI 血圧 空腹時血糖(毛細血) 	 生活習慣に関する質問:タバコ の使用、運動、野菜と果物の摂 取、アルコール摂取 BMI 血圧 空腹時血糖(毛細血) (任意) 床たんぱく試験 総コレステロール
対象者/参加者 のリクルート 方法	実施トレーニングとして対象保健 医療施設の職員	対象保健所職員が住民を地域別に 体系的 ³³ にリクルート	対象医療施設が、実施可能なリクル- けるリクルート、保健所職員によるリ	- ト方法を選択。外来クリニックにお クルート、看板で周知する、など。
リファーする 基準	疾病が疑わしい全ての参加者		3~6カ月以内、1年以内にリファー 症状によりレベル分けし、優先順位を	「プライマリケアにおける NCD 管 理ガイドライン(トータルリスクア プローチ)」に従う。

表 3-1: Major changes in check-up strategies and reasons

³³ 道路順、地域別等の規則を各助産師が決め、その法則に則ってリクルートをする。

3.1.3 情報システム

(1) 健診で収集する情報

保健情報サブグループおよび健診サブグループは 5 つの情報(参加者数、血圧 140/90mmHg 以上、毛細血血糖値 110mg/dl 以上、BMI23 以上、リファー数)に絞って NCD ユニットが収 集すべきと提案した。しかしながら、プロジェクト期間中に、収集する情報が追加され、最 終的に図 3-7 に示した情報を収集することが決定された。

図 3-7: 県から保健省中央に送られる健診に関する情報



(2) 情報の流れ

フィージビリティーテストでは、MO/NCD の仕事負担を考慮し、MOH エリアごとに保健所 がデータを集計し、RDHS に送付する方法を試みた。この方法は、ポロンナルワ県では有効 であったが、保健所よりも RDHS へのアクセスが良好であったクルネガラ県では機能しなか った。このため、図 3-8 に示すように各医療施設が個別に RDHS に月例報告書を送る体制が 最終的に採用された。

	検診日	次の月の5日 までに	次の月の20日 までに	次の四半期の最初 の月の25日までに
新建物	◆登録簿 ◆日報	◆月報		
果果就是			◆月報	◆ 四半期報 課題 提出
着 単成 系			+	4
(NCD) () () ()			+	I

図 3-8:健診情報の流れ

(3) 健診レジストリーとその他の健診様式

2009年に保健情報サブグループ及び健診サブグループにおいて、健診レジストリーや健診に 関連する様式を作成し、対象地域で試験的は導入を進めた。パイロット地域の活動を基に、 NCDユニットはヘルシーライフスタイルセンターで使用する登録簿及び様式を表 3-2 の通り 作成した。

書式	保健省登録番号	詳細
ヘルシーライフスタイルセンター参加	H1236	ヘルシーライフスタイルセンターにおい
者登録簿		て健診参加者の基礎情報および健診結果
		を記録。
フォローアップ登録簿	H1237	健診後のフォローアップ状態を記録。
NCD 健診活動日報	H1238	H1236 のデータを日ごとにまとめた報告
		書。院長あるいは看護師が記録。
NCD 健診活動月報	H1239	院長が月末に用意し、来月 5 日までに
		RDHS に複写を提出。
NCD 健診県月報	H1240	RDHSのMO/NCD が回収したH1239を集
		計し、来月25日までに州保健局および保
		健省 NCD 課に複写を提出。
NCD 健診県四半期報	H1241	RDHSのMO/NCDが回収したH1240を集
		計し、四半期ごとに25日までに州保健局
		および保健省 NCD ユニットに複写を提
		出。

表 3-2: ヘルシーライフスタイルセンターで採用されたレジストリーおよび書式

出典: Guideline for the Establishment of Healthy Lifestyle Centers (HLCs) in Healthcare Institutions, Ministry of Health (2012)

3.1.4 治療方法

健診モデルの作成に関する協議では、一貫して費用対効果の観点より心血管病発症リスクを 総合的に評価する必要性が強調された。治療方法とリファラル・バックリファラル基準は、 保健省発行の高血圧治療指針や糖尿病治療指針を作成した専門家を招き、度重なるサブグル ープ会議の結果、合併症のないケースはプライマリケアで治療を行うことを最終的基本方針 として決定した。

保健省は、プロジェクト4年次に、「プライマリヘルスケアにおける NCD 管理ガイドライン (トータルリスクアプローチ)」をセイロン内科学会³⁴やスリランカコミュニティ内科学会³⁵、 開業医学会³⁶、WHO および本プロジェクトとともに作成した。ガイドラインの基本方針はプ ロジェクトで先に作成した治療ガイドライン同様に、合併症のないケースはプライマリケア で治療することとした。保健省は同ガイドラインの全国導入を 2012 年に決定し、プロジェク ト対象地域においても 2012 年より導入を開始した。

³⁴ Ceylon College of Physicians

³⁵ College of Community Physicians of Sri Lanka

³⁶ Collecge of General Practitioners of Sri Lanka

3.1.5 リファラル及びバックリファラル体制

スリランカの既存の医療体制の中でリファラル・バックリファラル体制を構築することは以 下の理由により困難であった。

- ▶ スリランカの保健医療体制では患者が治療を受ける病院を自由に選べる
- リファラル・バックリファラルの情報は健診実施者および患者が所有・管理することは容易であったものの、リファラル先及びバックリファラル先の病院において情報管理を行うことが難しい

しかしながら、プロジェクトはリファラル・バックリファラル体制が限られた資源を必要な 患者に適切に配分する上で有効な概念であると考え、リファラル及びバックリファラル基準 策定を支援してきた。具体的には、パイロット地域において患者の治療ノートに押すリファ ラル情報スタンプ、及びリファラル冊子を導入するなどいくつかのツールを試行した。ヘル シーライフスタイルセンターの設置にあたり、リファラル冊子はヘルシーライフスタイルセ ンターで患者に渡される医療記録票に統合され、リファラル情報スタンプは一つの選択肢と して残ることとなった。

3.2 対象地域におけるフィージビリティーテストの結果

クルネガラ県とポロンナルワ県でフィージビリティテストを行う MOH エリアを選定するに あたり、次の4つの基準を採用した。その後、MO/NCD と専門家が候補となった保健医療機 関を訪問し、状況確認及び施設長との協議を行った。

- ▶ 生活習慣病はその地域の健康問題である
- ▶ 他地域と比べて人口密度が粗ではない
- ▶ 治療のためにリファーできる二次医療施設が地域内に存在する
- ▶ 複数の種類の一次医療施設が存在する

状況調査を基に RDHS と協議を行い、ポロンナルワ県ではメディリギリヤ MOH エリアを、 クルネガラ県ではナランマラ MOH エリア³⁷をフィージビリティーテスト実施場所と決定した。

3.2.1 クルネガラ県のフィージビリティーテストの結果

クルネガラ県は1ステップ健診モデルを2009年8月より導入し、2012年10月までに対象人 ロの53%(男性22%、女性83%)がアラッワ及びナランマラ MOH エリア内の9つの保健医 療施設(1基幹病院、3地区病院³⁸、3一次医療ユニット³⁹、2保健所)にて身長・体重・BMI

³⁷ナランマラ保健管区がプロジェクト2年目にアラッワとナランマラに分割されたため、プロジェクトは両地域を クルネガラ県の対象地域とした。

³⁸ Divisional Hospital、以前の県病院および農村病院

³⁹ Primary Medical Care Unit、以前の中央診療所

計算、血圧測定、空腹時血糖測定、及び保健指導を受けた。2 つの保健所はコミュニティお よび職場で健診を実施し、他の医療施設は医療施設内で健診を実施した。

高血圧の有病率は男性で26%、女性で25%、高血糖(空腹時血糖が110mg/dl以上)の有病率は男性で18%、女性で16%であった。心血管イベントリスクが20%以上の患者を一人発見するために必要な健診参加者数は男性33名、女性29名であった。健診健診時には医師や保健職員による一般保健指導が参加者全員に対して行われた。

3.2.2 ポロンナルワ県のパイロットテスト結果

ポロンナルワでは、2009 年 7 月より 2 ステップ健診モデルの試行を開始し、2011 年末⁴⁰まで に対象人口の 42% (男性 23%、女性 66%)が健診を受診した。ポロンナルワモデルでは、 助産師 (Public Health Midwife)が自分の担当地域の対象年齢人口をリクルートし、まず、地 域内の妊産婦クリニックセンターでステップ 1 健診を行う。実施者は助産師と公衆衛生検査 員 (Public health Inspector:PHI)で、身長・体重・BMI 計算、血圧測定、及び保健指導を行っ た。ステップ 1 で血圧が 140/90mmHg 以上の参加者のみステップ 2 に進み、血圧と血糖値の 測定、保健指導が 4 つの医療施設 (1 基幹病院、3 一次医療ユニット)にて実施された。

ポロンナルワでは、高血圧の有病率は男性で 29%、女性で 32%、また、高血糖(空腹時血糖 が 110mg/dl 以上)の有病率は男性で 6%、女性で 9%であった。心血管イベントリスクが 20% 以上の患者を一人発見するために必要な健診参加者数は男性 63 名、女性 53 名であった。一 般保健指導はステップ 1 実施時に公衆衛生検査員や助産師によって全参加者に対して行われ た。人手不足により、一次医療ユニットにおいてはステップ 2 実施時に保健指導を実施する ことは不可能であった。しかし、患者のフォローアップ時に職員が心血管イベント高リスク 者に対して BMI 計算をし、経過のモニタリングを行う体制が徐々に整えられている。人手の ある基幹病院ではステップ 2 においても保健指導が実施された。

3.3 健診の初期の影響

健診の初期段階における影響を評価するためにプロジェクト期間中に以下の二つの調査を実施した。

3.3.1 心血管イベント高リスク者追跡調査

(1) 目的

健診に参加した心血管イベント高リスク者の現在の状態を把握する

⁴⁰保健省が病院にヘルシーライフスタイルセンターを導入することを決定したことに伴い、ポロンナルワ県のパイロットテストは2011年末で終了した。

(2) 調査時期

2012年1月~12月(準備期間、分析期間、再調査期間を含む)

(3) 方法

2009 年8月から2010 年10月まで健診を受けた全参加者のうち、心血管イベントリスク判定 が20%以上であった者を高リスク者とみなし、健診レジストリーより抽出した。生活習慣の 改善や心血管イベントリスクに関する知識、治療状況及び現在の心血管イベントリスクを質 問票および体重・血圧・血糖値測定により調査した。質問票はプロジェクトと保健省ユニッ トで協議を行った上で作成した。

(4) クルネガラ県の追跡調査結果

追跡調査の対象期間中に、ナランマラ MOH エリアおよびアラッワ MOH エリアにおいて 6,867 人が健診に参加した。このうち、228 人(3.3%)が心血管イベント高リスク者であった。ポ ロンナルワ県と同時期に追跡調査を開始したが、追跡調査で現在の心血管イベント危険度の 状態まで確認できた対象者は 31 名(13.6%)、電話で少なくとも健診後の状態を口頭で確認 できた対象者は 13 名(5.7%)であった。追跡調査がポロンナルワ県と比べ低くなった主な 理由は、以下の 2 点であった。

- 健診レジストリーに記載された住所が不完全であったため、対象者の家を住所より探す ことが困難であった。また、健診登録簿に電話番号の記載があったのは 30%未満であった。
- クルネガラ県では、PHIや PHM などのコミュニティヘルスワーカーが、健診のリクルートや健診実施に関わっていない地域が多く、このため追跡調査実施時に彼らの支援を得ることが困難であった。

健診時の心血管	健診	追跡調査でカバーされた人数				追跡不可
イベントリスク	参加者数	電話	訪問	総計 (カバー率)	死亡者数	能者数
20%-<30%	94	6	11	17(18.1%)	0	77
30%-<40%	87	3	9	12(13.8%)	0	75
≧40%	47	4	11	15(31.9%)	0	32
Total	228	13	31	44(19.3%)	0	184

表 3-3: アラッワ/ナランマラ MOH エリアにおける追跡調査数

表 3-4 に示す通り、追跡調査で確認できた高リスク者の心血管イベントリスクは、一人4を除

⁴¹ この一名は、血糖値の調整は治療で達成されたが、血圧は高く、このため心血管イベント危険度が 30~40%未 満の状態のままとなっている。

き全員、現在は改善されていることが確認できた。調査で確認できた 44 名のうち、12 名は 薬治療ではなく生活習慣の改善を指示され、薬を処方された 32 名は全員薬治療を続けている ことが確認できた。

健診時の心血管イベン	現在の心血管イベント リスク		治療		
トリスク	低下	変化なし	継続中	医師の判断で 終了	自己判断で停 止中
20%-<30%	11	0	11	6	0
30%-<40%	8	1	7	5	0
≧40%	11	0	14	1	0
Total	30	1	32	12	0

表 3-4: 高リスク者の現健康状態と治療状態

注釈:治療状況は電話確認の対象者も含むため、現在の心血管イベントリスクの母数と異なる。

本調査で確認できた高リスク者の多くが、自分の理想体重、血圧、血糖値を知らないと回答 している(知らない人の割合は順に 86%, 82%, 95%)。自分の心血管イベントリスクを認識し ている対象者は 25%にとどまり、健診時の保健指導で得た知識としては、減塩と野菜・果物 摂取量の増加、糖質の制限の必要性について記憶している人が半数以上いた(記憶している人 の割合は順に 77%, 61%, 57%)。食習慣の改善に関する情報と比べ、運動習慣の改善に関する 情報を得たと記憶している対象者は 30%にとどまった。

また、本調査と別に、クルネガラ RDHS の NCD セルでは四半期ごとにメディカルクリニック で治療を受けている割合を確認する仕組みの導入に取り組んでおり、2012 年四半期の集計で は 78%の心血管イベント高リスク者が治療を受けていると報告されている。

(5) ポロンナルワ県の追跡調査結果

調査対象期間中の健診受診者数は1,937人で、そのうちの61名(3.1%)が心血管イベントリ スク20%以上の高リスク者だった。追跡調査はメディリギリヤMOHの協力を継続的に受け、 滞りなく行われた。メディリギリヤ MOH 所属の全助産師が、健診レジストリーより高リス ク者の住所を割り出し、世帯訪問で調査目的の説明を行った上で、後日体重測定、BMI 計算、 空腹時血糖値、血圧測定を行った。

表 3-5 は心血管イベントリスクごとに対象者のカバー状況を示す。追跡対象者のうち、4名の 死亡が確認され、また別の4名が引っ越しにより追跡不可能であったが、追跡調査カバー率 は86.9%に達した。ポロンナルワ県で高いカバー率を達成できた理由として、本追跡調査を 行った助産師が健診実施にあたり道順に沿ってリクルートを行い、健診登録簿に住所を記載 しているため、同登録簿から実際に住居を探すことが容易であった点があげられる。

健診時の心血管イベン ト危険度	健診参加者数	追跡調査でカバー された人数	死亡者数	追跡不可能者数
20%-<30%	24	20 (83.3%)	1	3
30%-<40%	18	15 (83.3%)	2	1
≧40%	19	17 (89.5%)	1	1
Total	61	52 (85.2%)	4	4

表 3-5: ポロンナルワ県メディリギリヤ保健所管轄区における追跡調査の参加者数

表 3-6 に示す通り、薬治療を指示された高リスク者 45 名のうち 32 名(71.1%)が治療を継続 しており、7 名(28.1%)が自己判断で治療を止めていることが判明した。一方、追跡調査で カバーできた 52 名のうち、7 名(13.5%)は薬治療の必要性はなく、生活習慣の改善が指示 されていた。健診後も 90%の参加者は治療を継続していることが明らかになった。また追跡 調査された心血管イベント高リスク者全員の心血管イベント危険度は、現在改善されている ことが判明した。

心血管イベントリスク 治療状況 危険度 健診時の心血管イベン ト危険度 医師の判断で 自己判断で 改善 変化なし 継続中 停止中 終了 20%-<30% 20 7 0 9 4 30%-<40% 11 15 0 0 4 ≧40% 17 0 12 3 2 Total 52 0 32 7 13

表 3-6: 心血管イベント高リスク者の現健康状態と治療状態

一方で、追跡調査の対象の高リスク者の多くが、自分の理想体重、血圧、血糖値を知らない ことも判明した。健診時に生活習慣の改善を指導されたことを覚えている対象者が多い一方 で、自分の心血管イベントリスクを認識している者は少なかった。健診時の保健指導で得た 知識として、減塩と野菜・果物摂取量の増加を覚えている人が多かった。食習慣の改善に関 する指導内容と比べ、運動習慣の改善に関する指導を受けたと記憶している対象者は少なか った(表 3-7)。

表 3-7: 生活習慣に関する指導を記憶している人数

	その知識を有している人数	その知識がない人数
	(%)	(%)
理想体重	9 (17.0%)	44 (83.0%)
理想血圧	8 (15.1%)	45 (84.9%)
理想血糖值	5 (9.4%)	48 (90.6%)
現在の心血管イベントリスク	25 (47.2%)	28 (52.8%)
砂糖摂取の削減	27 (50.9%)	26 (49.1%)

減塩	45 (84.9%)	8 (15.1%)
野菜・果物摂取量の増加	45 (84.9%)	8 (15.1%)
たばこ不使用	19 (35.8%)	34 (64.2%)
アルコール飲料の不摂取42	6 (11.3%)	47 (88.7%)
運動量の増加	23 (43.4%)	30 (56.6%)

3.3.2 健診が住民の健康増進行動に与えた影響

ポロンナルワ県メディリギリヤ MOH エリアにおいて、2010 年 7~8 月に行動変容に関する調 査⁴³が実施された。調査対象期間中、254 名(男性 36.6%)がメディリギリヤ MOH エリアで 健診を受けた。健診前には健診参加者のほぼ半数が食習慣(男性 50.5%、女性 47.2%)及び健 康のための運動習慣(男性 54.8%,女性 47.2%) に関し無関心期ステージ⁴⁴だったが、3 か月 後の追跡調査時には 70%以上が実行期(食習慣:男性 80.2%、女性 83.2%;運動習慣:男性 72.5%、女性 70.8%)に移行していることが確認された。最も大きく変化が見られたのは食 習慣の改善であり、脂質摂取の制限(73.9%)、減塩(70.8%)、糖質の制限(60.9%)であっ た。運動習慣に関する行動変容に比べ、食習慣に関する行動変容のほうがより多数の女性に おいて改善が報告されている。健診時の保健指導の内容をよく理解した参加者において、理 解が難しかったと回答したとした参加者に比べ、食習慣および運動習慣に関し、より望まし い行動変容が起こっていることが確認された。

本調査では、健診が参加住民の健康増進行動に良い影響を与えていることが、特に保健指導 内容を理解している住民において示唆された。本調査の限界として、事前・事後調査のスパ ンが短い点があげられ、本調査で観察された行動変容が健康状態の改善や高血圧、糖尿病、 脂質代謝異常症及び心血管イベントの発症予防に寄与するためには、今後も行動変容が長期 間にわたって維持される必要がある。健診参加者は各々の心血管イベントリスクに従い定期 的に健診を受ける必要があり、この定期健診を実施する際に、健診が参加者の行動や健康状 態にどのように寄与しているかをモニタリングすることが望ましい。

3.4 保健指導モデル

3.4.1 モデル作成経緯

保健指導については 1~2 年目ヘルスプロモーション/保健指導サブグループがフリップチャ ートの作成に尽力し 2 年目に試用を行い、フィードバックを取り入れながら修正を繰り返し 3 年目終了時には最終版を完成させた。その頃までにはパイロット地区における健診後の一

⁴² 飲酒に関し、スリランカ保健省は「適度な飲酒」ではなく「不摂取」を推奨している

⁴³ 小山(2011)

⁴⁴ 行動変容ステージモデル(Transtheoretical Model of Behaviour Change)では、人が行動を変える場合には、「無 関心期」「関心期」「準備期」「実行期」「維持期」の5つのステージを通ると考えられている。

般集団指導はほぼ問題なく定着し、議論はフォローアップ保健指導の導入法、実施要領へと 移行した。3年目以降サブグループは解散したが、主要メンバーであった保健省保健教育課

(Health Education Bureau: HEB)、NCD ユニット、PM である計画局部長が協議を継続し「高 リスク者に対し年数回のフォローアップ保健指導を実施する」とのコンセンサスは固まった ものの、医師 1 人と無資格職員数名の診療所や専任スタッフの少ない病院などで標準化を図 るのは難航した。しかし各施設で行われた手探り状態でのフォローアップ保健指導は、保健 省中央の協議に大いに貢献し、4 年次終了時には高リスク者の定義が確定し、また 5 年次に は医師会/学会の協力を得て完成させた「Total Risk Assessment Approach」に基づく NCD 管理 ガイドラインを基にリスクの程度に応じたフォローアップ時期も確定した。NCD ユニットは この基準を基に正式なフォーマットを発行し全国に配布中である。

表 3-8:一般向け集団保健指導

対象者	≻	HLC に限らず CVD 健診が行われた際、結果を手にした参加
		者が最低1度受ける保健指導
内容	≻	一般的な CVD 関連疾患に関する知識や予防法、自分のリスク
		の評価法などを含む。
施行者	\checkmark	研修を受けた病院・保健職員
実施時期	>	健診後
形式	\checkmark	1人の実施者に対し参加者 20~30人程度。
	≻	フリップチャートを用いて対話、グループでの協議を取り入
		れる。
時間	>	すべての話題をカバーできる程度(45~60分)

表 3-9:フォローアップ保健指導

対象者	\triangleright	健診中、CVD リスク評価で高リスク(10 年 CVD リスク 20%
		以上)と診断された者、または CVD リスク評価では低〜中リ
		スクだが医師の判断でフォローアップが必要と判断された者
		(高度肥満など)が受ける数回にわたる保健指導。
内容	\succ	一般向け集団保健指導の内容に加え、個別動機づけ、観察、
		維持などの要素を含む。これらは保健省 HEB が中心となって
		指導するコミュニケーション能力の研修に含まれている。
施行者	\triangleright	医師、教育看護師、保健教育担当者など
実施時期	≻	NCD 管理ガイドラインにより10年 CVD リスク30%以上の者
		は 3 か月後、20%以上 30%未満の者は 6 か月後、HLC で再度
		必要な検査と CVD リスク評価を受け、その際フォローアップ
		保健指導を受けることとなる。
形式	\triangleright	個別または小グループでの面接
時間	4	少なくとも1人当たり5分程度

3.4.2 保健指導のためのツール

(1) フリップチャート

ヘルスプロモーション・保健指導サブグループは、現存する IEC 教材などを検討、協議した 結果、フリップチャートを保健指導のツールとして採用した。その理由として、集団の注意 を一点に集中させ、イラストや短いヘルスメッセージが指導内容を分かりやすく伝えるのに 適していることが挙げられる。プロジェクト1年目は、1)導入、2)食事、3)運動、4)禁煙、5) まとめの5章、4分冊、計100ページ近くの内容であった。これはフリップチャートが集団 指導のあとのフォローアップ個別指導にも使われることが想定されていたためである。しか し運営指導の時に「血糖検査のため朝食抜きで来ている参加者に対し、長時間の保健指導は 望ましくない」と指摘されたため、健診後の一般集団保健指導のツールに適した21ページを 選別した。

さらに、開発当初は前面に対象者向けのイラストとメッセージ、背面に指導者向けの指導要 項を印刷していたが、指導者の注意が参加者から逸れるのを避けるため、完成版は前面のみ となった。こうして完成したフリップチャートはパイロット地区のみでなく保健指導が行わ れている他の県へも徐々に配布されることとなった。現在 PC とプロジェクターを備える施設 も増え、デジタルデータを用いることにより、より大画面で保健指導が行われるようになっ た。

項目		ページごとの内容	時間(分)	ページ番号
導入	٨	自己紹介とあいさつ	2	1 (表紙)
心血管病とは?	≻	心血管病とは?	5	2, 3, 4
	\triangleright	私たちは調べて防ぐことができる		
	\triangleright	減らせるリスク、減らせないリスク		
肥満はなぜ悪いか?	\triangleright	肥満は様々な疾患を引き起こす	3	5, 6, 7, 8
	\triangleright	食物と運動のバランス		
	۶	食事を選ぶことの重要性		
	\triangleright	砂糖がどうやって血管を詰まらす		
		か?		
心血管病予防にいい食事と	۶	必要な炭水化物	5	9
は?	۶	植物性脂肪、魚油		
	\triangleright	野菜		
		果物		
心血管病を引き起こしやす	۶	塩分	5	10
い食事とは?	\triangleright	過剰な炭水化物		
	\triangleright	動物性脂肪		
	\blacktriangleright	加工食品類		
運動の効果	\blacktriangleright	どのような運動が効果的か?	5	11, 12, 13
	۶	運動する時間のない、という人へ		
	\mathbf{A}	スポーツの効用		
自分の目標	\triangleright	自分の目標を決めて、できることか	3	14
		ら始めよう		

表 3-10: フリップチャート: 内容と平均的所要時間

タバコはなぜ悪いか?	\triangleright	タバコに含まれるもの	5	15, 16, 17, 18
	≻	噛みタバコもタバコ		
	\triangleright	あなたは周りから臭いと思われて		
		いるかも。		
	\succ	タバコや酒をやめてあなたと家族		
		に幸せと健康を。		
まとめ	≻	心血管病になるとどういう悪影響	2	19, 20, 21, 22
		があるか		
	\triangleright	決断するのはあなた		
	\succ	このような場合心血管病予防のた		
		めあなたに何ができますか?		
	\succ	今日の保健指導はどうでしたか?		
計			35	

(2) フリップチャートガイドブック

プロジェクト4年目に入りパイロット地区以外に配布されるフリップチャートが増えるに従い、開発当初の4分冊(パイロット地区でテスト使用した)を求める声を多く聞くようになった。指導者が保健指導に慣れるに従いより詳細なフリップチャートを求めた場合もあるが、 多くは背面に印刷されていた指導要項を求めてのことであった。指導要項にはCVDに関する 一般的知識と共にどのように参加者に伝えるか、どのように自己評価させるか、また生活習 慣の変化をどのように促すかが文章で書いてあり、研修を受けられなかった保健スタッフら が自己学習するのに、また研修を受けた者も復習するのに使用していたようである。そこで すべてのオリジナルイラストと指導要項を再検討した上で、フリップチャートガイドブック として出版した。用途は第一には集団保健指導の技能の習得であるが、フォローアップ保健 指導にも応用可能と考える。

(3) その他の保健指導ツール

添付6に示すようにプロジェクトではBMI、栄養、運動に関する保健指導ツールを関係部署 と共同で開発してきた。また一般向けにCVDのリスクと健康な生活習慣を描いた2枚組ポス ターや往年のスタークリケット選手であるシダース氏を起用してのヘルシーライフスタイル センターで健診受診を勧める大判ポスターなども制作した。

3.4.3 保健指導トレーニングモデル

保健指導のトレーニングはプログラム策定から実施まで保健省 HEB がリードして行い、両パ イロット県での健診開始に合わせ2回の TOT 研修を行った。1回目はフリップチャートの使 用法について、2回目はコミュニケーション法についてどちらも2~3日のコースであった。 各県とも健診と共に保健指導を開始、プロジェクト3年目にはそのモニタリング調査を行な い、今後求められる研修内容としてより専門的な知識、栄養、運動などトピックごとの知識、 コミュニケーション法の再研修などが指摘された。その指摘に基づき4年目以降は栄養に関 しては保健省栄養課、運動に関してはスリランカ人理学療法士専門家による研修プログラム の策定と実施が各県で行われ、コミュニケーション法に関しても保健省 HEB の協力で研修を 行なった。ただし、プロジェクト期間中は保健省から講師が派遣できたが、全国展開を考え ると TOT 形式の研修が望ましい。保健省 HEB は各県の保健教育担当者(Health Education Officer: HEO)をコミュニケーション法の講師、または研修のファシリテーターとして訓練す ることに合意している。栄養に関しては県レベルではまだ人材に乏しいため、MO/NCD が企 画し保健省栄養課に講師派遣を要請する形となる。運動に関しては、プロジェクトは国立病 院の理学療法士に研修プログラム策定と実施を依頼したが、そのプログラムを利用して県の 病院理学療法士を登用することも可能と思われる。

内容	指導者	受講者	講習場所/教材等
コミュニケーシ	保健省 HEB	HG 施行者	県
ョン能力	県 HEO	病院職員	フリップチャート等
		保健職員	
栄養指導	保健省栄養課	HG 施行者	中央/県
	保健省栄養調整課	病院職員	Food Based Dietary Guideline for Sri
		保健職員	Lanka
			「Food Guide for General Public」等
運動指導	各県の理学療法士	HG 施行者	県
		病院職員	\lceil Physical Exercise for the Elderly \rfloor
		保健職員	(DVD)
			「Exercise Instruction books」等
NCD 管理	各県の専門医	県内の全医師	県
			「NCD 管理ガイドライン」
NCD 予防に関す	県 MO/NCD	病院職員	県
る一般知識		保健職員	

表 3-11: NPP で確立した保健指導に関わるトレーニングモデル

3.5 健康増進モデル

3.5.1 健康增進-概要

1986年のオタワ憲章にて、健康増進(以下ヘルスプロモーション)は「自らの健康を決定づける要因を、自らよりよくコントロールできるようにしていくこと」と定義された。ヘルス プロモーションにおける健康とは、「疾病がない」だけではなく、「今ある健康状態より、ポ ジティブな方向に健康度を高め、それによってよりよく生きる、生き甲斐を感じる」、といっ たゴールをめざしている。また、健康とは「身体的、社会的、精神的に良好な状態である」 という定義の下、ヘルスプロモーションは、エンパワメント、参加型、公平性、包括性、他 機関との連携、戦略の多様性、持続性を重視しつつ、国民の健康を向上させることを目指す。

前出のとおり、スリランカは疾病構造および人口構成の変化に伴い生活習慣病⁴⁵が公衆衛生的

⁴⁵ 前章では非感染症、あるいは NCD と記載していたが、本項では、生活習慣・生活環境に起因することを強調す

な問題として台頭している。スリランカの社会経済が発展を続ける今日、生活習慣病の問題 はより深刻化することが予想されているが、生活習慣を改善することにより、生活習慣病の 発症を予防、あるいは遅らせることが可能となる。ヘルスプロモーションは、危険因子の潜 在的な要因に働きかけることにより、健康的な生活スタイルを生み出すと同時に、治療やフ オローアップへのコンプライアンスを高めることに貢献する。

3.5.2 ヘルスプロモーション・セッティングの開設方法

(1) ヘルスプロモーションとセッティングアプローチ

セッティングとは、人々が暮らしを営む場⁴⁶のことで、セッティングアプローチとは、セッテ ィングを特定し、その環境を良くすることで、生活スタイル全般を改善することである。ス リランカでは、健康増進政策の下、このセッティングアプローチが推奨されており、特に生 活習慣病に関しては、病院、学校、村、および職場の4つが主なセッティングにあげられて いる。

(2) 開設方法

他のモデルと同様、ヘルスプロモーションモデルの作成は、サブグループ活動によって行われた。1年間の議論を経て、1年次の終わりに図 3-9に示すようなセッティング開設モデル 案を完成させ、対象地域で試行することとなった。

中央/	ガイドラインの策定およびアドボカシー			
州レベル	人的資源の開発	後と政策策定		
県レベル	ステップ 1	インセプション会議の開催		
	ステップ 2	リソースグループの TOT 研修		
	ステップ 3	関係者やリーダーへのアドボカシー		
セッティング	ステップ 4	草の根レベルのヘルスワーカーの研修		
	ステップ 5	セッティングの開設とコミュニティリーダーのオ		
		リエンテーション		
SEE	ステップ 6	ヘルスプロモーションワーカー(協力者)の研修		
	ステップ 7	現状分析		
PLAN	ステップ 8	優先順位・目的設定		
	ステップ9	活動計画策定・計画の共有		
DO	ステップ 10	活動実施		
SEE	ステップ 11	モニタリング・評価		
	ステップ 12	レビューと軌道修正		

図 3-9: ヘルスプロモーションの 12 のステップ

るため「生活習慣病」を使用する。

⁴⁶ http://www.who.int/healthy_settings/about/en/index.html

各ステップの意図は以下のとおり。

ステップ1-インセプション会議:活動を始める前にヘルスプロモーションの目的・概念を 説明し、県レベルのマネージメント、関係者の役割分担等を協議し、リソースグループ TOT の参加者を決定する。

ステップ 2-リソースグループの TOT 研修: TOT 研修は、ヘルスプロモーションの概念を良 く理解し、セッティングリーダーとなり得る人材を育成するリソースグループを県レベルに 育成する研修である。この研修では、ヘルスプロモーションのノウハウのみならず、県レベ ルでの行動計画の策定や行動変容の指標設置を行う。

ステップ 3 - 関係者やリーダーへのアドボカシー: ヘルスプロモーションを実施するには、 関係者特に地域のリーダーの理解を得て、活動を行いやすい環境を整えることが重要である。 ミーティングやイベントなどを通じて、アドボカシーを行うと同時に指標やガイドラインを 確認し合意を得ておく。

ステップ 4 -草の根レベルのヘルスワーカーの研修: 草の根レベルのプロモーターに少しず つ、ヘルスプロモーションの概念を伝える。

ステップ 5 - セッティングの開設とコミュニティリーダーのオリエンテーション: セッティ ングとセッティングリーダーを特定し、活動の準備を始める。

ステップ 6 - ヘルスプロモーションワーカー(協力者)の研修: セッティングの中でヘルス プロモーション活動を推進してくれそうな協力者を特定し、リソースグループによる研修を 行う。

ステップ7-現状分析: これから活動を行うセッティングがどのような社会経済状況なのか、 健康に対しプラス・マイナスの要因はあるか、どのようなライフスタイルなのか、可能であ れば年齢、職業、性別等に分けて分析する。

ステップ 8-優先順位・目的設定:現状分析の結果を踏まえて、対象セッティングにおける健康課題、メッセージ、改善目標を考え、指標を設定する。

ステップ 9-活動計画策定・計画の共有:目標が定まったら、活動計画を策定し、メンバーと 共有する。必要であれば、活動を支援してくれそうな新なネットワークを作る。

ステップ 10- 活動の実施: セッティングのメンバーと活動を行い、キーメッセージを普及する。

ステップ 11 - モニタリング・評価: アウトカム指標だけでなくプロセス指標も含めてセッティングメンバーが定期的にモニタリングを行う。モニタリングや評価結果は関係者間で共有し、次の計画策定に反映させる。

ステップ 12- レビューと軌道修正: モニタリング・評価結果をレビューし、新たに派生した 健康問題等への対処など、必要に応じて活動を修正する。

3.5.3 ヘルスプロモーション活動の実施

ヘルスプロモーション活動を推進するために、図 3-11 に示すような体制を県レベルで構築



図 3-10: 県レベルの実施体制

円滑な運営のため、保健医療関係以外、たとえば教育関係やビジネスセクターを巻き込むこ と、持続性確保のため、県レベルのリソースグループはステアリングコミティの下で研修・ 指導を行うこと、およびセッティングメンバーがリーダーとヘルスプロモーションワーカー を選定し、リソースグループが指導するという仕組みを作ることを重視した。ヘルスプロモ ーションは健康すべてを取り扱うものであるが、生活習慣病に関する県レベルのフォーカル ポイントとして以下の4職を設定した。

- RDHS (MO/NCD)
- 保健所-保健所長
- 1次レベル医療施設 病院長
- 2次レベル医療施設- 公衆衛生担当医務官または健康教育担当看護師

3.5.4 TOT 研修

1年次の終わりから2年次(2009年の3月から10月)にかけて、プロジェクトはヘルスプロ モーションファンデーション⁴⁷の協力を得てTOT研修を実施した。この期間中、TOT研修を 6回、クルネガラとポロンナルワでそれぞれ実施した。対象者はクルネガラ19名、ポロンナ ルワ21名。本研修では、県レベルのリソースグループに対しヘルスプロモーションの概念と セッティング開設方法のノウハウを教授した。さらに、2009年9月から、実際にセッティン グを開設する草の根レベルの実地研修を行い、セッティング開設後はセッティング状況を以

⁴⁷ コロンボ大学、ラジャラタ大学、医師等がヘルスプロモーション促進のため組織した NGO

降6カ月にわたってモニタリングした。

3.5.5 セッティングにおける活動内容

TOT 研修後、ポロンナルワで 22、クルネガラで 19 のセッティングが開設され、セッティン グ活動が始まった。このグループに関しては、ヘルスプロモーションファンデーションのト レーナーが定期的にセッティングを巡回し、セッティングでの活動を支援する手法をとった。 一方で、2010年のサブグループ会議で、パイロット MOH エリアごとに 30 のセッティングを 開設することを目標とすることが決定され、MO/NCD とともにヘルスプロモーションの普及 を継続した。2012年6月時点でポロンナルワのメディリギリヤ MOH エリアで 59 カ所、クル ネガラの2つの MOH エリアで 25 カ所のセッティングが活動していることが確認された。表 3-11と3-12は、各県での状況を取りまとめたものである。

セッティング数						
	学校	14				
	村	2				
カテゴリー	職場	2				
	病院	7				
	合計	25				
カテゴリー毎の長所と短所						
カテゴリー	長所	短所				
	 学校関係者は協力的 	▶ 活動時間が鍵				
	 子供たちは大人より積極的 	▶ 時間的制約				
学校	▶ 保護者も協力的	 一部の教師は消極的 				
于仅	➢ HP 活動を若い時から始める	▶ 多様な年齢層を対象とするHP				
	ことは長期的な投資につなが	活動は困難を伴う				
	3					
	▶ 既存のグループを活用するこ	➢ HPの概念を受け入れなれない				
村	とで HP 活動の導入が容易	人、特に男性がいる				
L IV	▶ 宗教家が活動を先導すること					
	ができる					
職場	▶ 協力的なリーダー	 批判的な職員の存在 				
*µ•4(<i>200</i>)	 積極的な職員 	▶ 仕事量				
病院	➤ 豊富な知識	➤ 仕事量				
	> リソースへのアクセス					
短所の克服方法						
教育省と協働でHP学校の概念	を普及する					
▶ 健康的な生活スタイルの知識を	を普及することにより、男性の参加を	足進する				
▶ 積極的なリーダーを特定するこ						
▶ モデル的な HP セッティングを作り出し、波及効果を狙う						
セッティングにおける NCD 予算	方の普及					
> HP活動にかかわるヘルスワー	カーに NCD と危険因子の知識を普及	する				
▶ NCD に関係する健康課題を考え、解決方法を提示する						
▶ 記録をとり、危険因子の改善な	▶ 記録をとり、危険因子の改善をモニターする					
> コミュニティでイベント等を行	うい、 理解を得る					

表 3-12: クルネガラ県における HP 活動状況 (2012 年 6 月)

HP	セッティングのモニタリング方法
\checkmark	セッティング内の問題をトレーナーが見極めた
\succ	セッティングの活動内容と持続性をモニターする方法を導入した
≻	活動内容の記録システムを導入し、記録を残した
\succ	州レベルで HP 活動を共有する必要がある
今後	後の計画
\triangleright	MOH ごとに3セッティング開設する
\triangleright	保健スタッフに研修を実施する
\succ	すべての病院に職場としての HP 概念を導入する
保留	進省への要望
\checkmark	HP 活動に対する財政補助
\triangleright	HEB からの技術支援と実施ガイドラインの策定
\succ	セッティングに関するマニュアル開発
\triangleright	モニタリング・評価手法の開発

出所: クルネガラ RDHS

セッティング数							
	学校	18					
	村	16					
カテゴリー	職場	14					
	病院	11					
	合計	59					
カテゴリー毎の長所と短所							
HP カテゴリー	長所	短所					
244*	 校長や教師が協力的 	▶ 時間的制約					
学校	 子供は大人より積極的 						
村	▶ 既存グループの活用	▶ 女性が運動することへの偏見					
		 収穫時の時間的制約 					
職場	▶ 積極的なリーダーと職員	▶ HPに批判的な態度					
40.30		➤ 仕事量					
病院	▶ 豊富な知識	▶ 仕事量の増加					
זאנא	リソースへのアクセス						
短所の克服							
> 学校で校長に話した後は、	学校側に活動を任せる						
▶ 村や職場では、偏見やマイ	ナスの感情を少なくするため、ヘルス	ワーカーやボランティアが健康教育を					
継続する。							
セッティングにおける NCD 予	予防の普及						
ヘルスワーカーやボランティー	ヘルスワーカーやボランティアによる知識の普及						
▶ 自己モニタリングの導入	> 自己モニタリングの導入						
▶ セッティング内での競争	セッティング内での競争						
▶ ミーティングの奨励	▶ ミーティングの奨励						
▶ 州レベルで HP 活動を促進し、異なるセッティングの視察等を導入する							
HP セッティングのモニタリン	ノグ方法						

表 3-13: ポロンナルワにおける HP 活動状況(2012 年 6 月)

HP セッティングのモニタリング方法

▶ 会議で各セッティングメンバーに活動、問題点、戦略等の報告をしてもらい、必要に応じて問題解決の

	手助けをする
\succ	セッティングメンバーに個人やグループのデータおよび議事録の管理方法を教える。
今往	後の計画
\succ	ヘルスワーカーやボランティアへの研修を継続し、彼らの HP に対する知識や技術の向上を図る
≻	保健所の力をかりて HP セッティング数を増やす
≻	活動に必要がリソースを各セッティングが保有できるようにする。
\succ	HLC を通じて、医療施設で HP セッティングを開始できるようにする
保留	連省への要望
≻	フィールドワーカーの研修を継続するための支援
≻	M&E への技術的な協力
≻	ボランティアやメンバーがいつでもアクセスできるような保健所の環境づくり
出所	斤: ポロンナルワ保健局

3.5.6 モニタリングと評価

サブグループは、HPセッティングを立ち上げる際の一般的な指標として以下考察したが、セ ッティングに合わせて柔軟に検討することが重要である。よって、活動を開始する前にセッ ティングごとの目的と指標を設定し、あらかじめメンバー間で合意するよう、指導している。

レベル	活動	指標
	 戦略計画を策定する 	a. 戦略の有無
	 HP セッティング開設方法のガイドラ 	b. ガイドラインの有無
中央政府/州	インの策定	
政府	➤ M&E 指標の設定	c. 指標の有無
	▶ 州政府重職者へのアドボカシー	d. アドボカシープログラムの数
	▶ 人的資源の開発	e. 中央・州レベルでの研修数
	▶ 県レベルの活動計画策定	a. 活動計画の有無
		b. 活動指標の有無
	> 関係者のアドボカシー	c. アドボカシープログラムの実施回数
 県/保 健 所	▶ 県レベルの人材育成	d. 研修を受けた人数
禾/休健 //	ロジスティックスの提供	e. 年間計画における予算執行状況
	 県・保健区に関連する健康課題の特定 	f. HP 優先活動のリスト
	▶ HPセッティングの開設	g. カテゴリー毎の HP セッティング数
	▶ 月例会議における HP 活動のレビュー	h. レビュー結果

表 3-14: モニタリング・評価指標

TOT 研修から1年後の2010年9月~11月に、NPP はモニタリング調査を実施し、以下の結果を得た。:

- i) 2009 年 3 月から 2010 年 11 月の 18 ヵ月で、30 以上のセッティングが開設され、 NCD 予防に関する活動を開始した。
- ii) 2010年9月の時点で活動を行っていたのは24ヵ所
- iii) メンバー数は合計 574 人で、うちクルネガラ 224 人、ポロンナルワ 346 人
- iv) セッティングの平均人数は18人;

- v) メンバーは月1回程度集まり活動している。;
- vi) 人気が高い活動は、野菜や果物のガーデニング、健康的な生活スタイルのガイダ ンス、ウォーキング等の運動、および身長・体重計測であった。
- vii) 39歳以下と40代が3分の1ずつを占め、50代は10~15%であった。;

viii) 男性の参加率はクルネガラの方が若干高かった.

この調査の結果、以下の課題が抽出された:

- i) セッティングのモニタリングを行うヘルスプロモーターの時間の確保.
- ii) NCD 以外の健康活動との競合.
- iii) NCD に関する知識の普及のむずかしさ
- iv) 男性と幅広いコミュニティの参加促進.
- v) エクササイズ場所の確保
- vi) 身長・体重計の確保.

上記課題は、2010 年 12 月に実施したリフレッシャー研修でも指摘されたため、セッティン グファシリテーターの活動を支援するためのマニュアルの策定に取り組むこととなった。

3.5.7 キャパシティディベロップメント

前述のとおり、1~2年次はヘルスプロモーションファンデーションの専門家をコンサルタン トとして雇用し、クルネガラとポロンナルワで TOT 研修を実施した。この研修で活用した資 料やスライド、研修結果等をたたき台として、リソースブック⁴⁸の策定に取り組んだ。このリ ソースブックは、2012年の7月に開催された JCC で協議され、全国への配布が承認された。

リソースブックの目的は、HPの基本概念を医師、健康教育担当看護師、教師、コミュニティ リーダー等、リソースグループになりそうな人材に普及することである。内容は以下のとお り。

セクション	主な内容				
セクション 1	イントロダクション				
	➤ 健康の定義				
	▶ ヘルスプロモーションの必要性				
セクション 2	ヘルスプロモーションとは?				
	▶ ヘルスプロモーションの活動				
	ヘルスプロモーションのアプローチ				
セクション 3	ヘルスプロモーションプロセスの始め方と継続方法				
	ヘルスプロモーションプロセスとは?				
	▶ 継続方法				
セクション 4	要因への対処				

表 3-15: リソースブックの概要

⁴⁸ Health Promotion for the Prevention of Lifestyle Diseases: A Resource Book for Setting Facilitators

	▶ 健康を決める要因とは?			
	➤ 要因への対処方法			
セクション 5	変化の測定			
	▶ なぜ測定が必要か?			
	▶ どのように測定するのか?			
セクション 6	NCD の予防			
	➤ スリランカにおける NCD			
	▶ NCD の危険因子			
	▶ NCD の予防方法			
セクション 7	コミュニティへの介入方法			
	▶ なぜコミュニティが重要か?			
	▶ パートナーシップの構築			

リソースブックの完成後、TOT モジュールを開発し、ヘルスプロモーションの研修体制を構 築しようと努めた。2012 年 7 月以降、ワークショップや会議を通じて、TOT モジュールや研 修体制を協議したが、ヘルスプロモーションは NCD だけではなく、健康に関するすべての項 目・概念を含むため、保健省内での駆け引きが災いして完成に至らなかった。また、オタワ 憲章に基づくヘルスプロモーションの概念を重視すると、セッティング自体が包括的かつ参 加者重視の姿勢であるため、保健省内の既存の研修方法を超えた、より参加型の研修方法が 求められたのも、中央レベルでの TOT 研修体制が整わなかった理由の一つである。2012 年 11 月に MO/NCD を対象としたヘルスプロモーション研修が ET&T 課により実施されたが、 講師はヘルスプロモーションファンデーションの専門家であり、内容はリソースブックの内 容とほぼ同義であった。

3.6 IEC とソーシャルマーケッティングモデル

NCD 予防に必要な4つ目のモデルはNCD 予防に必要な情報を普及し、人々にHLC に来ても らう仕組みである。まず、NCD の知識と予防の重要性に関し、往年のクリケット選手で国民 的なスターであるシダース・ウィッテモニー(Sidath Wettimuny)氏の協力をあおぎ、ビルボ ードやポスターをコロンボ、クルネガラ、ポロンナルワに設置した。また、オムロンの電子 血圧計を25 台輸入し、銀行や政府機関等、大勢の人が集まる場所に設置し、自由に血圧が図 れるようにした。



また、対象地域では、カラフルなバナーを配布し、HLCの意図を人々に明確に伝え、人々が 健診を受けにくるように仕向けたが、効果の検証には至っていない。



3.7 コスト分析調査

3.7.1 コスト分析調査の概要

コスト分析サブグループの協議を経て、1)介入戦略が適正で、実現可能性の高いものかどう かをコスト面から分析する、2)生活習慣病の治療に係る費用は高額であると思われるため、 疾病別入院治療コストを分析する、3)健診や治療に要する費用だけでなく、家計の損失(機 会損失)の面からも分析する、の3つを中心に分析調査が進められた。なお、5年間のプロ ジェクト期間中に実施したコスト分析調査業務の流れは図3-11に示すとおりである。



図 3-11:コスト分析調査業務実施フローチャート

コスト分析調査は、実際の介入(NCD スクリーニングのための健診と保健指導)に要した費 用と疾病に係る費用の大きく二つに分けることができる。健診は、2つのパイロット地区(ク ルネガラ県、ポロンナルワ県)で異なる方式で実施されていたため、県ごとに調査を実施し た。さらに、健診に直接係る人件費や消耗品費、機材などの直接費用と、健診に携わる人材 育成の費用、健診計画の策定に関わる間接費用に分けて集計した。

また、疾病に関する費用は、費用便益分析に使うことを想定して、直接費用(入院、看護ス タッフ、医療スタッフ、治療、検査、薬剤など)と間接費用(病院までの交通費、治療薬、 食事、収入の減少など)に分けて集計した。

3.7.2 コスト分析調査結果の概要

健診実施に要するコストは、2009 年 10 月から 2010 年 9 月までの1 年間にクルネガラとポロ ンナルワで実施された計 318 回の健診のうち、157 回、所要時間計 387 時間、受診者数計 4,253 人、延スタッフ数 822 人について分析した。

調査対象となった健診の概要は、表 3-16 に示すとおりである。クルネガラ県で111回調査し た健診の1回当たり平均受診者数は、27.3人、平均所要時間は1.7時間、平均配置スタッフ 数は4.1人であった。同じくポロンナルワ県では、1回当たり平均受診者数26.5人、平均所 要時間1.5時間、平均配置スタッフ数4.2人であった。1回当たりの平均で見ると両県の差は あまりないように思われるが、健診の進め方の違い(3.1項参照)を考慮する必要がある。 また、研修終了後に行われている保健指導についても同様に調査を実施した。クルネガラ県 では、1回当たり平均参加者数 24.5 人、平均所要時間 0.9 時間、平均配置スタッフ 1.2 人で あった。ポロンナルワ県では、1回当たり平均参加者数 22.8 人、平均所要時間 0.5 時間、平 均配置スタッフは1名となっている。

·····································		クルネカ	ブラ県	ポロンナルワ県		
	健診回数	111	旦	46	旦	
健	受診者数計	3,035	人	1,218	人	
健 診	健診所要時間計	194.04	時間	70.25	時間	
	延配置スタッフ数	454	人	194	人	
	保健指導回数	109	旦	46	旦	
保健	保健指導参加者数計	2,666	人	1,049	人	
保健指導	保健指導所要時間計	99.3	時間	23.6	時間	
	延配置スタッフ数	128	人	46	人	
	健診受診者数	27.3	人	26.5	人	
	健診所要時間	1.7	時間	1.5	時間	
回	健診配置スタッフ	4.1	人	4.2	人	
回当平均	保健指導参加者数計	24.5	人	22.8	人	
均	保健指導所要時間計	0.9	時間	0.5	時間	
	保健指導配置スタッフ	1.2	人	1.0	人	

表 3-16:調査対象とした健診の概要

健診参加者が個人的に負担した費用については、参加者 800 人に対してアンケート調査を実施した。健診場所までの交通費の中央値はクルネガラ 84 ルピー、ポロンナルワ 40 ルピーであった。また、受診のため欠勤し収入が減少したケースは、パイロット地区が農村地帯であること、参加者の7割が女性であることなどにより、ごくわずかであった。

生活習慣病による入院治療に係るコストは、パイロット地区管内の教育病院ならびに基幹病 院の入院患者 245 人分(各疾患 60 人)の診療録を分析し、患者一人当たりの治療コストを算 出した。これにより、NCD予防対策を実施しなかった場合に増加する可能性がある医療費を 試算することができることとなった。さらに、生活習慣病で入院している患者 243 人に対し て、入院治療に関連して発生した費用や機会損失(病院外での検査、薬品、交通費、収入減な ど)についてのアンケート調査を実施した。その結果、家族が入院したことによる家計への 影響は、1,500~3,000 ルピーと見積もられた。疾病別入院治療コスト並びに入院に伴う家計 負担増は、表 3-17 に示す通りである。

表 3-17:生活習慣病4疾患の患者一人当たり入院治療コストと入院に伴う家計負担増

県名病院名	クルネガラ県			ポロンナルワ県				
疾患名	TH Kurunegala		BH Dambadeniya		GH Polonnaruwa		BH Medirigiriya	
	入院費用	日数	入院費用	日数	入院費用	日数	入院費用	日数
脳梗塞	11,318	6	3,072	3	4,260	2	8,457	5.5
心筋梗塞	11,695	4.5	8,425	5.5	9,066	4	4,182	3
虚血性心疾患	3,967	3	6,190	4	6,721	3.5	4,880	4
糖尿病	6,631	4.5	5,242	4.5	5,670	3	4,829	4
入院治療に関連して 発生した収入減、病 院外での薬品費や検 査費、交通費など家 計から支出されたコ スト	3,020		3,0:	53	2,460		1,535	

*数値の単位はルピー

3.7.3 コスト分析/保健財政セミナー

2011 年 11 月 21 日、コロンボ市内シナモンレイクサイドホテルで、ス国保健省と JICA の共 催により、プロジェクト開始後二回目のコスト分析/保健財政セミナーを開催した。セミナ ー開催の目的は、1) コスト分析調査結果を広く関係者間で共有し、非伝染性疾患予防のため の効果的な介入方法を議論すること、2) 調査から得られたデータの保健財政への活用方法を 検討すること、の二点であった。

プレゼンに続く討議では、紹介された調査結果をどのように活用していくのか、という問い 掛けが参加者になされ、「このような調査結果が得られたのはスリランカでは初めてである」

「この調査では2つの健診方法が紹介されているが、健診後のフォロー調査も必要であろう」 「WHOによる PEN 方式の健診も試みられているので、NPPの2つに加えて3つの方法を比 較してはどうか」「男性の受診者が少ない状況は検討の余地がある」「非伝染性疾患予防対策 は保健省としても多くの予算を付けて実施しようとしており、このようなエビデンスが得ら れたことは今後の政策検討に大いに役立つ」などのコメントがあった。また、セミナー終了 後、添付資料7の報告書を作成した。

59

第4章 ヘルシーライフスタイルセンターと NPP モデルの普及

4.1 ヘルシーライフスタイルセンターの導入

スリランカで NCD と診断されるのは、病院の外来か、入院した時であるが、診断・治療方法 のガイドラインが設定されていないため、新患の治療法は医師の知識と経験にゆだねられて いるのが現状である。スリランカにとって、費用対効果が高く、心血管病の予防につながる 健診プログラムを導入するのは NCD 政策の重点戦略の一つである。健診で発見されたハイリ スクグループ、特に貧しい人たちに対し、生活習慣の改善を促す保健指導を提供すること、 および早期治療を行政として提供することがこの戦略の主眼である。また、私立医療機関や 民間組織もこの戦略に協力することが推奨されている。

本戦略を施行するため、2011年9月、保健省はヘルシーライフスタイルセンター(以下 HLC) の導入を開始した。HLC とは、医療施設、特に1次医療施設で、35歳から65歳の人口を対 象に、健診と保健指導を提供する仕組みである。保健省内に設置されたNCD対策委員会(TWG やワーキンググループ)の下、設置ガイドライン、管理プロトコール、医薬品リスト等が作 成され、全国に設置指示が出された。

HLCは、既存施設を活用し、毎週1回以上、1回20人程度に健診と保健指導を提供するもので、以下の機材を準備するように指示されている。

必要品目	数量
机	3
椅子	指定なし
テレビ/DVD	指定なし
案内板	2
健康教育教材を保管できるキャビネット	指定なし
体重計、身長計、メジャー、血圧計(水銀)、グルコメーター、	指定なし
聴診器、電卓、BMI 早見表、最大呼気流量計測器	
招待状、各種記録紙、個人のヘルスレコード、IEC 教材等	指定なし

表 4-1: HLC で最低必要とされる機材

Note: equipment for checking total cholesterol if available.

4.2 HLC の現況

保健省はすべての1次医療施設にHLCを開設することを長期目標としているが、まず、すべてのMOHエリア⁴⁹に少なくとも1ヵ所、HLCを開設することを短期目標に設定している。2012年6月時点で、図4-1に示すとおり551カ所のHLCがすでに開設されている。

^{49 2012} 年 12 月現在ムラティブ県を除く全国に 325MOH エリアがある。



図 4-1:2012 年 6 月時点で開設された HLC 数(県別)

4.3 HLC の予算計画

NPP では、健診コスト分析結果を活用し、保健省や州保健局などが、HLC の運営に必要な予算計画を試算することができるシミュレーションモデルを開発した。

4.3.1 試算のための基本的な考え方

このシミュレーションモデルは、計画策定担当者が、対象人口数と健診を何年間で実施する か、というデータを入力するだけで試算できるようになっている。既存の施設・設備を有効 活用し、さらに、健診に携わる医師、看護師も既存のマンパワーを有効活用するのを前提と しており、健診で使用する機器や消耗品の価格は必要に応じてアップデートすることを想定 して、シミュレーションが作られている。モデルの条件設定は以下のとおり。

- 施設・設備:健診を実施するための部屋、テーブル/椅子などの家具は、既存の施設・設備を利用することを前提とし、費用は発生しない。
- 2) 健診用機器:体重計・身長計・血圧計(10,000回の使用で更新すると仮定して、受診者 一人当たりコストを算出、体重計の電池は2,000回で交換)、簡易血糖測定装置(5,000 回測定で更新、電池は、1,000回で交換)。
- 3) 消耗材料:血糖検査用ストリップ、 抜針、ディスポ手袋(1回の健診で1組使用するとして、一日平均受診者数20人で受診者一人当たり費用を算出)
- 4) 印刷物:受診者一人一人に渡される案内状、受診票などの印刷物
- 5) 初期費用:健診実施スタッフのトレーニングのための費用(2日間のコースを2回、参加 者は1回当50名程度)

- 6) 初期投資用印刷物(健診実施マニュアル、BMI チャート、健康増進ポスター、ヘルスガ イダンス用フリップチャートなど)
- 7) 人件費:職種別月額給与から時間単価を導きだすために、1日8時間労働、毎月22日間 を労働日と仮定。さらに時間単価と受診者数から受診者1人当たりコストを算出。

4.3.2 シミュレーションモデル

4.3.1 の考え方により、健診を新たに導入しようとする MOH エリアにおいて、健診を実施す るために必要な年間コストのシミュレーションを可能とした。たとえば、MOH エリア(A) の対象人口(40歳以上)が13,230人だと仮定し、5年以内にその対象人口の健診を終えるこ とを目標とする場合、1回当たりの健診参加者が20人とすると、年間132回の健診が必要と なる。1人の医師、3人の看護師で実施した場合、5年間の総費用は1,117,350ルピー(1年あ たり163,470ルピーの健診費用と300,000ルピーの初期費用)が必要となる。また、この5年 間に要するマンパワーは、医師延880時間、看護師延2,640時間となり、給与に換算すると、 474,412ルピー(1年当94,882ルピー)となる。(表 4-2)

年次項目	1 ^{年目}	2 ^{年目}	3年目	4 ^{年目}	5 ^{年目}	計
初期費用	300,000					300,000 (ルビー)
受診者数	2,646	2,646	2,646	2,646	2,646	13,230 人
健診回数	132	132	132	132	132	660 回
健診費用	163,470	163,470	163,470	163,470	163,470	817,350 (ルビー)
費用合計	463,470	163,470	163,470	163,470	163,470	1,117,350 (ルピー)

表 4-2: MOH エリア(A) で対象人口を健診するために必要な健診回数と費用

保健省は、MOH エリア毎に1ヵ所の HLC を設置し、少なくとも1週間に1回は20人の健診 を実施することを計画している。その場合、1ヵ所の HLC では年間に1,040人(20人×52 週)の健診を64,251 ルピー(初期費用、給与は除く)の予算で実施することになる。

このように、ある対象地区の健診実施計画をシミュレーションできるモデルを誰でも使えるように、マイ クロソフトエクセルを使った簡単な計算ソフトを作成し、使用マニュアルを整備した。これにより、健診 対象人口、最新の消耗品費用などを入力するだけで、対象人口の健診を実施するために必要なコ ストと必要な健診回数、配置すべきマンパワーなどを計算できるようになった。

4.4 全国レベルでの展開に必要となる人的資源の面のリソースの算定

プロジェクトでは病院主体の1ステップ方式(クルネガラ県)、保健所(MOH)主体のステップ1から病院でのステップ2に高血圧疑いの参加者のみ送る2ステップ方式(ポロンナルワ県)の2パターンでパイロットを行ってきた。病院施設の少ない地域では2ステップ方式も

選択肢の1つになりうると考えられるが、ここでは保健省の推奨する1ステップ方式に基づ いて述べる。1ステップ方式は健診(参加者名簿作成、身体計測から BMI 計算、簡易血糖測 定、血圧測定、問診、CVDリスク評価、データ記入を含む)と集団保健指導を行う。クルネ ガラのパイロット地域においては7つの病院では医師、看護師、その他スタッフ(無資格職 員を含む)がそれぞれの病院で、また2つの保健所では医師、助産師、公衆衛生検査員、プ ログラム計画アシスタント(PPA)が主に移動診療にて保健指導行った。下表はコスト分析 報告書からの抜粋でクルネガラにおける健診・保健指導の平均データである。これより1ス テップ方式1回あたりに必要な人員として医師1名を含む計4名の従事スタッフが推定され る。必要時間は保健指導を含め平均2.6時間(156分)である。実際には、リクルートメント、 フォローアップ健診と保健指導、データ管理、およびコミュニティ健診を行う場合はそれに かかる人的資源と時間を加算する必要がある。

	項目	平均	従事スタッフの内訳
	回数(回)	111	
健診	健診参加者(人)	27.3	
)	健診時間(時間)	1.7	
	健診従事スタッフ (人)	4.1	医師 1.1、看護師 2.5、PHI 0.1、PHM 0.5
1=4-	回数(回)	109	
保健指導	保健指導参加者(人)	24.5	
お	保健指導時間(時間)	0.9	
~	保健指導従事スタッフ(人)	1.2	医師 0.3、看護師 0.8、PHI 0.1

表 4-3: クルネガラにおける健診、保健指導の平均データ(2009 年 11 月~2010 年 10 月)

出典:コスト分析報告書 表1、表2より抜粋

4.5 HLC 開設および全国展開における NPP の役割

4.5.1 ガイドライン、マニュアル、ツールの作成

2011 年に HLC の開設が決定したのを機に、NPP はパイロットテストの結果を踏まえ、ガイ ドラインの最終化を行い、2012 年 6 月、健診・保健指導・ヘルスプロモーションの 3 分野の ガイドラインを取りまとめた。このガイドラインは、2012 年 7 月の JCC で協議・承認され、 全国に配布されることが決定した。また、ガイドラインの最終化と同時に、パイロットの結 果を受けて修正を加えたマニュアル・ツール類一式も最終化し、2013 年 2 月に、保健局長の 名の下、HLC での活用を求め、全県の保健局に配布した。

	言語と配布部数				
成果品名	シンハラ語	タミル語	シンハラ・ タミル併記	英語	
NCD 予防ガイドライン				2000	
健診マニュアル	4000	1500		4200	
フリップチャート	1000	400			
フリップチャート活用ガイドブック	2000	800			
ヘルスプロモーションリソースブック				500	
エクササイズ・ブック(1)&(2)	2000				
運動 DVD (ハリハリ体操)			700		
運動 DVD (Exercise for a Healthy Future)			500		
BMI 計算ポスター			2000		
BMI 計算盤				1000	
CVD ポスター (課題・対策別)	800	400			
HLC ポスター	900	500			
PHM 参考資料*	2000	1000			

表 4-4: 全国展開用の作成した成果品と部数

*Developed with Policy Analysis Unit

4.5.2 HLC 設置のための DVD 制作

保健省は、全国の MO/NCD をクルネガラに招待し、クルネガラでの HLC の開設状況、研修 およびデータ管理などの研修を実施したが、HLC の急速な展開に際し、保健省も県も十分な 研修を実施できなかったため、HLC の質の確保と均一化を目的とする研修 DVD の作成をプ ロジェクトに依頼した。協議の結果、職員研修用の DVD (1) を制作することで合意した。DVD (1) の前半は、健診マニュアルをビジュアル化し健診方法の全国的な普遍化を図るもの。後半 は保健指導の留意点、栄養・運動指導についての各論、禁煙指導を中心に指導の仕方やメッ セージ (brief intervention) の解説を収録し保健指導実施者はじめ保健スタッフのリスク管理 への理解をより深めることを目指した。約 120 分。

セクション	トピック	出演者		
イントロダク	ヘルシーライフスタイルセンターと	Dr. Thalatha Liyanage, Director NCD Unit		
ション	は?			
健診	身長、体重、BMI、血圧、空腹時血糖	BH Dambadeniya 職員 & Dr. Shamali		
	値の測り方	Amarasinghe, MO/NCD, RDHS クルネガラ		
	CVD リスクの確認方法	Dr. Asanka Rathnayaka, 前 BH Dambadeniya		
	トータルリスク判定の方法	専門医		
保健指導	保健指導の方法	Dr. D. R. D. F. C, Kanthi, deputy director, HEB		
	栄養とバランスのとれた食べ方	Dr. U. M. M. Samaranayake, 栄養課課長他4		
		名		
	健康のための体操	Mr. Sanjeewa Tunpattu,国立病院理学療法士		
	禁煙・禁酒指導	Dr. Mehesh Rajasuriya, コロンボ大学講師		
データ管理	データ管理、モニタリング・評価	Dr. Thalatha Liyanage, Director NCD Unit		

表 4-5: DVD (1) の内容
さらに、HLCや医療機関の外来患者への啓蒙用として DVD (2) を制作した。DVD (2) の前半 部分はフリップチャートを使用しての保健指導で、保健指導を行う人材が不足している施設 で健診参加者への保健指導としても活用できる。後半部分は地域、家庭、職場、学校等での ヘルスプロモーション活動の実例を収録し、DVD (2) を見た健診参加者が、ヘルスプロモー ション活動を始めたくなるような内容にした。約70分。

セクション	内容	出演・協力者
一般用保健指 導	フリップチャートを用いた保健指導 (CVDリスク、食生活、禁酒・禁煙・ 運動等)	Dr. Thalatha Liyanage, Director NCD Unit Dr. Shamali Amarasinghe, MO/NCD
ヘルスプロモ ーション	 ヘルスプロモーションとは? 健康的な村 健康的な職場 健康的な病院 健康的な都市 健康的な未来のために 	Dr. Neelamani Rajapaksa, Director, HEB Dr. D. R. D. F. C, Kanthi, Deputy Director, HEB, Dr. Sharmila Thoveswaran, Medical Officer, HEB; People's Bank (High Branch); Narammala Divisional Hospital; PMCU Digampitiya, PHMs from RDHS Kurunegala; Kiwulgalla Village; Pothupitiya Village; Boyawalana Maha
		Vidyalaya, and people at Waters Edge

表 4-6: DVD (2) の内容

第5章:教訓および今後に向けての提言

5.1 教訓

5年間の実施を受けて、以下の教訓が得られた。

(1) 健診短期目標に対する健診モデルのインパクト

NPP ガイドラインでは健診の短期目標として、「心血管イベント高リスク者を発見し、そのリ スクを軽減する」を設定している。

健診で採用している WHO/ISH 心血管イベントリスクチャートではリスク 20%以上を高リス クと定義しており、対象県で実施した健診データより、2~3%程度の参加者が高リスクに分 類されることが判明した。3.3 項で述べたとおり、高リスク者を対象として行った追跡調査で は、追跡調査でカバーされた対象者のほぼ全員が血圧や血糖値を改善することで心血管イベ ントリスクを軽減させていることが確認できた。またクルネガラ RDHS が四半期ごとに集計 しているフォローアップ状況に関するデータにおいてもおいては、78%がメディカルクリニ ックで治療を継続しているとの報告が出されている。

生活習慣の改善状況についても、既述のとおりポロンナルワ県メディリギリヤ MOH エリア で健診後の行動変容に関する調査が行われ、健診参加住民の生活習慣に改善傾向が見られ、 特に健診時に行われた保健指導内容を理解した参加者において、その傾向が顕著であること が示された。

以上の二つの調査結果及び対象県で実施されたフィージビリティーテストの結果は、ポロン ナルワ県で実施した2ステップ健診モデル及びクルネガラ県で実施した1ステップ健診モデ ルの両モデルが、健診でCVD高リスク者を発見し、高リスク者のリスク軽減に有効であるこ とを示している。他方で、治療を自己判断で中断している高リスク者も少ない人数ではある ものの存在していることが明らかになった、今後は、治療の重要性を強調するとともに、定 期健康診断を普及させることで、治療の中断により将来的にリスクが増加する人たちの数を 減らしていくことが求められる。

(2) 健診長期目標に対する健診モデルのインパクト

健診の長期目標は、「心血管病による早世の減少」である。

前述のとおり、対象県で実施された健診の結果より、健診対象年齢人口のうち高リスク者の 割合は3%以下と想定される。現在治療を受けていない高リスク者を多く発見するためには、 健診で対象年齢人口を広くカバーすることが必要となる。ナランマラ、アラッワ、およびメ ディリギリヤ MOH エリアで行ったフィージビリティーテストでは、年間約20%の対象年齢 人口に健診を行うことが可能であった。すなわち、参加者の重複なしに健診プログラムが適 切に継続されれば、数年以内に全対象年齢人口をカバーすることが可能であることを示して いる。一方で、健診を重複して受けているケースもクルネガラ県では報告されており、健診 参加者の重複を防ぐ仕組みづくりが今後の課題である。また、心血管病による早世を減少さ せるためには、健診後の心血管イベントリスクの改善結果が、その後も長期に渡り維持され ることが重要であり、そのために定期的心血管イベントリスクの評価が行うことが求められ る。保健省は心血管イベントリスクごとに次の健診を受ける時期を設定したので、今後はそ のスパンで定期健診が行われるような体制を整えていくことが求められる。

(3) 理想体重、血圧、血糖値に対する知識の普及

3.3 項で述べたとおり、心血管イベント高リスク者追跡調査及び健診後の行動変容調査(小山, 2011)は、保健指導の重要性を示唆している。一方で、多くの心血管イベント高リスク者が、 健診後の一般保健指導を受けた後も、体重や血圧及び空腹時血糖値の理想値を知らない(覚 えていない)ことが明らかになった。今後、フォローアップ保健指導やコミュニティにおけ る健康増進活動において、目指すべき理想値について説明し、個々人が自分の健康状態の推 移に関心を持ち、調整できるようになることが望まれる。特に体重や血圧は血糖値測定と比 べ、自身によるモニタリングが容易であるため、地域の健康増進活動を促進させ、住民が体 重や血圧測定を定期的に行える公共の場を整備することが推奨される。

(4) トータルリスクアプローチの重要性

クルネガラ県、ポロンナルワ県ともに高血圧者が多かった(クルネガラ県:男性26%、女性25%,ポロンナルワ県:男性29%、女性32%)。一方で、心血管イベント高リスク者は男性で3%(クルネガラ県)、1.6%(ポロンナルワ県)、女性で3.3%(クルネガラ県)、1.9%(ポロンナルワ県)であった。

仮に高血圧管理が個別疾病管理アプローチに基づけば、治療を受ける対象患者数は多くなり、 一方で、複数のリスクファクターの集積で高まる心血管病リスクの予防という観点からは、 高血圧者への治療だけでは心血管高リスク者はカバーされず、よって対策として十分とはい えない。トータルリスクアプローチは多くのスリランカ人医師にとって新しい概念であるも のの、対象県のフィージビリティーテストはその手法の導入が一次及び二次医療施設のプラ イマリケアにおいて可能であることを示した。保健省 NCD ユニットは既に全国でトータルリ スクアプローチ導入のための一連の研修を本プロジェクトと WHO 支援のもと始めており、 こうした研修が継続され、トータルリスクアプローチが全国のプライマリケアレベルで根付 くことが限られた資源を有効活用していくためには期待される。

(5) 男性労働人口を対象とした健診モデル

どちらの対象県においても、男性の健診参加率は女性に比べて低い傾向にあった。この課題 に対応するため、プロジェクト期間中には、村の有力者への啓発活動の実施やリクルートの 際に特に男性家族も連れてくるようにとのメッセージを強調する、男性の参加率を地区ごと に比較することでリクルートのモチベーションをあげる、など様々な対策を取ったものの、 安定して一定の効果が認められたのは、保健所が村や職場で一斉健診を実施した場合だけで あった。病院の職員が病院外で健診を通常業務として実施することは不可能であるため、 RDHSのMO/NCDと各地の保健所が地域や職場における健診を調整して実施していくことが、 男性の健診参加率を増加させるためには必要といえる。

(6) 健診の体系的リクルートメント導入

母子保健が通常業務である助産師に NCD 業務を実施させることの賛否は、未だに保健省内で 意見の分かれる点である。本プロジェクトでは助産師が体系的なリクルートメントを行う2 ステップ健診モデルをポロンナルワ県で試行した。その結果、同モデルは費用対効果が高く、 安定した健診参加者数を確保でき、体系的にリクルートしているため、重複を防ぎながら健 診参加者の高いカバレッジを目指すことができ、追跡が必要な時に比較的容易に追跡ができ る等の利点を有することが明らかになった。しかし同モデルは助産師が健診の重要な位置づ けを占めているという理由より、保健省内の反対勢力に配慮し、全国展開モデルとしての採 用は見送られることとなった。しかし、特に医療施設や人材の限られる人口密度の低い地方 においては、助産師による体系的なリクルート及び地域にあるセンターで簡易健診をまず実 施し、更なる調査が必要な人のみ、費用と時間のかかる医療施設⁵⁰で健診の続きを受けること が、健診プログラムへの平等なアクセスの機会を提供し、アクセスを高めることにつながる といえる。

(7) ヘルスプロモーション・セッティングへの継続的支援の重要性

2009 年、プロジェクトがヘルスプロモーションの TOT を実施した際、38 のセッティングが 生まれ活動を開始した。2010年9月に実施したモニタリング調査で38のセッティングの内、 24 セッティングが 574 名のメンバーとともに活動を継続していることが判明した。継続率が 高かった要因の一つが、研修後、6回にわたってセッティングへのフォローアップ指導が実 施されたことがあげられる。その後、波及効果で立ち上がったセッティングも多いと報告さ れているが、継続性の確保には至っていない。よって、セッティングアプローチを強化する には、草の根レベルの研修と継続的な支援が必要であるわけだが、現在のマンパワーと行政 システムの中でこの仕組みを確立することは、困難であった。ヘルスプロモーションを推進 するにあたり、最も可能性が高いのは、保健所に所属する助産師を活用することである。現 に、メディリギリヤ MOH では、宮崎協力隊員が助産師協働で、ヘルスプロモーションの普 及に努めている。保健省でも助産師の活用に関して議論を尽くしたが、本プロジェクトが NCD 対策プロジェクトであるため、助産師を NCD 対策に活用することに反対する勢力によ り、実現に至っていない。本来、ヘルスプロモーションは健康全般をカバーするものである ゆえ、母子保健推進のためだけでなく、コミュニティを熟知し、コミュニティ、特に母親か ら信頼が厚い助産師からヘルスプロモーション活動を広げていけるよう、TOR の改正ならび に助産師の増加が必要である。

⁵⁰ スリランカの公立病院の医療サービスは無償であるものの、病院は混雑しているため、病院に行くためには仕 事を休み、バスなどを乗り継いで行く場合、実質的にコストが発生する。

5.2 終了時評価提言の実現状況

2012年8月に実施された終了時評価で、合同評価報告書の提言とそのフォローアップ状況を以下に記す。

(1) 終了時提言 1: ハイリスクグループへのフォローアップガイダンスの実施

予定された活動はほぼ順調に行われ相応の成果が得られており、プロジェクト目標もほぼ達成されている。一方で、プロジェクト目標の第2指標(ハイリスクグループへのフォローアップ指導の実施)に関しては、現時点で評価できる数値が得られていない。これは、「ハイリスク」の定義に様々な意見があり、ようやく2012年5月に定義が関係者間で周知されたことによる。そのため、今後のプロジェクト期間内で、可能な限りこの指標の達成を評価すべく、データを収集することが望まれる。

現状: ハイリスクグループは、10 年以内に CVD イベントを発症する可能性が 20%以上のグ ループとされた。パイロットの結果によると、3%程度の受診者が、ハイリスクグループと特 定されている。2012 年 7 月にガイドラインを最終化し、フォローアップガイダンスの方法論 も確立できたため、ハイリスクグループのデータ収集に努めたが、私立病院を選択する人も 多く、十分な結果が得られていない。NCD ユニットがフォローアップレジストリーを導入し ているため、数年後には、ハイリスクグループへのフォローアップガイダンスの実施状況が 将来に向けて確認できると考える。

(2) 終了時提言 2: ラガマ調査の継続

ラガマ調査は最終的に貴重な情報を提供することができ、開発途上国で行われてコホート調 査として意義あるものとなっている。一方で、本調査の質を更に高めるべく、ケラニア大学 が以下の点を分析する事が望まれる。

▶ 本調査の対象人口を他の調査と比較し、スリランカ国の一般人口として扱うことができるか検討する必要がある。

▶ 心血管病イベントの発生を含む疾病の発症と危険因子の間の関係をさらに分析する。

現状: ケラニア大学はコホート調査を継続するための資金調達先を現在も模索している。一 方で、電話による本調査対象人口の心血管イベント発症状況の確認は継続的に行われている。 本調査の対象人口の特徴について、スリランカ国の「2001 年国勢調査」及び、2005 年から 2006 年にスリランカ国の9州のうち7州を対象に実施された横断調査である「スリランカ糖 尿病・心血管病調査(Sri Lanka Diabetes and Cardiovascular Study: 以下 SLDCS)」と比較を行 った。

宗教の種類は国勢調査と比較して、ラガマ調査対象人口では、キリスト教徒の割合が比較的 高く、仏教、ヒンズー教、イスラム教の割合が比較的低い。民族の割合は、ラガマ調査人口 ではシンハラの割合が高く(ラガマ調査:95.4%、国勢調査 81.9%)、その他の民族が占める 割合はきわめて少ない。

	ラガマ調査対象人口 (2007 年実施)	国勢調査 (2001 年実施)
宗教	キリスト教 36.7%、仏教 61.0%、	キリスト教 6.9%、仏教徒 76.7%、
	ヒンズー教 0.5%、イスラム教 1.1%	ヒンズー教 7.9%、イスラム教 8.5%
民族	シンハラ 95.4%、タミル 1.1%、ムス	シンハラ 81.9%、タミル 8.0%
	リム 1.1%	ムスリム 8.0%

表 5-1 ラガマ調査対象人口と国勢調査結果の比較

SLDCS と比較した場合、大学卒以上の学歴を有する人の割合がラガマ調査で比較的高く、正 規の学校教育を受けていない人や小学校卒未満の学歴の人の割合はラガマ調査で比較的低い。 一方で、中学校あるいは高校卒業の割合は両調査で同程度の割合であった。収入の高い(Rs. 25,000 以上)世帯の割合も、ラガマ調査において比較的高い。国勢調査や SLDCS では都市部 および地方の人口を対象として実施されたのに対し、ラガマ調査は都市部人口を対象として いることが、これらの違いの理由の一つとして考えられる。。

表 5-2 ラガマ調査対象人口と SLDCS の調査結果の比較

	ラガマ調査対象人口(2007 年実施)	SLDCS (2005~2006 年実施)	
教育レベル	大卒以上 19.2%	大卒以上 2.9%	
	中学校卒業あるいは高校卒業 72.1%	中学校卒業あるいは高校卒業 73.1%	
	正規の学校教育を受けていないあるいは	正規の学校教育を受けていないあるいは小学	
	小学校卒業未満:8.2%	校卒業未満:24.0%	
世帯収入	Rs. 25,000 以上: 15.7%	Rs. 25,000 以上:5.8%	

心血管病イベントの発生を含む疾病の発症と危険因子の間の関係の分析については、これま での調査結果を踏まえ、特に高血圧、糖尿病および脂質代謝異常症の併病が心血管イベント に与える影響について更なる分析と、若年層女性で高い罹患率が報告された脂質代謝異常症 について、罹患した若年層の特徴に関する分析を行うことをケラニア大学に提案した。

(3) 終了時提言 3: NCD 対策のためのエビデンスの収集

保健省は、NCD 対策の実施のためには必要なエビデンスを得るための調査研究が重要である 事を認識し、様々な取り組みを始めている。今後、更に対策実施に沿った調査研究が実施さ れて行く事が望まれる。

現状:第1章で述べたとおり、リスクファクター調査の実施が迫っており、2013年度に実施 される見込みが高い。また、プロジェクトで策定した健診マニュアルどおりにデータ収集が 行われると、健診結果から危険因子や生活習慣病の有病率を始め、政策決定に必要なエビデ ンスが得られると思われる。

(4) 終了時提言 4: 有病者の未治療への対策

プロジェクトではパイロット地区で健診のモデル作りを行い、良好な成果を得ている。一方 で適切な治療を受けるべきケースが見逃されている事例がある。これは健診体制の整備に於 いては重要な点であり、プロジェクトの協力の下に、保健省がこれらの例を減少させるべく 有効な対策を講じる事が望まれる。

現状:プロジェクトが4年次から5年次にかけて実施した心血管イベント高リスク調査では、 健診で心血管イベント高リスクと判定された人⁵¹を対象に、健診後に治療を継続している人、 治療を現在受けていない人およびその理由を調査した。その結果、ポロンナルワ県の対象地 域では、高リスク者で医師が薬治療が必要と診断された 45 名のうち 13 名(28.9%)が、治 療を継続する必要性を感じない、忙しく病院に行く時間がない、世話になっている子どもに 心配をかけたくない⁵²などを理由に治療を中断していることがわかった。13 名のうち半数以 上の 8 名(61.5%)が治療を継続する必要性を感じないと答えていた。同調査結果について は保健省 NCD 課や RDHSNCD 担当官に説明し、治療を継続する必要性を高リスク者に説明 し理解を促すとともに、同時に住民が定期健診を受ける習慣をつけ早期発見の機会が失われ ないように働きかけることが現場で必要である点を共有した。

クルネガラ及びポロンナルワの両県は、終了時評価後も、トータルリスクアプローチに関す る研修を医師向けに継続的に実施しており、プロジェクトではこの開催を支援し、心血管イ ベント高リスク者への治療の重要性およびトータルリスクアプローチの導入促進に努めてい る。健診レジストリーの記載内容の質向上および高リスク者のフォローアップ強化のために、 医師以外の医療従事者に対する研修も両県で実施した。こうした研修の後、人材不足で保健 指導の実施が困難であったポロンナルワ県の一次医療ユニットにおいても、マイナースタッ フによる BMI 計算や BMI の推移を評価し、生活習慣の改善を続けるための助言をフォロー アップ患者や関心のある住民に行うサービスを開始している。

(5) 終了時提言 5:全国展開に向けた人材育成制度の確立

ヘルシーライフクリニックをベースにした予防医療体制を全国に展開するためには適切な人 員の確保が重要であり、このための人材育成制度の確立が望まれる。そのため、プロジェク トの協力の下に保健省により健診及び健康教育のためのマネージメント能力強化を含めた長 期的に有効な研修体制の整備される事が望まれる。

現状: MO/NCD の任命依頼、NCD ユニットは NCD 予防に関する数々の研修を MO/NCD に対して実施してきた。特にヘルシーライフスタイルセンターの設置ならびに管理方法に関しては、全国の MO/NCD をクルネガラに招待し、125 カ所に拡大した HLC の管理状況を視察させた。ヘルスプロモーションに関しては、教育・訓練・調査課 (Education, Training and Research)

⁵¹「プライマリケアレベルにおける NCD 治療ガイドライン」では、薬治療が必要な人は全員高リスク以上に分類 される。高リスク以上でも生活習慣の改善により経過観察を行った後に薬処方が始まる場合もある。

⁵² 60 代後半の女性の回答

が 2012 年 11 月にヘルスプロモーションファンデーションから講師を招き 1 週間の研修を実施している。しかしながら、急速に HLC が全国に広まったため、HLC を行う各施設への研修まで手が回っていないのが実情である。そのため、プロジェクトは、健診および保健指導の方法、ヘルスプロモーションの概念や実例などをビデオに収録し、1500 部作成の上、終了時に保健省にハンドオーバーした。保健省は、この DVD を全国の既存ならびに準備中の HLC に配布し、DVD を職員に見せつつ研修を行う計画である。

(6) 終了時提言 6: ヘルスプロモーション戦略

ヘルスプロモーションに関する活動の全国での実施に際しては、モチベーションをどのよう に高めるか等多くの課題があるのは現状である。そのため、これらの課題を克服すべく、プ ロジェクトの協力の下に保健省によりコミュニティのオーナーシップを尊重したヘルスプロ モーション活動強化のための施策が策定される事が望まれる。

現状: リソースブックの完成後、その内容を教授できる TOT モジュール案を策定し、保健省 内で一連の協議とワークショップを行った。協議の結果を踏まえ、TOT モジュールは完成し たが、試行には至らなかった。ヘルスプロモーションの活動強化を行うためには、RDHS に 属する健康教育担当官(Health Education Officer)および2次医療施設以上に配置されている 健康教育担当看護師、あるいは保健所職員のキャパビルと TOR の見直しが必要である。しか しながら、その作業と調整は NCD 予防の範疇をこえたものであり、1 プロジェクトの限界が あった。

5.3 提言

NPP で得られた教訓、NCD 対策に関する保健省の活動と国際情勢を踏まえ、スリランカで NCD 予防政策を推進するため提言を行う。

(1) パラメディカルの増員

NCD、特に慢性疾患は感染症に比してより多くのパラメディカルを必要とする(保健師、社会福祉士、理学・作業療法士、栄養士など)。しかしその必要性にも関わらず現在、栄養指導、 在宅医療・介護、脳卒中後の理学療法などスリランカの公立施設ではほとんど見られない。 養成期間も考慮しできるだけ早い養成コースの開設が望まれる。

(2) 保健スタッフの業務内容の見直し

現在、スリランカの保健師は県に数人程度しか配置されておらず草の根レベルのケアには従 事していない。一方保健所には助産師が人口 2500~5000 に1人、公衆衛生検査官が人口 15,000 ~20,000 に1人配置され、きめ細かい妊産婦の保健指導、家族計画、ワクチン接種、感染症 対策等によりスリランカの高い保健指標を維持している。今後、地域における NCD に関する 啓発活動、健康増進活動、また在宅障碍者のフォローなど保健所の役割となるべき業務の担 い手についての検討が必要となるが、新しい職種を作り一から配置するのには時間も費用も かかるため既存の職種の業務拡大が必要となる。現在公衆衛生検査官の業務の見直しは進行 中であるが、より個別対応の可能な助産師の業務内容の拡大と増員を並行して行うことが望 ましい。

(3) トータルリスクアプローチのカリキュラムへの導入

トータルリスクアプローチ(total risk assessment approach)や人口に基づいたアプローチ (population-based approach)は、1次~3次医療に渡るすべての施設の医療従事者が理解・実 践してこそ、その効果を発揮するものである。よって、医師および医療従事者の教育・育成 カリキュラムへの早期導入が必要である。

(4) コミュニケーション技術の向上

NCD の管理には、生活習慣の改善が最も重要である。よって、医師のみならず、すべての医療従事者が、患者およびハイリスクグループに対し、生活習慣を改め、自己管理を続けるよう働きかける必要がある。これには、コミュニケーション技術、生活の技術(ライフスキル)、およびヘルスプロモーションの概念を学べるように、教育および研修カリキュラムの改善が必要である。

(5) 健診効果のモニタリング

本プロジェクト内では、健診が CVD リスクの低いグループに与える影響を調査することがで きなかった。CVD の負荷を全体的に軽減するには、血圧、血糖、その他の危険因子の平均値 を全人口的に下げる必要があるため⁵³、平均値のモニタリングを継続することを推奨する。

(6) NCD のサーベイランス体制強化

健診時期と死亡統計との時間的な差異があるため、センティネル調査等を導入し、CVD 危険 因子の変化をモニターすることにより、健診の効果を見極めることができる。また、センテ ィネル調査の実施により、通常のデータ収集作業による事務的な負荷も軽減できると考える。

5.4 運営管理上の教訓と提言

(1) プロジェクト・マネージャーの適正な選定

本プロジェクトのマネージャーは、計画部の部長(Deputy Director General, Planning) であっ た。NCD 対策を担う NCD ユニットのレポーティングラインは医療サービス第 1 部の部長 (Deputy Director General, Medical Service I) であり、健康増進を扱う健康教育課(Health Education Bureau)のレポーティングラインは、公衆衛生第 2 部の部長(Deputy Director General, Public Health II) であった。そのため、実務的な作業内容を計画する際でも、部および課を超

⁵³ MacMahon S, Neal B, Rodgers A. Hypertension- time to move on. Lancet 2005; 365:1108-09

Comment. Measuring progress on NCDs: one goal and five targets. www.thelancet.com Vol. 380. October 13, 2012

えた調整が必要となり、時には、部長間の対立により活動に支障をきたした時もあった。本 プロジェクトの場合、NCDユニットの課長、あるいはその上司にあたる医療サービス第1部 の部長あたりが適切であったと思われる。

(2) 事務所の位置

1年次の後半に、保健省より事務所が貸与されたが、プロジェクト・マネージャーおよび NCD ユニットが執務する本省から車で 20~30 分の距離があった。カウンターパートは会議や出張 で不在のことが多く、細かい打合せにもアポイントを取って望む必要が生じた。技術協力プ ロジェクト実施の際には、可能な限りカウンターパートと同じ敷地内に事務所が貸与される ことが望ましい。

(3) PDM と指示書の関係

本プロジェクトは民活技プロであるため、請負会社は指示書の活動に沿ってプロジェクトを 計画し、年ごとの業務完了報告をすることになる。一方で、カウンターパートとの計画やプ ログレスレポートの報告、ならびに中間・終了時評価は PDM に沿って行う。PDM と指示書 の番号がシンクロしていれば問題ないが、現実は異なるため、活動部分だけでも PDM に基づ いて指示書が作成されると作業の負荷が軽減されると思われる。

(4) プロジェクト開始前の関係者間の合意形成

本プロジェクトの1年次に最も重要な活動として指示書に位置付けられていたのは、ラガマ 調査の継続、およびラガマ調査結果を基にしたコスト分析、介入プログラムの策定であった。 しかしながら、保健省がラガマ調査そのものを認めておらず、プロジェクト開始後、大きな 問題となった。また、再委託先のケラニア大学も保健省と深くかかわることを避けており、 調査は継続したいが、プロジェクトのために実施するわけではないという姿勢であった。ラ ガマ調査の件に関しては、開始前からその位置づけに対する議論が生じていたようで、開始 前に関係者間で合意に達してない場合は、アウトプットの一つとして明示せず、プロジェク ト開始後に関係者間で PDM を再検討する期間を設ける必要があったと考える。

(5) 保健省内の予算・計画との関係

JICA 技プロの制約であり、改善は難しいと考えるが、現地活動費が保健省予算に組み込まれ ないため、保健省の正式な活動として認知されないという問題がある。一方で、一旦保健省 予算に組み込まれると、執行が遅れる等、別の問題が生じるのは明らかであるが、次年度の 予算額(一般業務費)が9月ごろに確定し、少なくとも総額と主な活動だけでも保健省にコ ミットできれば、保健省年間活動計画書の一部に掲載された可能性が高い。

(6) ヘルスプロモーションと健康教育

本プロジェクトの正式名称は Project on Health Promotion and Preventive Care Measures of Chronic NCDs という、ヘルスプロモーションを冠したプロジェクトである。また、スリラン

カ保健省、特に健康教育課は、オタワ憲章に乗っ取り、ヘルスプロモーションの哲学をスリ ランカに導入しようと熱心であった。一方で、指示書や PDM の内容は、健康教育の範囲で考 えられており、概念的に保健省との間で大きな乖離があった。NCD 予防におけるヘルスプロ モーションの重要性は衆目の一致するところであるが、ヘルスプロモーションは人間の健康 全版に通じるものであり、NCD だけを取り上げるものではない。また、懇切丁寧なフォロー が求められるセッティングアプローチを行政サービスとして実施できるものでもない。この 概念差は大きく、事前調査でもう少し確認が必要であったと思われる。

参考文献

- Abeywardena, M.Y. (2003). Dietary fats, carbohydrates and vascular disease: Sri Lankan perspectives, Elsevier Ireland Ltd.
- Beaglehole, R., Bonita, R., Horton, R., Ezzati M., Bhala N., Amuyunzu-Nyamongo M. (2012). Measuring progress on NCDs: one goal and five targets. *Lancet*, *380*(9850):1283-5.
- Department of Census and Statistics, Sri Lanka, (2001). *Population and Housing 2001*, Retrieved from http://www.statistics.gov.lk.
- Department of Census and Statistics, Sri Lanka, (2012). *Census of Population and Housing 2012*. Retrieved from http://www.statistics.gov.lk
- Engelgau, M., Okamoto, K., Navaratne, K.V., & Gopalan, S. (2010). Prevention and control of selected chronic NCDs in Sri Lanka: Policy options and action, Working Paper No: 57563. The World Bank.
- Faculty of Medicine, University of Kelaniya (2009). NCD Prevention Project: Ragama Health Study follow-up risk factor survey. Annual Report 2009.
- Faculty of Medicine, University of Kelaniya (2010). NCD Prevention Project: Ragama Health Study follow-up risk factor survey. Annual Report 2010.
- Faculty of Medicine, University of Kelaniya (2012). NCD Prevention Project: Ragama Health Study: In-Depth Analysis.
- Ibrahim, M. Mohsen, Damasceno, A. (2012). Hypertension in developing countries. *Lancet*, *380*(9841), 611-619.
- Jayawardena, R., Swaminathan, S., Byrne, Nuala M. *et al.*, (2012). Development of a food frequency questionnaire for Sri Lankan adults. *Nutrition Journal*, *11*(1),63.
- JICA, Ministry of Health, Nutrition & Welfare, the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka. (2002). *Master Plan Study for Strengthening Health System in the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka*.
- Katulanda P., Constantine G.R., Mahesh J.G., Sheriff R., Seneviratne R.D., Wijeratne S., *et al.* (2008). Prevalence and projections of diabetes and pre-diabetes in adults in Sri Lanka - Sri Lanka Diabetes, Cardiovascular Study (SLDCS). *Diabet Med.* 25(9): 1062-9.
- Katulanda P., Ranasinghe P., Jayawardana R., Sheriff, R & Matthews, D.R. (2012). Metabolic syndrome among Sri Lankan adults: Prevalence, patterns and correlates. *Diabetology & Metabolic Syndrome 4*(1), 24.
- Koyama, K. (2011). Effects of Health Check-ups on Improving Health Promoting Behaviour with Regard to Lifestyle-Related Diseases in Sri Lanka.
- MacMahon, S., Neal, B.. & Rodgers, A. Hypertension- time to move on. *Lancet*, 365(9646),1108-09.

- Ministry of Health (2011). Country Report, Regional Meeting on Health and Development Challenges of Noncommunicable Diseases, 1-4 March 2011, Jakarta.
- Ministry of Health (2012). Abstracts of non communicable diseases and prevalence of risk factors in Sri Lanka, published from 1990 2012.
- MoH, (2008). Risk Factor Surveillance.
- Ministry of Health, Nutrition Division (2011). Food based dietary guidelines for Sri Lankans.
- Misra A., Khurana L., Isharwal S. & Bhardwaj S., South Asian diets and insulin resistance. *Br. J Nutrition 2009, 101*(4), 465-473.

Pathmeswaran, et al. (2009). Ragama Health Study: Analysis of baseline survey.

- WHO (2012). Report of the Formal Meeting of Member States to conclude the work on the Comprehensive Global Monitoring Framework, including indicators, and a set of voluntary global targets for the prevention and control of noncommunicable diseases, November 21, 2012. World Health Organization.
- WHO. (1986). *The Ottawa charter on health promotion*. (WHO/HPR/HEP/95.1). Ottawa: The World Health Organization.
- Wijewardene, K., Mohideen M.R., Mendis S., Fernando D.S., Kulathilaka, T., Weerasekara, D., *et al.* (2005). Prevalence of hypertension, diabetes, and obesity: baseline findings of a population-based survey in four Provinces in Sri Lanka. *Ceylon Medical Journal*, 50(2): 62-70.
- World Bank, Project Information Document (Appraisal Stage) Sri Lanka Second Health Sector Development Project –Report No: **PIDA556.** Retrieved from http://www-wds.worldbank.org.

World Bank, 2011, Sri Lanka Health Sector Development Project - Report No. ICR1842

添付資料

- 添付 1: PDM Version 4
- 添付 2: スリランカ側カウンターパート
- 添付 3: 専門家派遣実績
- 添付 4: 機材リスト
- 添付 5: 研修員受け入れ実績
- 添付 6: NPP ガイドライン、マニュアル、ツール類
- 添付 7: コスト分析報告書

添付 1: PDM Version 4

健康増進・予防医療サービス向上プロジェクト プロジェクトデザインマトリックス

対象地域: Polonnaruwa District, Kurunegala District & Ragama MOH area ターゲットグループ: Around 200,000 people in the target area

期間: May 2008-March 2013

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS (OVI)	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
OVERALL GOAL		1. Annual Report of NCD	
Effective and efficient implementation models to prevent and control NCDs (DM, Hypertension and Hypercholesterolemia) are implemented in Sri lanka.	 One hundred (100) % of districts have implemented the check- up/guidance and health promotion activities. The annual incidence of cardiovascular diseases starts to decline in 	Directorate 2. Regional/district &	
	the project area by 2018.	provincial records	
PROJECT PURPOSE (PRIORITY OUTCOME) Effective and efficient implementation models to prevent and control NCDs	 Twenty (20)% of target population is screened annually. 	1. Monthly check-up	
(DM, Hypertension, and Hypercholesterolemia) are developed.	(1) Twenty (20)/0 of target population is screened annually.	reports	
	(2) Seventy (70)% of people identified as high risk receive regular follow up guidance.	2. Project report	Priority of the NCD prevention an
	(3) Ninety (90) % of newly identified patients have received necessary	3. Project report	control is maintained in health
	treatment.		policies of Sri Lanka.
DUTPUTS			
 Risk factors of cardiovascular diseases are identified by the Ragama Health Study based on the evidence. 	 (1)-1: At least one scientific paper with regard to risk factors identified in the Ragama Health Study is accepted by an authorized peer- 	1. Project report	
	reviewed journal.	2. Scientific paper	
 Intervention guidelines and manuals are formulated based on available evidences and related literatures. 	(2)-1 The consolidated intervention guideline (for health check-up/ guidance and health promotion) is approved by JCC by 09/2012.		•
	(2)-2 The consolidated intervention guideline is adopted by MoH by 03/2013.	 Project Report Consolidated intervention guideline 	Current demographic and epidemiological trends continue.
	(2)-3 Cost analysis results of interventions assessed and disseminated among provincial and national decision makers by 12/2011.	3. Cost analysis report	Administrative setup remains the same.
B) Institutional and technical feasibilities of the consolidated intervention guideline are assessed for development of the NCD prevention models in pilot areas.	 (3)-1 Health check-up activities are regularly conducted in 90% of target health institutions by 06/2012. (2) 2 Observed a solution and formula for health sharehow (sublements) 		Sume.
	 (3)-2 Standard registries and formats for health check-up/ guidance are utilized by 12/2011. (a) A standard registries and formats for health check-up/ guidance are utilized by 12/2011. 	Project Report	
	(3)-3 A model of training mechanism for health promotion activities is developed by 06/2012.		
 Expansion plan for health check-up/ guidance and health promotion for prevention of cardiovascular diseases is finalized for island wide implementation. 	(4)-1 Steps for expansion, stakeholders and their roles, and necessary resources are identified by 09/2011.	Project Report	•
	(4)-2 The cost for island wide expansion is estimated by June 2012.		
ACTIVITIES	INPUTS		
1-1 Perform periodical risk factor surveys of the participants in Ragama.	Japanese Side		
1-2 Construct stroke and IHD registries at the Colombo North Teaching Hospital.	 Experts: Team Leader, NCD Control, Health Promotion, Health Information System Management, Cost Analysis 		Additional tasks for NCD
1-3 Establish the database for utilization of data collected from the registries and risk factor surveys in Ragama.	2) Community based risk factor profiling surveys		prevention are accepted by health personnel.
1-4 Analyse data from periodical risk factor surveys and the registries in Ragama.	3) Diagnostic equipment		
2-1 Collect and evaluate available evidence for prevention of cardiovascular diseases.	4) Computers		
2-2 Develop intervention guidelines for health check-up/guidance and health promotion for prevention of cardiovascular diseases.	5) Equipment for primary care level institutions		PRECONDITIONS
2-3 Develop manuals and tools to support implementation of activities for health check-up/guidance and health promotion for prevention of cardiovascular	6) Health promotion materials		
 diseases. 2-4 Conduct cost analysis of health check-up/ guidance and health promotion for prevention of cardiovascular diseases. 	7) Local consultants		
2-5 Finalize consolidated intervention guideline, manuals and tools based on the	8) Vehicles		
operational feasibilities and cost analysis obtained from the pilot areas.			
	9) Workshops, trainings, meetings		
 3-1 Identify necessary resources for implementation of health check-up/guidance. 3-2 Develop an implementation plan for health check-up/guidance at the district level. 	9) Workshops, trainings, meetings10) Counterpart training in Japan		
3-1 Identify necessary resources for implementation of health check-up/guidance.3-2 Develop an implementation plan for health check-up/guidance at the district			
 3-1 Identify necessary resources for implementation of health check-up/guidance. 3-2 Develop an implementation plan for health check-up/guidance at the district level. 3-3 Conduct training for relevant health staff on health check-up/guidance. 3-4 Conduct health check-up/ guidance in target MOH areas. 	 10) Counterpart training in Japan Sri Lankan Side 1) Counterparts 		
 3-1 Identify necessary resources for implementation of health check-up/guidance. 3-2 Develop an implementation plan for health check-up/guidance at the district level. 3-3 Conduct training for relevant health staff on health check-up/guidance. 3-4 Conduct health check-up/ guidance in target MOH areas. 3-5 Ensure referral & back-referral system for diagnosed patients. 	 10) Counterpart training in Japan Sri Lankan Side Counterparts Office space and necessary office facilities 		
 3-1 Identify necessary resources for implementation of health check-up/guidance. 3-2 Develop an implementation plan for health check-up/guidance at the district level. 3-3 Conduct training for relevant health staff on health check-up/guidance. 3-4 Conduct health check-up/ guidance in target MOH areas. 3-5 Ensure referral & back-referral system for diagnosed patients. 3-6 Implement follow up guidance for high-risk people identified at health check-ups. 	 10) Counterpart training in Japan Sri Lankan Side Counterparts Office space and necessary office facilities Project office running expenses 		
 3-1 Identify necessary resources for implementation of health check-up/guidance. 3-2 Develop an implementation plan for health check-up/guidance at the district level. 3-3 Conduct training for relevant health staff on health check-up/guidance. 3-4 Conduct health check-up/ guidance in target MOH areas. 3-5 Ensure referral & back-referral system for diagnosed patients. 3-6 Implement follow up guidance for high-risk people identified at health check-up/guidance. 	 10) Counterpart training in Japan Sri Lankan Side Counterparts Office space and necessary office facilities 		Therapeutic drugs are available f treatment.

- 3-9 Assist health promoters to establish health promotion settings.
- 3-10 Monitor and evaluate the activity status of health check-up/ guidance and health promotion.
- 3-11 Conduct awareness programmes for NCD prevention and control.
- 4-1 Review the achievement of the project activities for health check-up/ guidance and health promotion for cardiovascular diseases prevention.
- $\ensuremath{\textbf{4-2}}$ Review and analyse the various approaches and activities for NCD prevention and control by different agencies.
- 4-3 Estimate financial and human resource requirements based on the results.
- 4-4 Develop capacity building methods for health check-up/ guidance and health promotion for prevention of cardiovascular diseases.
- 4-5 Identify appropriate level and allocation of necessary resources such as equipment and drugs for island wide expansion.

5) Necessary expenses for implementation of the project activities

添付 2: スリランカ側カウンターパート

Title	Name	NPP 1 (2008/05-2009/3)	NPP 2 (2009/4-2010/3)	NPP 3 (2010/04-2011/03)	NPP 4 (2011/05-2012/03)	NPP 5 (2012/04-2013/03)
Project Director (Secretary, Health)	Dr. Athula Kahandaliyanage	2008/04 - 20	10/01			
(Acting)) Dr. Y. D. Nihal Jayathilaka					
	Dr. T. R. C. Ruberu			2010,	/04 - 2012/07	
	Dr. Y. D. Nihal Jayathilaka					2012/07 -
Project Manager (DDG/Planning)	Dr. Sarath Samarage	2008/04 - 20	10/01			
	Dr. Wimal Jayantha				2010/01 -	
Director NCD	Dr. L. Somathunga	2008/04 - 2009/01				
	Dr. L. Panapitiya		2009/01 - 2010/05			
	Dr. Champa Aluthweera			2010/05 - 2011/05		
	Dr. Thalatha Liyanage				2011	1/05 -
Director HEB	Dr. Sarath Amunugama		2008/04 - 2011	/11		
(Acting)	Dr. r. D. F. C. Kanthi				2011/11 - 2	012/07
	Dr. Neelamani Rajapaksa					2012/07 -
MO/NCD Kurunegala	Dr. Nihal Edirisinghe	2008/04 - 2009/08				
	Dr. Shamalee Amarasinghe				2009/08 -	
MO/NCD Polonnaruwa	Dr. Ranga Chandrasena		2008/04 - 2011,	/11		
	Dr. Indika Udaya Kumara					2011/11 -

添付 3: 専門家派遣実績

専門家派遣実績

	名前	分野	2008	2009	2010	2011	2012	Total
1	西野 桂子	総括/NCD 対策/ヘルスプロモーション	3.7	3.5	4.0	5.5	6.6	23.3
2	F フローレス	副総括/NCD 対策	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0	8.8
3	小川 陽子	副総括/ヘルスプロモーション	0.0	0.5	3.7	0.3	0.0	4.5
4	村山 智子	副総括/臨床疫学	3.0	4.7	4.4	4.4	6.5	23.0
5	佐多 玲子	医療情報システム/保健指導	0.0	0.0	3.2	5.6	6.4	15.2
6	神谷 康彦	臨床疫学/NCD 対策	1.6	0.7	1.0	1.3	0.6	5.2
7	杉本 孝夫	コスト分析	0.7	1.3	1.4	1.5	0.8	5.7
8	渡辺 鋼一朗	ヘルスプロモーション/医療情報システム	3.5	1.7	0.0	0.0	0.0	5.2
9	内田 康彦	医療財政	0.0	0.3	0.0	0.3	0.0	0.6
10	田寺 亜希子	研修管理	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.0
11	岩田 淳	研修管理	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	1.0
		Total	17.9	18.1	18.2	19.4	20.9	94.5

添付 3

添付 4: 機材リスト

添付 4

供与機材リスト

	וייע פוארידיע							
	Item	Price (SLRS)	Date Procured	Used at	Quantity	Condition		
	1st year (2008.5 - 2009.3)							
1	Desktop Computer(HP Pavillion A63181)	132,000	11/09/2008	University of Kelaniya	1	good		
2	Printer(HP D 2460)	17,000	12/09/2008	University of Kelaniya	1	good		
3	Laptop Computer(HP Compaq V6901-TU)	155,000	11/09/2008	NPP Kurunegala/NPP Polonnaruwa	2	good		
4	Photo Copy Machine(Panasonic DP 8020E)	215,000	24/09/2008	NPP Colombo	1	good		
5	Photo Copy Machine(Panasonic DP 8016)	125,000	24/09/2008	NPP Kurunegala/NPP Polonnaruwa	2	good		
6	Digital Blood Pressure Monitor(OMRON IA2)	11,000	23/01/2009	Screening centers in Kurunegala,Polonnaruwa	13	good		
7	Glucometer(EZ Smart Standard)	5,980	24/01/2009	Screening centers in Kurunegala,Polonnaruwa	13	good		
8	Pointe 180 II Analyzer	456,521	23/01/2009	BH Dambadeniya	1	good		
9	Pointe 180 II Analyzer	456,521	26/01/2009	BH Medirigiriya	1	good		
	2nd year (2009.4 - 2010.3)							
10	Desktop Computer(The Technology Ld)	102,203	20/10/2009	RDHS Kurunegala/RDHS Polonnaruwa	2	good		
11	Printer(HP D 1660)	11,450	15/12/2009	RDHS Kurunegala/RDHS Polonnaruwa	2	good		
12	Sony Cybershot Digital Camera	35,943	21/12/2009	NPP Kurunegala, Polonnaruwa	2	good		
13	Sony Handycam DCR-SR67C	69,653	21/12/2009	NPP Colombo	1	good		
	3rd year (2010.4 - 2011.3)							
14	Laptop Computer(Dell Inspiron N4010)	112,260	09/03/2011	Dambadeniya Base Hospital/Narammala District Hospital/Alawwa District Hospital/Medirigiriya Base Hospital	4	good		
15	Projector(HITACHI CP-RX79)	112,000	09/03/2011	Dambadeniya Base Hospital/Narammala District Hospital/Alawwa District Hospital/Medirigiriya Base Hospital	4	good		
16	Sony Digital Video Camera SR68	53,000	15/11/2011	NPP Polonnaruwa	1	good		
	4th year (2011.5-2012.3)					•		
17	Desktop Computer	95,000	27/10/2011	NCD Unit, MoH	1	good		
18	SPSS	846,496	27/10/2011	NCD Unit, MoH	1	good		
19	TV (Sharp LC32AF20)	47,633	06/03/2012	HLCs in Kurunegala	27 sets	good		
20	DVD (LG DV652)	6,308	06/03/2012	HLCs Polonnaruwa	7 sets	good		
21	Blood Pressure Monitor (Omron HBP-9020)	217,750	03/02/2012	Institutions in Colombo	5 sets	good		
22	Desk	5,834	06/03/2012	Institutions in Kurunegala	10 sets	good		
23	Chair	9,584	06/03/2012	Institutions in Polonnaruwa	10 sets	good		

添付 5: 研修員受け入れ実績

研修員受入実績

	第2年	手次(2009年度)	第3年	三次(2010年度)	第4年次(2011年度)		
研修員 氏名 役職			Dr. R. Wimal Jayantha Deputy Director General, Planning, Ministry of Health		Dr. Thalatha Liyanage Director, NCD Unit, Ministry of Health		
	Dr. P. Yapa Regional Director of Healt	h Service, Kurunegala District	Dr. Champa Aluthweera Director NCD unit, Minist	ry of Health	Dr. Virginie Mallawarach Consultant Community Pl	chi nysician, NCD Unit, Ministry of Health	
	Dr. J.M.T.B Balalla Medical Officer of Health, District	Narammala MOH, Kurunegala	Dr. Shamalee Amarasingh Medical Officer NCD, RD		Dr. S. Noel Udugama Regional Director of Heal	th Service, Polonnaruwa District	
	Dr. P.L Atapattu Regional Director of Healt	h Service, Polonnaruwa District	Dr. Indika Udaya Kumara Medical Officer NCD, RD		Dr. Deegayo. Nayakarathi AMOH Alawwa, Kuruneg		
	Dr. W.A.A.U Kumara Medical Officer of Health, Medirigiriya MOH, Polonnaruwa District						
研修分野		保健医療		保健医療		保健医療	
研修期間	2009年7月	月20日-2009年8月4日	2010年6月6日-2010年6月19日		2012年2月19日-2012年3月1日		
研修先および	川崎区役所、川崎市立 病院	政令指定都市川崎市の健康への取 組紹介、母子健診・市立病院見学	厚生労働省	国レベルの生活習慣病取組理解	厚生労働省	国レベルの生活習慣病取組理解	
研修概要	医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	聖マリア病院の健診実施体制視察	熊本県保健福祉部健康 づくり推進課	県レベルの生活習慣病取組視察	医療法人雪の聖母会	日本の社会保障体制 聖マリア病院の健診実施体制視察	
	財団法人福岡県すこや か健康事業団 久留米 総合健診センター	健診結果の情報処理システム視察 巡回健診現状視察	全国健康保健協会熊本 支部	健保組合における生活習慣病取組 視察	聖マリア病院	病院の健康増進活動 日本の生活習慣病の現状と対策	
	クロレラ工業株式会社九 州工場	企業健診視察	熊本県スポーツ振興事 業団	県レベルの生活習慣病取組視察	財団法人福岡県すこや か健康事業団 久留米	健診結果の情報処理システム視察 コミュニティでの健康増進活動視察	
	久留米市役所	健康日本21および健康久留米21の 役割理解	医療法人雪の聖母会 聖マリア病院	聖マリア病院の健診実施体制視察	総合健診センター	巡回健診現状視察 健康診断機関の役割と実際の活動	
	小郡市総合保健福祉セ ンター「あすてらす」	あすてらすの健康増進活動視察	財団法人福岡県すこや か健康事業団 久留米 総合健診センター	健診結果の情報処理システム視察 巡回健診現状視察	久留米市教育委員会	学校保健視察·食育理解	
	国際ヒバクシャ医療セン ター	被爆者医療および健診視察	大牟田市役所	市町および保健所の生活習慣病取 組	小郡市総合保健福祉セ ンター「あすてらす」	あすてらすの健康増進活動視察	
	長崎県北松浦郡佐々町	町レベルにおける住民健診実施状況 視察	小郡市総合保健福祉セ ンター「あすてらす」	あすてらすの健康増進活動視察	大牟田市役所	市町および保健所の生活習慣病取 組視察	
	長崎県大村市福祉保健 部	市およびボランティアによる健康増進 体験	長崎大学大学院 国際開発研究科	疫学調査に基づく生活習慣病戦略理 解			

添付 6: NPP ガイドライン、マニュアル、ツール類

	Name	Image	Contents/Usage/Language
1	Guidelines for NCD Prevention	ETTELTES FOR NCD PREVENTION AUGUSTON HEADER	 Principles and guidelines for NCD prevention English
2	Screening manual	ຄວາ ອາງຍາ ອວາອ ອວີກອາ ອາກີອອາກ ອີ້ມີມີ	 For conducting screening Basic steps for screening A4 size booklet English, Sinhala, Tamil
3	Flip chart	වා වා වා වා වා වා වා වා වා වා වා වා වා ව	 For general health guidance Basic information on NCDs, risk factors and causes, prevention methods A3 size ring binding Sinhala, Tamil
4	Flip chart guide-book		 Supplementary guidebook on how to use flip chart More information on NCDs, risk factors and causes, prevention methods A4 size booklet Sinhala, Tamil

NPP 制作ガイドライン・マニュアル・ツール類 添付 6

5	Self-check calendar		 For individual monitoring of physical exercise, diet and smoking cessation (2012 calendar) For follow up and health promotion 18 x 23 inches
6	Stickers for health record (or exercise book)	ALCOHOL CESSATION So ALCOHOL CESSATION ALCOHOL ALCO	 For monitoring individual improvements on physical exercise, diet, smoking cessation and alcohol intake. For follow up and health promotion Seven varieties
7	Exercise DVD	Physical Enerciess for the Effectiv Define Soft Decrearie	 Easy physical exercise with instruction Suitable for elderly people For showing at HLCs, OPD waiting rooms and special events DVD
8	Exercise instruction book	Image: state and state an	 Stretching and light exercises for health Suitable for exercise workshop with instructor Original booklet was developed by Kumamoto Sports Promotion Association and Asuterasu (Ogori city) in Japan A4size

9	BMI poster	BBDD specified gas0 adda adaa Baddill Blockster, oba car adda0 BMI noa quaddadd ad Barga, addul BMI = interplating Barga, addul	 For easy calculation of BMI Suitable for the wall of health institutions, MOHs and workplaces 36 x 48 inches
10	BMI wheel		 For easy calculation of BMI Suitable for community screening Not as accurate as BMI chart 6 x 6 inches
11	Food based dietary guidelines for Sri Lanka	Food Based Dietary Barbar Barbar	 For medical officers to understand nutrition and diet (published by the Nutrition Division, Ministry of Health, 2011) Including key messages for improving diet A5 size booklet
12	Food guide for general public	estate discrete discr	 Suitable for field workers to use in a nutrition session Easy reference on nutrition and diet (published by the Nutrition Division, 2010) A5 size booklet
13	PHM reference card		 Suitable for PHMs to provide nutrition guidance for general public Recommended daily nutrition intake for each generation, function of each nutrient, BMI calculation formula,

			health guidance messages.
			A4 size leaflet (4 faces)
14	Nutrition flash card	ビスの口(c) C	 Food photograph cards with explanation of nutrients Suitable for PHMs to discuss about menu planning 82 cards
15	NCD posters		 General message on NCD risk factors (blue) and healthy lifestyle to prevent these risks (pink) Suitable for health institutions, MOH and workplaces Sinhala, Tamil
16	Poster for healthy lifestyle	Sicilia Bile dollar and service with relations of the service of t	 Health is the best wealth Health information for general public Encourage public to visit Healthy Lifestyle Centres Suitable to be posted in health institutions and MOH offices Sinhala, Tamil
17	Health promotion resource book for setting facilitators	Health Feamatian Joe the Presentian of Lifestyle Diseases: A Besaurce Back for Facilitates	 General information on health promotion with specific emphasis on NCDs Suitable for health professionals, school teachers and setting leaders A4 size booklet English

18	Exercise for healthy future	Image: section of the section of th	 Stretching and general movement for exercise Instructor: Ms. Rinko Sataka Sinhala & Tamil
19	Training DVD for Healthy Lifestyle Centres	TOT I III LAT HEIRING OF THE TATE OF THE T	 Screening, health guidance, data management, monitoring and evaluation. Sinhala & Tamil
20	Training DVD for general public	Image: Selection of the	 ➢ General health guidance and health promotion ➢ Sinhala & Tamil

添付 7: コスト分析報告書



Project on Health Promotion and Preventive Care Measures of Chronic NCDs NCD Prevention Project

Cost Analysis Report

NCD Prevention Project

December 2011

Ministry of Health

Japan International Cooperation Agency

Cost Analysis Report NCD Prevention Project

December 2011

Dr. Anuradhani Kasturiratne Dr. Lasantha Ranwala Mr. Takao Sugimoto

Table of Contents

Table of Contents ······i	
List of Tables ······iii	
Introductionvi	

Report 1 Cost analysis : Third Year of the NCD Prevention Project

1	An outline of the cost analysis process1
2	Study of check-up costs (provisional calculation based on cost accounting)1
	2.1 Study method ······1
	2.2 Analysis of check-up costs2
	2.3 Details of the check-up process in practice2
	2.4 Differences in check-up systems in the 2 pilot areas
	(Kurunegala and Polonnaruwa Districts)3
	2.5 Review of the personnel costs incurred in the check-up process
	2.6 Estimation of the check-up system based on the study6
	2.7 Cost analysis for check-ups ······8
	2.8 Costs incurred by participants in having the check-up12
3	Costs of Illness study
	3.1 Study method ······14
	3.2 Costs of Illness incurred by hospitalization14
	3.3 Analysis of direct and indirect costs to inpatients
4	Future Activities

Report 2: Cost of participation in the health check-up component of the

Non-communicable Disease Prevention Project (NPP) and Cost of hospitalization for selected non-communicable disease in Kurunegala and Polonnaruwa districts

1	Introduction	27
	1.1 Background	27
	1.2 Non-communicable disease Prevention (NPP) Project	27
	1.3 Justification	
	1.4 Objectives	
	1.5 General Objective:	
	1.6 Specific Objectives:	

2	Methods	29
	2.1 Study design:	29
	2.2 Study setting:	29
	2.3 Study period:	29
	2.4 Study population:	29
	2.5 Sample size:	31
	2.6 Sampling:	32
	2.7 Data collection instruments:	32
	2.8 Data collection:	33
	2.9 Data analysis:	33
	2.10 Administrative considerations:	33
	2.11 Ethical considerations:	33
3	Results	34
	3.1 Cost of participation in the health check-up programme of the NPP Project	34
	3.2 Household costs of hospitalization for four major non-communicable diseases	
	in Sri Lanka	38
	3.3 Cost of in-patient care for four major non-communicable diseases	
	in Sri Lanka	46
	1) Cerebro-vascular accidents (CVA)	47
	2) Myocardial infarction	48
	3) Ischaemic Heart Disease	49
	4) Diabetes mellitus	50
4	Discussion	51
	4.1 Cost of participation in the health check-up programme of the NPP Project	51
	4.2 Household cost of hospitalization for four major non-communicable diseases	
	in Sri Lanka	53
	4.3 Cost of in-patient care for four major non-communicable diseases	
	in Sri Lanka	56
	1) Cerebro-vascular accident (CVA)	57
	2) Myocardial infarction	58
	3) Ischaemic Heart Disease	58
	4) Diabetes mellitus	59

List of Tables

Report 1 Cost analysis : Third Year of the NCD Prevention Project

Table 1	Details of the check-up processes	3
Table 2	Personnel in charge of different activities at the two study sites	5
Table 3	Personnel cost per check-up/health guidance participant	6
Table 4	An average check-up system	6
Table 5	Check-up plan and annual results	7
Table 6	Simulation of annual check-up results based on the averages	
	determined by the study	7
Table 7	Annual total No. of hours spent on check-ups and Health Guidance	
	by personnel (estimate)	8
Table 8	Costs necessary for the implementation of check-ups	
	(the value unit is Sri Lanka rupee)	9
Table 9	Simulation 1)1	0
Table 10	Simulation 2)1	0
Table 11	Time spent on the implementation of check-ups 1	1
Table 12	Disaggregated cost information relating to implementation of check-ups1	2
Table 13	No. of survey subjects 1	2
Table 14	Costs incurred by participants to have a check-up (Rs.)1	3
Table 15	Income loss for participants as a result of having a check-up (Rs.)1	3
Table 16	No. of BHTs in the target illness-based and hospital-based study 1	5
Table 17	Basic cost of hospitalization per internal medicine patient per day	
	at BH Marawila (for 2009)1	6
Table 18	Hospitalization cost per Cerebro-vascular accident patient1	7
Table 19	Hospitalization cost per Myocardial infarction patient1	7
Table 20	Hospitalization cost per Ischemic heart disease patient1	8
Table 21	Hospitalization cost per Diabetes mellitus patient1	8
Table 22	No. of surveyed patients per hospital 1	8
Table 23	Travel cost incurred due to hospitalization (Rs.)1	9
Table 24	Travel cost incurred by the patient's family for hospital visits (Rs.) 1	9
Table 25	Impact of hospitalization on household finances (Rs.) 1	9
Report 2 Cost of participation in the health check-up component of the Non-communicable Disease Prevention Project (NPP) and Cost of hospitalization for selected non-communicable disease in Kurunegala and Polonnaruwa districts

Table 1 Di	istribution of participants by MOH area
	istance to the check-up centre by district
Table 3 Ag	ge distribution of the participants
Table 4 Se	ex distribution of the participants
Table 5 Di	istribution of participants by occupational category
Table 6 Di	istribution of participants by educational level and district
Table 7 Di	istribution of participants by monthly family income
Table 8 Di	istribution of participants by family size
Table 9 Di	istribution of participants by mode of transport used to come to
th	ne check-up centre ······37
Table 10	Cost of traveling to the check-up centre
Table 11	ncidental expenses incurred due to participation in the check-up
Table 12	Total direct cost of participation in the check-up
Table 13 L	Loss of income due to participation in the check-up
Table 14	Total loss of income to the family due to participation in the check-up
Table 15	Distribution of patients by district and hospital
	Age distribution of the participants
	Sex distribution of the participants
Table 18	Distribution of participants by occupational category
	Distribution of participants by educational level40
Table 20	Distribution of participants by monthly family income
Table 21	Distribution of participants by family size40
Table 22	Distribution of participants by mode of transport used to come to hospital
Table 23	Distribution of participants by the expected mode of transport to
9	go back on discharge······41
Table 24	Travel cost of hospitalization by district41
Table 25	Travel cost of hospitalization by hospital42
Table 26 L	Loss of income and costs due to accompanying the patient to hospital
	by district and hospital42
Table 27 (Costs incurred by the household for visiting the patient in hospital by
	district and hospital42

Table 28	Costs incurred by the household for keeping a companion by
	district and hospital43
Table 29	Costs incurred by the household for food bought for consumption
	of the patient by district and hospital43
Table 30	Cost of medications for the patient by district and hospital
Table 31	Cost of laboratory investigation of the patient by district and hospital
Table 32	Loss of income by the patient's household by district and hospital45
Table 33	Total direct household cost of hospitalization by district and hospital45
Table 34	Total household cost (direct and indirect) of hospitalization
	by district and hospital46
Table 35	Distribution of patients by hospital and disease46
Table 36	Median duration of stay (interquartile range) by hospital and disease47
Table 37	Median cost of different elements of in-patient care for
	Cerebro-vascular accident 47
Table 38	Accommodation cost of Cerebro-vascular accident by hospital48
Table 39	Total cost of in-patient care for Cerebro-vascular accident by hospital
Table 40	Median cost of different elements of in-patient care for
	Myocardial infarction 48
Table 41	Accommodation cost of Myocardial infarction by hospital49
Table 42	Total cost of in-patient care for Myocardial infarction by hospital
Table 43	Median cost of different elements of in-patient care for
	ischaemic heart disease49
Table 44	Accommodation cost of ischaemic heart disease by hospital50
Table 45	Total cost of in-patient care for ischaemic heart disease by hospital
Table 46	Median cost of different elements of in-patient care for Diabetes mellitus
Table 47	Accommodation cost of Diabetes mellitus by hospital51
Table 48	Total cost of in-patient care for Diabetes mellitus by hospital51

Introduction

Background

The Ministry of Health (MoH) of Sri Lanka initiated the "Project on Health Promotion and Preventive Measures of Chronic NCDs" (or NCD Prevention Project or NPP) as one of its major undertakings to address the growing health and economic burden of chronic non-communicable diseases. The NPP is one of the Health Master Plan priorities and a follow up to the "Evidence-Based Management (EBM) Study" that was supported by the Japan International Cooperation Agency (JICA). Based on a request from the government of Sri Lanka, JICA dispatched the preparatory mission in December 2007, and the Record of Discussion (R/D) was signed on the 27th of February 2008 between Mrs. Noriko Suzuki, Resident Representative of JICA Sri Lanka Office and Dr. Athula Kahandaliyanage, Secretary of the Ministry of Health. The five-year Technical Assistant Project officially commenced on May 12' 2008 with the arrival of Japanese experts.

Project Purpose & Overall Goals

The Purpose of this five-year project (2008 – 2013) is to develop "effective and efficient implementation models to prevent and control NCDs (DM, Hypertension, and hypercholesterolemia)". The models developed by NPP are designed to initiate appropriate deployment of human resources and health infrastructure and thereby contribute to island-wide implementation in the future.

Outputs

With the following four outputs, the NPP is expected to achieve the Project Purpose:

Output 1: Risk factors of cardiovascular diseases are identified in the Ragama Health Study based on the evidence.

Output 2: Intervention guidelines and manuals are formulated based on available evidence and related literatures.

Output 3: Institutional and technical feasibilities of the consolidated intervention guidelines are assessed for development of the NCD prevention models in pilot areas.

Output 4: Expansion plan for health check-up/ guidance and health promotion for prevention of cardiovascular diseases is finalized for island wide implementation.

Cost Analysis of Third Year Activities

The cost analysis is a designated activity to achieve Output 2 of the project.

The costs required for the implementation of medical check-ups, the number of health and medical personnel required to carry out these check-ups and the costs involved in training the personnel, were calculated for the third year, based on the past results of the project. The check-ups were conducted in two districts of the project's target area: the North Central Province and North Western Province over the last two years. The objective of these activities was to enable us to tentatively calculate the financial and human resources necessary for broader scaled-up implementation



Systemic and household Cost analysis

Following the advice of Prof. Amala de Silva (Department of Economics, University of Colombo), we requested Dr. Lasantha Ranwala (a student at the Postgraduate Institute of Medicine) to determine the costs required for check-ups, and Dr. Anuradhani Kasturiratne (a lecturer in the Department of Public Health, University of Kelaniya) to determine the costs of illness and indirect costs related to check-ups, as the components of costing NCD prevention. Both doctors were qualified to carry out this study, as they had previously been involved in hospital

department-based and illness-based cost accounting during the Development Study Phase II - on Evidence-based Management for Health System Development in Sri Lanka "Category 2: Improvement of Hospital Finance with Cost Accounting and Development of Information System" - implemented from October 2005 to October 2007.

I would like to thank Dr. R.W.Jayantha, DDG/Planning, and Dr.Thalatha Liyanage, Director/NCD for supporting our study. And special thanks to all authors and research assistants for their serious manner to research work.

Takao Sugimoto Person in Charge of Cost Analysis for NPP

Report 1

Cost Analysis

Third Year of the NCD Prevention Project

Lasantha Ranwala Takao Sugimoto

A study conducted for Japan International Cooperation Agency

2010

1 An outline of the cost analysis process

The cost analysis process can generally be divided into two categories of costs: costs required for the check-ups, and costs of illness.

We carried out the study of costing the check-ups separately for the two pilot districts (Kurunegala and Polonnaruwa Districts), as they had introduced different check-up systems. Two different types of cost were collated: direct costs, such as costs of personnel, supplies and equipment required for the actual implementation of check-ups, and indirect costs, borne in training the human resources involved in the check-ups, and for the establishment of a check-up program.

Also, assuming that the costs of illness will be used for a cost-benefit analysis at a later stage, we tabulated the costs, dividing them into direct costs (hospitalization, medical personnel, nursing personnel, treatment, tests and drugs) and indirect costs (cost of travelling to the hospital, medication costs borne by patients, cost of meals, and loss of income).

Calculating costs of illness is important in this study because if patients are not screened and early intervention undertaken patients will end up with episodes of hospitalization that are expensive to both the health system and households.

Such cost accounting exercises, incorporating costing studies of specific diseases, could contribute to quantitative, evidence based decision making. As these special cost studies will be based on speculative accounting, the results will never be completely accurate. The data and background information available for the calculation of costs or for utilization in the accounting process are however fundamental. At a practical level, the key to correct decision-making depends on how precisely appropriate information regarding activities can be gathered.

2 Study of check-up costs (provisional calculation based on cost accounting)

2.1 Study method

[Check-ups]

The pilot implementation of check-ups started in July 2009. For this analysis, we utilized data from the most recent time period after the activity went on line: November 2009 to October 2010. For the analysis, we were able to obtain key data regarding the check-ups and health guidance, including how long they took and who implemented them, using the "NCD Check-up Observation Report (Annex 1) prepared by a Project Officer (PO) attending the check-up session. Based on this data, check-up costs were calculated which reflected the actual purchase prices of equipment

and supplies. As POs either did not attend or prepare reports for some check-up sessions, we could only analyse the reports of around half the check-up sessions implemented during the relevant period (111 sessions in Kurunegala and 46 sessions in Polonnaruwa).

[Training]

We calculated the costs incurred in the five training sessions targeted at check-up staff held prior to the check-up activity.

[Other costs]

We surveyed past records to obtain stationery costs and the costs borne in printing the check-up manual and the assessment table.

[Indirect costs]

We estimated the costs incurred by check-up participants (travel cost to and from the check-up site, eating-out cost, income lost by participating in a check-up, and other costs incurred due to the check-up). As these data can only be obtained by interviewing the check-up participants, we employed research assistants and proceeded with a survey of 400 people in each district; a total of 800 people.

2.2 Analysis of check-up costs

There are two methods of cost analysis: one is to divide costs into direct costs and indirect costs; the other is to divide costs into fixed costs and variable costs. In this survey, we tried to calculate not only the costs directly related to check-ups, but also the costs indirectly borne as a result of conducting the check-ups. Moreover, as it was necessary to perform an analysis to determine both the budget and manpower necessary to expand this project to the national level, we decided to separate the costs into two types: fixed costs used for the implementation of check-ups irrespective of participant numbers, and variable costs that are directly linked to individual check-up participants. Fixed costs included costs such as the expenditure on the building, furnishings and personnel, Variable costs estimated per participant coverage expenditure on medical materials, consumables and stationary. However, while we consider personnel costs to be a fixed cost, they may also be considered a variable cost. The study involves simulations formulated through recalculating costs based on the study findings regarding the actual time spent on screening individual participants.

2.3 Details of the check-up process in practice

Details relating to the screening process, as observed at the two sites, are given in Table 1. The

study focuses on 111 check-up sessions in the Kurunegala District, where the average number of participants per check-up session was 27.3 people, the average time taken was 1.7 hours, and the average number of allocated personnel was 4.1; and on the 46 sessions held in the Polonnaruwa District, where the average number of participants per check-up session was 26.5 people, the average time taken was 1.5 hours, and the average number of allocated personnel was 4.2. Although it seems that there were hardly any differences between the districts when comparing the average data per check-up session, it is necessary to take the differences in the check-up process into account. These differences are described later in section 4.4. We also carried out a similar study on health guidance held after each check-up session. In Kurunegala District, the average number of participants per health guidance session was 24.5, the average time taken was 0.9 hours, and the average number of allocated personnel was 1.2. In Polonnaruwa District, the average number of participants per health guidance session was 22.8, the average time taken was 0.5 hours, and the average number of allocated personnel was 1. Hereinafter, for the purposes of this analysis, we jointly consider the check-up and the following health guidance session as one check-up session.

	Item District	Kurur	negala	Polonr	naruwa
d	No. of check-up sessions	111	times	46	times
n-y	Total No. of participants	3,035	people	1,218	people
Check-up	Total time taken for check-ups	194.04	hours	70.25	hours
ch	Total No. of allocated personnel	454	people	194	people
0	No. of health guidance (HG) sessions	109	times	46	times
Health juidance	Total of HG participants	2,666	people	1,049	people
eal dai	Total time taken for HG	99.3	hours	23.6	hours
H gui	Total No. of allocated personnel	128	people	46	people
L	No. of check-up participants	27.3	people	26.5	people
per n	Time taken for check-up	1.7	hours	1.5	hours
	No. of allocated check-up personnel	4.1	people	4.2	people
'era(ses:	Total No. of HG participants	24.5	people	22.8	people
Average sessic	Total time taken for HG	0.9	hours	0.5	hours
4	Total No. of allocated personnel for HC	6 1.2	people	1.0	people

Table 1	Details of the check-up processes	
---------	-----------------------------------	--

2.4 Differences in check-up systems in the 2 pilot areas (Kurunegala and Polonnaruwa Districts)

The check-up systems used in the current pilot implementation areas were the One-Step System in Kurunegala District and the Two-Step System in Polonnaruwa District (hereinafter, referred to as the Kurunegala System and the Polonnaruwa System. See the flowcharts given as Annex 2 and 3.

In both systems, check-up participants were aged between 40 and 75, with no previous history of Diabetes, hypertension, Ischemic heart disease or stroke. However, the screening processes adopted in the Kurunegala System and Polonnaruwa System were different in some ways. Firstly, in the Kurunegala System, medical personnel such as doctors and nurses implemented the check-ups mainly at medical facilities such as Base Hospitals and Divisional Hospitals. In the Polonnaruwa System, Public Health Inspectors (PHIs) and Public Health Midwives (PHMs) implemented the check-ups mainly at primary care facilities such as Health Centers and Central Dispensaries. In other words, in the Kurunegala System the check-up participants had to travel to the facilities to receive the check-up, whereas in the Polonnaruwa System the check-up implementers visited the areas where the check-up participants lived.

Both check-up implementation systems were established by effectively utilizing the existing facilities, equipment, and personnel. As these new NCD prevention measures effectively utilize the existing resources, it is highly feasible that a similar strategy can be promoted at national-level on the completion of this pilot project. In cost analysis, the method of calculating fixed costs such as the costs of the facility, equipment and personnel have a great bearing on the outcomes. Use of existing facilities, equipment and personnel would minimize the fixed costs incurred by the check-up process.

This cost analysis only covers group check-ups in the study, not the clinic tests in the case of the Polonnaruwa System (i.e., the second step of the Two-Step System), as it is difficult to calculate the cost of just a few check-up participants seeking regular services in existing operating clinics. However as the direct cost of the blood glucose test using a glucometer can be calculated per participant, we included this cost in the analysis.

	District	Kuruneg	ala District	(111 times)	Polonnaruwa District (46 times)			
Item		Total No.	Total	No. of staff	Total No.	Total	No. of staff	
		rotarrior	hours	per session	rotal rtor	hours	per session	
0	Doctor	119	209.8	1.1	0	0	0	
dn-	Nurse	274	497.0	2.5	0	0	0	
eck	PHI	6	11.0	0.1	45	68.3	1.0	
Check-up	PHM	55	92.4	0.5	149	225.8	3.2	
0	Total	454	810.2	4.1	194	294.0	4.2	
	Doctor	33	30.8	0.3	0	0	0	
th	Nurse	83	74.0	0.8	0	0	0	
Health uidanc	PHI	9	8.5	0.1	40	20.4	0.9	
Health guidance	PHM	3	3.3	0.0	6	3.3	0.1	
0,	Total	128	116.5	1.2	46	23.6	1.0	
Total (Check-up+HG)		582	926.7	5.25	240	317.6	5.22	

Table 2 Personnel in charge of different activities at the two study sites

2.5 Review of the personnel costs incurred in the check-up process

There are three factors to be considered when calculating the personnel costs' in implementing the check-ups:

- 1) Determine the cost per check-up participant, by calculating the hourly salary of personnel engaged in check-ups, and the number of hours spent per check-up participant;
- Consider that the personnel cost need not be included as the personnel engaged in the check-ups already receive a salary for working in the healthcare system, and these check-ups are a part of their duties;
- 3) Determine how the check-up process resulted in an increase of duties that needed extra effort of the personnel in charge, and if that increase of duties might decrease the quality of their duty implementation, since having check-ups means that the personnel engaged in these activities have additional duties on top of their existing duties. In other words, to calculate the total number of hours that personnel were engaged in check-ups and consider measures that could be taken to recompense for these extra hours of work, such as the employment of new staff or providing incentive payments for existing staff.

We will carry out the cost analysis using these different approaches to personnel cost.

As shown in Tables 2 and 3, in Kurunegala District, the personnel costs per check-up participant and that per health guidance participant were rupees (Rs) 30.6 and Rs. 5.0, respectively, a total of Rs. 35.6; in Polonnaruwa District, the personnel costs per check-up participant and that per health guidance participant were Rs. 21.3 and Rs. 1.9, respectively, a total of Rs. 23.2. The difference in cost results from differences in the personnel used and the time spent on each activity,

In the next section, we will estimate the time that personnel were engaged in the check-ups, and review the allocation of tasks between personnel.

District		Monthly	Hourly	Kurune	egala District	Polonnaruwa District		
Item		salary	rate	Total hours	Cost per participant (Rs)	Total hours	Cost per participant (Rs)	
	Doctor (grade ii)	28,095	159.6	209.8	11.0	0	0.0	
dņ	Nurse (grade i A)	17,810	101.2	497.0	16.6	0	0.0	
Check-up	PHI	15,080	85.7	11.0	0.3	68.3	4.8	
Ġ	PHM (grade ii)	15,620	88.8	92.4	2.7	225.8	16.4	
	Total	—	—	810.2	30.6	294.0	21.3	
e	Doctor (grade ii)	28,095	159.6	30.8	1.8	0	0.0	
guidance	Nurse (grade i A)	17,810	101.2	74.0	2.8	0	0.0	
	PHI	15,080	85.7	8.5	0.3	20.4	1.7	
Health	PHM (grade ii)	15,620	88.8	3.3	0.1	3.3	0.3	
Η̈́	Total	_	_	116.5	5.0	23.6	1.9	
То	tal (Check-up+HG)	_	_	926.7	35.6	317.6	23.2	

 Table 3 Personnel cost per check-up/health guidance participant

%The hourly rate was calculated under the working conditions of 8 hours a day, 22 days a month.

2.6 Estimation of the check-up system based on the study

The details relating to the check-ups undertaken within the study and the allocation of work between the personnel engaged in the check-ups are shown in Tables 1 and 2. Based on these data, the averages relating to the implementation of one check-up are shown in Table 4. The Table presents the time required per check-up session, based on the type of activity, which in turn is related to specific personnel.

	No. of	No. of	Required	Do	octor	N	urse	F	PHI	Р	HM
	check-up sessions	participants	hours	No.	Hours	No.	Hours	No.	Hours	No.	Hours
Kurunegala	111	3,035	194.04	119	209.8	274	497.0	6	11.0	55	92.4
System	1	27.3	1.7	1.1	1.9	2.5	4.5	0.1	0.1	0.5	0.8
Polonnaruwa System	46	1,218	70.25	0	0	0	0	45	68.3	149	225.8
	1	26.5	1.5	0	0	0	0	1.0	1.5	3.2	4.9

Table 4 An average check-up system

Next, the check-up plan and past results of its implementation are examined for both districts in Table 5.

		Kurunegala District	Polonnaruwa District
	Population aged 40-75	35,983	16,849
Plan	Check-up target population	24,173	11,596
	Estimated No. of annual check-up participants	4,835	2,319
Results	No. of annual check-ups	227	91
Re	No. of annual check-up participants	6,674	2,351

Table 5 Check-up plan and annual results

This pilot project was established as a 5-year check-up implementation plan, targeting the population aged between 40 and 75 with no past history of NCDs.

The plan was implemented in July 2009. Table 5 shows the records for one year from October 2009 to

September 2010. As can be seen, the project has been implemented according to plan in Polonnaruwa District, while in Kurunegala District the project has been implemented much faster than planned. If check-ups are continuously conducted in Kurunegala District at the present pace, the target population will all be covered approximately within 3 and a half years instead of the planned 5 years. We estimate the costs for the check-up system based on the average check-up system. The check-up plan as implemented in both pilot districts and the implementation situation are shown in Tables 4 and 5.

		No.of	No.of No. of check-ups		Doctor		Nurse	
Kurunegala		check-ups			No.	Hours	No.	Hours
System	Average of study	1	27.3	1.7	1.1	1.9	3.0	5.4
	Annual results	227	6,674	385.9	250	429	681	1,226
		No.of	No. of	Required	PHI		PF	IM
Polonnaruwa		check-ups	participants	hours	No.	Hours	No.	Hours
System	Average of study	1	26.5	1.5	1.0	1.5	3.2	4.9
	Annual results	91	2,351	136.5	91	135	291	447

Table 6 Simulation of annual check-up results based on the averages determined by the study

In the Kurunegala System, PHIs and PHMs were included as check-up implementers, but only accounted for 0.6 personnel (see Table 4) so they were grouped with the nurses in this simulation exercise.

In the Kurunegala System, a total of 429 hours by doctors and 1,226 hours by nurses were spent implementing a total of 227 check-up sessions in one year. In the Polonnaruwa System, a total of 135 hours by PHIs and 447 hours by PHMs were spent implementing a total of 91 check-up sessions in one year. Furthermore, the time spent on Health Guidance implemented after the check-up is shown in Table 7. As described previously, one of the key points in cost analysis is how we take this time spent into account in the form of personnel costs.

Table 7 Annual total No. of hours spent on check-ups and Health Guidance by personnel (estimate)

District	Type of job	Check-up	HG	Total
Kurunegala	Doctor	429	64	493
Rurunegala	Nurse	1,226	175	1,401
Polonnaruwa	PHI	135	40	175
Polorinaruwa	PHM	447	6	453

2.7 Cost analysis for check-ups

As we utilized the existing buildings and furnishings for check-ups, and did not purchase anything new, we do not need to consider their costs. The same approach as applied in this pilot project, will be adopted in other areas of the country in the future.

All the devices utilized during the project were considered to be variable costs, and the costs per check-up participant were calculated on the basis of estimated service life (times used). In the Kurunegala System, blood pressure was often measured using a mercury manometer which the doctor was already using at the medical facility, but the cost was calculated as that of a digital sphygmomanometer in this analysis (as this was the chosen method for this project).

We considered that the blood glucose test was conducted on all participants in the Kurunegala System and 20% of the number of first step participants in the Polonnaruwa System. This too was calculated as a variable cost.

The initial costs listed in Table 8 are the implementation costs incurred in starting up the project. As the materials produced for this project can be utilized in other areas and over time, only printing cost will have to be borne in implementing the check-up nationally in the future. The number of training sessions for check-up implementers was 3 sessions in Polonnaruwa and twice in Kurunegala. The extra session in Polonnaruwa was due holding a training session for Step 2.

Item	Summary	Cost	Per participant	Remarks		
Building	Rooms used for check-ups	No cos	ts as the exis	ting facilities were effectively utilized.		
Furnishings	No costs as the existing facilities were effective item					
	Scale	5,244	0.54	Replaced every 10,000 times of use		
	Height chart	2,500	0.25	Replaced every 10,000 times of use		
Devices	Digital sphygmomanometer	8,500	1.19	Replaced every 10,000 times of use		
	Glucometer	4,890	1.08	Replaced every 5,000 times of use		
	Calculator	250	0.03	Replaced every year		
	Blood glucose test tapes	-	44.00	Materials directly used for individual		
	Needles	-	5.50	participants		
Materials	Disposable gloves	4.5	0.17	1 set used for each check-up participant?		
	Hand-outs	-	9.00	Given to check-up participants, eg check-up forms		
	Check-up manual production	333,000				
	BMI chart production	66,000		cing check-ups in a new area, only the or the necessary copies will be incurred. Rs.		
Initial costs	Health promotion poster production	229,000	900, 000 was spent as initial costs of designing te ma including the printing cost of Rs. 200,000.			
	Flip chart production	271,000				
	Check-up implementer training	114,000		Twice in Kurunegara		
	"	205,000	3 times in Polonnaruwa			

Table 8 Costs necessary for the implementation of check-ups (the value unit is Sri Lanka rupee)

Based on the analysis so far, we will suggest three different costing scenarios are necessary for considering check-ups given the three different approaches to personnel costs.

In cost analysis, it is necessary to consider not only the actual time the check-up takes, but also the time taken and cost required for traveling to the check-up site, and the time required by PHM for recruitment of participants. However, we did not include the time taken by the PHM for recruitment, as it was considered to be a part of this person's present Primary Health Care (PHC) duties.

We also did not think it necessary to include traveling time to the check-up site. In the Kurunegala system the check-ups were implemented in the relevant personnel's workplace. Although PHMs involved in the check-up project had to visit the subject area under the Polonnaruwa System, we did not consider the traveling time for them either as they also came from the relevant areas. In the case of the exceptions: 1 support PHI and 2 PHMs who came from other areas, we took the distance from the MOH office to the Health Centre where the check-up was implemented (an average 22 Km round-trip), and calculated travel costs. However, we did not look into travel time; in the future however it will be necessary to make sure that travel costs also include the time required for travel, as time lost in travel also has an economic cost.

Simulation 1) Calculation of staff salaries per check-up participant

Although all this money was not actually spent during the pilot implementation, we calculated the allocated cost check-up per participant by converting the personnel cost into an hourly rate. Also, the travel cost by Polonnaruwa personnel was calculated

'	Table 9	(Unit: Sri Lanka rupee)		
t		Item	Kurunegala District	Polonnaruwa District
t		Total material cost (C×A)	1,492,924	127,672
•	sts	Total personnel cost (DxA)	860,559	269,027
	Variable costs	Step 2 (E×B)	-	117,759
I	riabl	Traveling cost	-	289,080
)	Vai	Total	2,353,483	803,538
		Average per participant	98	70
		Training cost	114,000	205,000
	Initial costs	Cost for preparation of material	200,000	200,000
		Total	314,000	405,000
l	Total cos	t for check-up implementation	2,667,483	1,208,538

just for this exercise. In the case of Kurunegala District, Rs. 2,667,000 is necessary for check-ups for the target population of 24,173 people. In the case of Polonnaruwa District, Rs. 1,208,000 is necessary for the target population of 11,596 people. Based on these results, when simulating the check-up costs for other districts, initial costs need to be added to variable costs per participant and multiplied by the target population. For instance, the cost necessary to implement check-ups for a target population of 20,000 people using the Kurunegala System is Rs. 97.4 × 20,000 people + Rs. 314,000 = Rs.2,262,000

Simulation 2) Exclusion of costs which do not actually increase spending, such as staff salaries, from the total

With the assumption that check-ups can be implemented as a new project utilizing the existing manpower, only the costs that were actually spent on the pilot implementation of check-ups need to be estimated. Table 10 Simulation 2) (Unit: Sri Lanka rupee)

In Kurunegala District, Rs. 1,807,000 is necessary for check-ups for the target population of 24,173 people, and in Polonnaruwa District, Rs. 940,000 is necessary for the target population of 11,596 people.

	Item	Kurunegala District	Polonnaruwa District
6	Total variable cost (C×A)	1,492,924	127,672
cost	Step 2 (ExB)	-	117,759
Variable costs	Traveling cost	-	289,080
/aria	Total	1,492,924	534,511
An average per participant		62	47
- 0	Training cost	114,000	205,000
Initial costs	Fabrication cost	200,000	200,000
Total		314,000	405,000
	Total cost for check-up implementation	-up 1,806,986 939,51	

In this case, the cost necessary to implement check-ups of a target population of 20,000 people using the Kurunegala System is Rs. $61.8 \times 20,000$ people + Rs. 314,000, for a total of

Rs. 1,555,000. This is the figure that needs to be included in the budget for the check-up project, if it can be implemented without increasing the number of personnel.

Simulation 3) Review of the costs actually spent and the time spent by personnel

The material and equipment costs directly necessary for the implementation of check-ups and the training cost for personnel engaged in check-ups are calculated as in Simulation 2. However, in this case it is necessary to clarify how we view the time spent by personnel for the implementation of the check-ups.

If check-ups for a target population can be implemented by part-timers, the simplest way is to calculate the "hourly rate × No. of hours engaged in check-ups" as shown in Simulation 1. However, the check-up project has been actually promoted based on the idea of utilizing existing manpower. How much impact the implementation of these pilot check-ups had on existing workload, and if it increased the burden of people involved unduly is unknown, as this cost analysis survey did not look into such details. However given that there could have been such impacts, it is necessary to examine how to recompense for the hours spent on check-ups in some form or other.

District	Type of job	Annually	Target population
Kurunegala 227 times a	Doctor	493 hours	1,785
year	Nurse	1,401 hours	5,074
Polonnaruwa	PHI	175 hours	863
91 times a year	PHM	453 hours	2,234

Table 11 Time spent on the implementation of check-ups

The total time spent on check-ups, based on the type of personnel, is shown in Table 11. A lot of personnel are involved in these check-ups. For instance, personnel at 9 facilities

carry out the check-up sessions about twice a month in Kurunegala. In Polonnaruwa, check-up sessions are conducted once or twice a month in 23 PHM areas. In this system, personnel share the duties and so individuals are not overly burdened. In both systems, in general, efficient approaches have been introduced to carry out the check-ups without increasing manpower.

However, in order to keep the motivation of the existing personnel high and continue the project, it is necessary to examine alternative ways to cover the extra work involved in providing the check-up sessions. One way would be to calculate the workload involved and allocate new personnel: this would involve including in the budget, personnel costs using the hourly rate of personnel as calculated using simulation 1. The alternative would be to add this cost to simulation 2 in the form of incentive payments to existing personnel. In addition, in the

case of the PHMs in Polonnaruwa the travel costs would also need to be included in the budget.

	Item	Kurunegala District		Polonnaru	uwa District
А	Check-up target population	24,173	People	11,596	People
В	Step 2 subjects	-		2,319	People
С	Variable costs per participant	61.76	Rs	11.01	Rs
D	Personnel cost per participant	35.6	Rs	23.2	Rs
Е	Blood glucose (Step 2)	-		50.78	Rs
F	Traveling cost per session	-		660	Rs.
G	Training cost	114,000	Rs	205,000	Rs
Н	Fabrication cost	200,000	Rs	200,000	Rs
Т	No. of doctors	1,785	Hours		
J	No. of hours spent by nurses	5,698	Hours		
Κ	PHI hours			863	Hours
L	PHM hours			2,234	Hours

Table 12 Disaggregated cost information relating to implementation of check-ups

Table 12 provides disaggregated costing data relating to the check-ups as determined in this study as such information could be utilized for various simulations and cost-benefit exercises in the future.

2.8 Costs incurred by participants in having the check-up

[Survey method]

In order to figure out the costs incurred by check-up participants, a survey was conducted for 400 participants each, a total of 800 participants in both districts. The surveyed areas were Narammala and Alawwa in Kurunegala District and Medirigiriya in the Polonnaruwa District and the numbers of subjects surveyed in each area are shown in Table 13.

Table 13 No. of survey subjects

MOH area	No. of survey subjects	Ratio
Narammala	250 people	31.2%
Alawwa	150 people	18.8%
Medirigiriya	400 people	50.0%
Total	800 people	100.0%

The questionnaire included issues such as age, gender, occupation, highest level of education achieved, family income, the number of family members living together, the method and cost of traveling to and from the check-up site, the cost

of lunch incurred by attending the check-up, and any income lost by the participant or the family due to the check-up.

[Preliminary survey results]

We are presently carrying out a detailed analysis of these survey results. Therefore, in this report

we will provide only the preliminary results here, such as the types and amounts of costs incurred by check-up participants.

District	Median	Interquartile range	
Kurunegala (n=329)	84.00	30.00-130.00	
Polonnaruwa (n=92)	40.00	23.75-50.00	

Table 14 Costs incurred by participants to have a check-up (Rs.)

The costs directly incurred by participants in having a check-up are shown in Table 14. The main cost was the travel cost between home

and the check-up implementation facility. The costs also included the cost of lunch as they usually eat lunch at home but had to eat out in order to participate in the check-up. There were sizeable differences in the findings between the districts, such as the number of people who had to pay such costs (Kurunegala 329 people (329/400; 82%), Polonnaruwa 92 people (92/400; 23%), and the amount of costs incurred (Polonnaruwa Rs. 40 and double that in Kurunegala (Rs. 84). The reason for this difference in costs is the difference in systems: Check-up participants had to travel to major health facilities in the Kurunegala System, but check-up implementers visited and conducted check-ups in the area where participants lived in the Polonnaruwa System.

Table 15 Income loss for participants as a result of having a check-up (Rs.)

District	Median	Interquartile range
Kurunegala (n=65)	325.00	150.0-450.0
Polonnaruwa (n=15)	250.00	200.0-825.0

Table 15 shows costs relating to participants who had to take a day off for the check-up. In most cases, the loss of income was for participants

themselves, but the data also includes income losses in the case of accompanying family members – if this occurred. As the target areas in both districts have a high ratio of farmers, and approx. 70% of the study subjects were women, the relevant number was only 65 people (65/400;16%) in Kurunegara and 15 people (15/400;4%) in the Polonnaruwa District.

The data relating to the costs incurred by the health system in implementing the check-up systems and the costs borne by the participants in the check-ups in accessing such a service in the two districts are presented above. This cost information will be utilized in carrying out more detailed analyses below.

3 Costs of Illness study

Calculating costs of illness is important in this study because if patients are not screened and early intervention undertaken patients will end up with episodes of hospitalization that are expensive to both health system and households.

3.1 Study method

[Target diseases within the study]

As originally stated, the NCD Prevention Project Goal is "To establish an effective and efficient implementation strategy for the prevention of Non-Communicable Diseases (Diabetes, hypertension, Ischemic heart disease, stroke and dyslipidemia). The study targeted 4 types of illness: ① Cerebro-vascular accident ② Myocardial infarction ③ Ischemic heart disease and ④ Diabetes mellitus. Hospitalization costs resulting from these types of illness were calculated in this study.

[Direct costs]

The target hospitals were Kurunegala Teaching Hospital (TH Kurunegala) (1535 beds) and the Dambadeniya Base Hospital B (BH Dambadeniya) (169 beds) in the Kurunegala District and the Polonnaruwa General Hospital (GH Polonnaruwa) (603 beds) and the Medirigiliya Base Hospital B (BH Medirigiliya) (191 beds) in the Polonnaruwa District. We analysed 30 Bed Head Tickets (BHT - patient medical records) from each district and 60 for each illness to calculate the hospitalization cost. As step-down cost accounting (see Annex 4) had already been introduced in two hospitals in the Northwestern Province, TH Kurunegala and BH Marawila and monthly data were available in tabulated form for these hospitals, we decided to utilize this cost information as proxies in calculating basic hospitalization costs (accommodation costs) and for cost of diagnostic testing, for the four hospitals in our sample.

[Direct and Indirect costs to patients]

We estimated the direct costs to patients such as travel cost and the indirect cost due to loss of earnings due to hospitalization. These costs were calculated based on the distance between home and the medical facility, unofficial hours spent on nursing care, and the duration of days-off work. As such data can only be obtained by interviewing patients, the 243 interviews (TH Kurunegala 85, BH Dambadeniya 37, GH Polonnaruwa 96, BH Mwedirigiriya 25) were carried out by research assistants. See Table 20

3.2 Costs of Illness incurred by hospitalization

[BHT analysis]

The number of BHTs studied at the four target hospitals is shown in Table 16. Initially, we planned to analyse 20 BHTs from each of the tertiary care institutions (the Teaching Hospital and the General Hospital) and 10 BHTs from each of the secondary care institutions (the Base Hospitals).

However, as we could not obtain a sufficient number of BHTs for stroke and Myocardial infarction from the secondary care institutions, we decided to increase the data from the tertiary care institutions. Thus, we analysed 60 cases for each type of illness, ending with a total of 245 BHTs.

Diagnosis	TH, Kurunegala	BH, Dambadeniya	GH, Polonnaruwa	BH, Medirigiriya	Total
Cerebro-vascular accident	23	07	28	02	60
Myocardial infarction	20	10	27	04	61
Ischemic heart disease	21	12	20	10	63
Diabetes mellitus	20	10	20	11	61
Total	84	39	95	27	245

Table 16 No. of BHTs in the target illness-based and hospital-based study

We started the BHT analysis by extracting the information on medical treatment and drugs as listed in the BHTs. We then categorized the data as tests, medical materials, injections, drugs and the duration of hospital stay. By applying the step-down cost accounting data and other data specifically collected for this study, we calculated the costs required for hospitalization per BHT, or in other words per patient.

[Cost data used in the analysis]

We applied the costs from the Central Medical Supply in costing the drugs and medical materials actually utilized by patients for this analysis. Other costs, such as inpatient accommodation costs and diagnostic testing costs were calculated based on records from step-down cost accounting at TH Kurunegala and BH Marawila for the relevant period. Table 17, for instance, shows the accommodation cost per day per patient who was admitted to an internal medicine ward at Marawila Hospital. This cost includes personnel costs, utilities, overhead costs and costs for hospital management. This is considered the cost of hospitalization, excluding treatment costs.

The cost of hospitalization for the entire illness episode is calculated by multiplying the per- day cost (Rs. 854.72) by the duration of hospital stay as reported in the BHT from the secondary care institutions. We used the data from TH Kurunegala for calculating the cost of hospitalization for General Hospital Polonnaruwa (tertiary care hospital) as well.

y 2009	Personnel cost (Rs)	Material cost (Rs)	Recurrent cost (Rs)	Absorbed cost (Rs)	Total cost per month (Rs)	No of Admissions (person)	Cost per patient (Rs)	No. of the days in the hospital (days)	Cost Per Patient Per day (Rs)
January	977,867	351,929	119,726	203,792	1,653,314	735	2,249.4	1,672	988.8
February	1,017,180	60,384	61,442	151,160	1,290,167	627	2,057.7	1,385	931.5
March	1,017,680	90,566	66,983	176,902	1,352,132	754	1,793.3	1,585	853.1
April	856,170	83,124	51,457	130,471	1,121,221	718	1,561.6	1,422	788.5
Мау	1,108,636	81,047	43,243	149,078	1,382,003	810	1,706.2	1,682	821.6
June	940,909	60,932	42,528	149,171	1,193,540	841	1,419.2	1,769	674.7
July	844,259	71,495	40,457	149,307	1,105,518	839	1,317.7	1,670	662.0
August	1,019,764	77,685	44,293	186,903	1,328,645	629	2,112.3	1,424	933.0
September	1,179,839	77,146	65,802	191,525	1,514,312	618	2,450.3	1,495	1,012.9
October	1,063,201	77,660	41,917	166,700	1,349,478	752	1,794.5	1,651	817.4
November	1,041,264	101,102	40,772	163,243	1,346,382	675	1,994.6	1,349	998.1
December	858,337	89,469	42,864	150,756	1,141,427	758	1,505.8	1,356	841.8
Total	11,925,106	1,222,540	661,484	1,969,007	15,778,138	8,756	1,802.0	18,460	854.7

Table 17 Basic cost of hospitalization per internal medicine patient per day at BH Marawila (for 2009)

Investigation	Cost (Rs)
X-ray	142.62
ECG	130.97
Laboratory	365.14
Blood Bank	25.20

As a result of the step-down cost accounting conducted at BH Marawila, the cost per diagnostic test can also be calculated as shown in the Table on the left. This calculation includes the salaries of personnel working in each department, material costs such as chemicals and X-ray films, electricity cost, and the costs incurred in hospital management. However, these costs were only limited to running costs, and the depreciation of the building, equipment and medical devices were not taken into account. In calculating the basic cost of hospitalization as well the depreciation of buildings and equipment were not included.

[Hospitalization costs]

Using the procedure explained in the previous pages, the cost per inpatient was calculated by type of illness. We tabulated the individual BHTs based on type of illness, and the results are presented as the median instead of the mean, as this measure is less influenced by outliers and the interquartile ranges of the distributions.

With regard to Cerebro-vascular accidents and Myocardial infarction, the costs at TH Kurunegala were relatively high. This is because special wards have been established at TH Kurunegala for these illnesses so more serious patients might have been hospitalized in this location, or more advanced care might have been provided to inpatients here, compared to the other hospitals.

The median treatment cost per inpatient and the median duration of hospital stay by type of illness are as follows:

Cerebro-vascular accident: Rs. 5,800 (3 days), Myocardial infarction: Rs. 9,100 (4 days), Ischemic heart disease: Rs. 6,000 (4 days), Diabetes mellitus: Rs. 5,500 (4 days).

Please refer to Tables 18 to 21 for the cost per type of illness by hospital.

Table 18 Hospitalization cost per Cerebro-vascular accident patient

Hospital	Median cost	Interquartile range	Median duration of stay
TH, Kurunegala	11,317.74	8564.10-17042.41	6
BH, Dambadeniya	3,071.76	1488.67-3344.74	3
GH, Polonnaruwa	4,259.85	3534.02-5532.18	2
BH, Medirigiriya	8,456.65	8456.65-8456.65	5.5
Total	5,836.56	3674.12-10192.55	3

Table 19 Hospitalization cost per Myocardial infarction patient

Hospital	Median cost	Interquartile range	Median duration of stay
TH, Kurunegala	11,695.44	10225.90-16116.43	4.5
BH, Dambadeniya	8,424.51	7744.07-11207.62	5.5
GH, Polonnaruwa	9,065.51	8165.12-9805.77	4
BH, Medirigiriya	4,182.27	3446.63-5525.86	3
Total	9,065.51	7915.84-11006.33	4

Hospital	Median cost	Interquartile range	Median duration of stay
TH, Kurunegala	3,967.13	3242.67-8770.08	3
BH, Dambadeniya	6,189.69	3233.45-7250.27	4
GH, Polonnaruwa	6,721.17	5829.48-7987.18	3.5
BH, Medirigiriya	4,879.93	4232.06-5710.18	4
Total	5,967.58	3922.86-7669.58	4

Table 20 Hospitalization cost per Ischemic heart disease patient

Table 21 Hospitalization cost per Diabetes mellitus patient

Hospital	Median cost	Interquartile range	Median duration of stay
TH, Kurunegala	6,631.46	2750.24-8705.12	4.5
BH, Dambadeniya	5,242.30	2864.02-7518.12	4.5
GH, Polonnaruwa	5,670.02	5228.54-8282.96	3
BH, Medirigiriya	4,829.28	2371.42-6795.99	4
Total	5,462.44	4227.22-7860.67	4

3.3 Analysis of household costs of hospitalization

[Survey method]

We conducted a survey on costs incurred due to hospitalization and the opportunity loss from such an event. The survey involved 243 inpatients who had been admitted to the selected hospitals due to lifestyle-related diseases.

District	Hospital	No. of subjects	Ratio
Kumunanala	TH, Kurunegala	85 people	35.0%
Kurunegala	BH, Dambadeniya	37 people	15.2%
Polonnaruwa	GH, Polonnaruwa	96 people	39.5%
FOIOIIIIaIuwa	BH, Medirigiriya	25 people	10.3%
Total		243 people	100.0 %

Table 22 No. of surveyed patients per hospital

Data was collected on age, gender, occupation, the highest level of education, family income, the number of family members living together, the method and cost of traveling to and from the medical facility, any loss

of income for the participant or the family due to the hospitalization, the cost of meals, the cost of diagnostic testing conducted at private medical institutions, and other costs incurred due to hospitalization.

[A summary of the survey results]

Here we will provide a summary of the costs incurred by an inpatient and their family as a result of hospitalization.

District	Median	Interquartile range	-
Kurunegala (n=122)	400.0	60.0-1000.0	
Polonnaruwa (n=121)	362.0	180.0-750.0	۱ I
Total	390.0	100.0-800.0	

Table 23 Travel cost incurred due to hospitalization (Rs.)

The main cost incurred due to hospitalization is the travel cost to visit the hospital. Travel costs can be divided into that spent by the

patient and the family. Table 23 shows the total traveling costs incurred by patients.

Table 24	Travel cost	incurred by	the patient's	family for	hospital visits	(Rs.)
----------	-------------	-------------	---------------	------------	-----------------	-------

District	Median	Interquartile range	Ta cc
Kurunegala (n=122)	506.0	200.0-1112.5	
Polonnaruwa (n=121)	525.0	300.0-885.0	to
Total	510.0	264.0-950.0	

Table 24 shows the total traveling cost spent by the patient's family to visit the patient in hospital.

We can add the costs spent by inpatients and their families in the course of hospitalization. In addition, we can also add the potential income loss which occurs due to the hospital stay. Table 25 shows the total of the direct and indirect costs incurred by patients and their families as a result of hospitalization: Rs. 3,036 in the Kurunegala District and Rs.2,165 in the Polonnaruwa District.

Table 25	Impact of hos	pitalization on	household	finances	(Rs.)
					(

District	Median	Interquartile range
Kurunegala (n=122)	3,036.5	1722.0-5725.2
Polonnaruwa (n=121)	2,165.0	1285.0-3460.0
Total	2,640.0	1450.0-4520.0

4 Future Activities

These cost analysis-related activities were carried out based on the contents of the First Conference conducted by the Cost Analysis Sub-working Group of the NCD prevention project (held on 18th December 2008 at the NCD Conference Room of the Ministry of Health). An outline of the discussions is as follows:

① This sub-working group will analyse the intervention strategy, focusing not only the costs directly incurred by the implementation of check-ups, but also from the viewpoint of the costs

for treatment for NCDs (costs that can be averted with screening) and the socio-economic factors that affect households, in order to examine the effectiveness and efficiency of the NCD intervention strategy.

- ② High costs are incurred in the treatment of NCDs and it is important to calculate these costs. The data obtained through routine step-down cost accounting in some hospitals in the North Western Province will be utilized in costing treatment in the pilot area.
- ③ As the discussion proceeds, the fields to be reviewed need to be narrowed (treatment cost, check-up cost and opportunity loss) and more in-depth discussions need to be held on these fields.
- ④ The Ministry of Health and Provincial Health Authority need to take the lead on the matter of budget allocations in order to promote cost accounting in the healthcare field.
- (5) A project to promote step-down cost accounting will be carried out in hospitals in the North Western province, with the support of JICA, from July 2008 to March 2009. We can expect a synergy effect by mutually collaborating with NPP.

The next step will be discussions based on Health Economics involving a Cost Benefit Analysis (CBA), which will be conducted after proceeding with the analytical work listed above.

The objective of CBA is to compare various social costs and benefits from various interventions, or alternatively the option of "not doing anything". When reviewing the costs and benefits, although the cost spent on check-ups can be easily calculated, it is necessary to determine the number of cases prevented (prevention rate) as a result of having a check-up. This enables the comparison of costs and benefits, and the calculation of socio-economic costs to health system and households. These costs are likely to increase significantly if NCD prevention measures are not implemented.

Annex 1

CU_05

NCD Checkup Observational Report </ style="text-align: center;">Ver.3>

Date of Checkup (YY/MM/DD): 2011/01/18 Name of Health Facility: DH Narammala Name of reporter: Dr. W.R.G.K.Bandara.

Recruitment	Method (by area PHM, by community volunteer,	PHM (10) & WITHOUT
by poster at OPD, without recruitment etc)		RECRUITMENT(02)
Time	Starting Time	8.00A.M.
	End Time	9.45A.M.
Implementer	No. of health staff who conducted screening	Health staff : 02(02-Nurses) Doctor : 01
	No. of volunteers who helped screening	00
Result	Serial No.	From <u>1136</u> to <u>1147</u>
	Total No. of eligible* participants (age 40-75	Participants recruited: 10(M:03/F:07)
	without any past history of lifestyle related	Participants without recruitment:
	disease)	01(M:00/F:01)
	Total No. of participants under 40 years old or over 75 years old	01
	Total No. of participants with past history (any age)	00
	No. of people who had BMI>=23*	M:00 / F:01
	No. of people who had BP>=140/90 mmHg*	M:01 / F:00
	No. of people who had BP>= 220/120mmHg*	00
	(Kindly write down the action which was taken by	
	doctor on the checkup day)	
	No. of people who had FCBG>= 110mg/dl*	M:02 / F:02
	No. of people who had FCBG >= 350mmHg*	00
	(Kindly write down the action which was taken by	
	doctor on the checkup day)	
Referred cases	No. of people referred within the institution on the	00
	checkup day*	
	Reason for refer*	

1. Screening

Ę

No. of cases admitted into the health institution*		00
	Reason for admission*	
Equipment,	Kindly write down	NO
Consumables,	(1) Any trouble happened,	
Paper material	(2) Action taken on the day, and	
	(3) Suggestion for future	

*: Count only result of target (eligible) participants.

2. Health Guidance

Starting Time	Starting Time	
End Time	End Time	
Designation of Implementer		TWO NURSING OFFICERS
No. of participants		12
If other material was used in addition	n to or instead of flip chart,	NO
kindly write down (ex: Video tape prep	pared by nursing sister etc)	
Topics Covered	Result of screening	YES
(Tick the topics covered, Keep blank	(How to read the results)	· · · · ·
if the topic was not covered))	Physical Activity	YES
	Diet	YES
	Tobacco	
	Others (Specify it)	MENTAL HEALTH AND ALCOHOL.
Questions and comments raised by par	ticipants	
(Kindly write down at least three in ca	ase there are many questions	ABOUT GASTRITIS.
and comments)		
1		

3. Other Observation

 $\bullet ABOUT$ THE TREATMENT FOR DM AND THE COMPLICATIONS OF DM.

•ARYURVEDIC MEDICINE FOR DM.

Annex 2

One Step Checkup





Annex 4

THE STEP-DOWN APPROACH

The step-down cost accounting system here involves three levels of classification: from the more general to the more specific in allocating costs to final Cost Centres.

A Cost Centre can be defined as "a production or service location, function, activity or item of equipment for which costs are accumulated".

The analysis of hospital costs was designed to accumulate costs by department or Cost Centre. The Cost Centres demarcated in this analysis were of *three* types:

overheads (to accumulate overhead costs including administrative costs that are then sha red out among the patient-related Cost Centres); **intermediate** (those that provide support, e.g., diagnostic services, to the final Cos t Centres) and **final** (example medical departments that provide" final" services directly to patients, e.g., wards, outpatient clinics).



DIAGRAMMATIC IMAGE OF STEP-DOWN COST ACCOUNTING

The 'step-down' approach is used, whereby costs are allocated to Cost Centres starting with each Cost Centre's direct costs and then apportioning the indirect costs, making sure that each cost is ultimately allocated to the relevant final Cost Centre.

Source: Resource book 1 Cost Accounting, Final report Volume2, The Development Study on Evidence-Based Management for the Health System in Sri Lanka, September 2007, Global Link Management, Inc.

Report 2

Cost of participation in the health check-up component of the NCD Prevention Project (NPP) and Cost of hospitalization for selected NCDs in the Kurunegala and Polonnaruwa districts

Anuradhani Kasturiratne Takao Sugimoto Amala de Silva

A study conducted for Japan International Cooperation Agency 2010

1 Introduction

1.1 Background

Non-Communicable diseases (NCDs) are a priority public health problem in Sri Lanka. Ischaemic heart disease has been the commonest cause of death in hospital over the last three decades (Ministry of Health, 2008). The number of reported cases of Ischaemic heart disease and Myocardial infarction is increasing annually (Constantine et al., 1999). Cerebro-vascular events are among the six leading causes of death (Gunawardena, 1999). Hypertension and Diabetes are the commonest chronic diseases seen in the ambulatory care setting. Rates of hospitalization due to these two conditions are observed to be rapidly increasing (Premaratne et al., 2005). High prevalence of insulin resistance and type 2 Diabetes mellitus in South Asians is well documented and is considered to be an important cause of elevated vascular risk (Tziomalos et al., 2008)

Screening is one of the strategies adopted worldwide for prevention of NCDs. Screening can be used in both primary prevention and secondary prevention. Early detection and modification of risk factors is a strategy of primary prevention. The subjects are free of disease at this point in time, but they may have risk factors for development of NCDs. A screening programme will actively look for risk factors and form a basis for appropriate lifestyle modification activities implemented at both population and individual levels to control these risk factors. Screening for early identification of NCDs is a strategy of secondary prevention. In this strategy, subjects are screened for asymptomatic disease using simple and quick screening methods. Those detected to have the disease(s) can be referred for treatment and follow-up, which will control progression of the condition and improve patient outcome through preventing complications. Multiple screening methods incorporated into a single screening programme targeting both risk factors and asymptomatic disease is appropriate for population level screening in Sri Lanka.

1.2 Non-communicable disease Prevention (NPP) Project

The Non-communicable Disease Prevention Project (NPP) currently conducted by the Ministry of Health and funded by the Japan International Cooperation Agency has a component on screening the general population for NCDs and risk factors. This component is currently implemented in the Medirigiriya Medical Officer of Health (MOH) area in the Polonnaruwa district and Alawwa and Narammala MOH areas in the Kurunegala district by regional health authorities. Members of the general population aged between 40-75 years who reside in the three MOH areas, are invited to participate in the screening programme (health check-up). Appointments for the check-up are issued by the public health field staff or health staff of hospitals. Check-ups are conducted at a centre close to the participants' residence. At the check-up, screening for hypertension, obesity

and Diabetes mellitus is conducted. Screened subjects who are positive are referred for medical care and follow up in the referral centres in the district where specialist care is available. Health education on prevention of NCDs is given in-group sessions.

1.3 Justification

The health check-up programme requires considerable resources for its implementation. Cost of in-service training of health staff, maintaining overheads and provision of technical support are important elements of the programme's cost. Continued implementation and expansion of health check-ups should be based on its ability to improve the outcomes of targeted NCDs, contributing to cost containment in curative and rehabilitative care. To evaluate the effectiveness of the health check-up programme, estimates of the household cost of participation in the health check-up as well as the cost of managing important NCDs in hospital and the economic burden of hospitalisation on the household (the outcomes that could result from the alternative scenario of non-screening) are prerequisites. The systemic cost of conducting the health check-ups is presented in the paper by T. Sugimoto in this same compendium.

1.4 Objectives

This study is undertaken with the following objectives

1.5 General Objective:

To determine the household cost of participation in the health check-up component of the NCD Prevention Project (NPP) and

To determine the household and health system cost of hospitalisation for selected NCDs in referral hospitals in the Polonnaruwa and Kurunegala districts

1.6 Specific Objectives:

- 1 To determine the direct and indirect household costs of participation in health check-ups.
- 2 To determine the direct and indirect household costs of hospitalisation for selected non-communicable diseases i.e. Diabetes mellitus, Myocardial infarction, Ischaemic heart disease and Cerebor-vascular in selected referral hospitals in the Polonnaruwa and Kurunegala districts.
- 3 To determine the cost incurred by the hospital/state health sector for treatment of selected non-communicable diseases i.e. Diabetes mellitus, Myocardial infarction, Ischaemic heart disease and Stroke in selected referral hospitals in the Polonnaruwa and Kurunegala districts.

2 Methods

2.1 Study design:

This study is a descriptive cross sectional study with two components.

Component one: This component was conducted prospectively in health check-up centres in the Polonnaruwa and Kurunegala districts. Participants of the health check-up programme were the study subjects. Data were collected by trained pre-intern medical officers using an interviewer-administered questionnaire in Sinhala. Different household cost components were identified. Both direct and indirect costs of participating in the health check-ups were assessed.

Component two: This component was conducted prospectively in four referral hospitals including the main hospitals in the two districts. Patients admitted for treatment of the diseases of interest were followed up during their entire hospital stay. The household cost of hospitalisation was estimated based on data obtained from interviews with patients and/ or relatives/carers. Data on clinical management of the patients were extracted from the Bed Head Ticket as well as from health personnel involved in the treatment of the patient.

2.2 Study setting:

Component one was conducted in health check-up centres in Medirigiriya, Alawwa and Narammala MOH areas. Component two was conducted at the General Hospitals, Kurunegala and Polonnaruwa and Base Hospitals, Dambadeniya and Medirigiriya.

2.3 Study period:

The study was conducted from August to December 2010.

2.4 Study population:

Component one: Participants of the NPP health check-up component in the Medirigiriya, Alawwa and Narammala MOH areas

Component two: Subjects who received in-patient care in the relevant hospitals during the period between August and December 2010, for the following conditions:

- 1. Cerebro-vascular
- 2. Acute Myocardial infarction
- 3. Ischaemic Heart Disease
- 4. Diabetes mellitus

Stroke/ Cerebrovascular Accident

Inclusion criteria: Patients who presented with weakness or sensory loss of a side of the body and diagnosed to have a stroke during this admission

Exclusion criteria:

1. Patients who developed complications due to unrelated conditions during their hospital stay.

2. Patients who had a prolonged hospital stay due to any other reason (hospital acquired infections etc.)

3. Patients who were transferred to other hospitals/healthcare institutions for further management or patients who left against medical advice

4. Patients who died during hospitalisation

Acute Myocardial Infarction

Inclusion criteria: Patients admitted due to acute Myocardial infarction (MI) and required treatment with thrombolytic therapy (streptokinase/low molecular weight heparin) and completed treatment.

Exclusion criteria:

1. Patients who developed complications of MI such as heart failure/arrythmias during their hospital stay

2. Patients who have a prolonged hospital stay due to any other reasons (hospital acquired infections etc.)

3. Patients who are transferred to other hospitals/healthcare institutions for further management or patients who left against medical advice

4. Patients who died during hospitalisation

Ischaemic Heart Disease

Inclusion criteria: Patients with a past history of ischaemic heart disease who presented at the hospital with chest pain and were diagnosed to have ischaemic heart disease but not an acute Myocardial infarction during this episode of chest pain or during this admission

Exclusion criteria:

1. Patients who developed complications of other unrelated co-morbid conditions during their hospital stay that needed special care (e.g. surgical procedures)
- 2. Patients who did not complete the entire period of treatment (e.g. patients who left against medical advice)
- Patients who were transferred to other hospitals/healthcare institutions for further management
- 4. Patients who died during hospitalisation

Diabetes mellitus

Inclusion criteria: Patients who presented due to a complication of Diabetes mellitus that required hospitalisation

Exclusion criteria:

1. Patients who developed complications due to unrelated conditions during their hospital stay.

2. Patients who had a prolonged hospital stay due to any other reason (hospital acquired infections etc.)

3. Patients who were transferred to other hospitals/healthcare institutions for further management or patients who left against medical advice

4. Patients who died during hospitalisation

2.5 Sample size:

Component one: Indirect (opportunity) cost of participation was assumed to be 50% of the total household cost. For the calculation of the sample size this assumption was used.

Using the formula:

 $n = Z_{1-\alpha/2}^2 p(1-p)/d^2$

where $Z^{2}_{1-\alpha/2}$ is 1.96 corresponding to the two sided alpha error of 5%

p is the proportion of indirect cost

d is one half of the confidence interval of the estimated proportion assumed to be 0.05.

Substituting these values, the minimal required sample size n = 384

The sample size was rounded off to 400. Four hundred participants were sampled in each district.

Component two: Considering the feasibility of obtaining patients fulfilling inclusion criteria it was decided to sample 30 patients with each of the four conditions from each district. The proposed sample consisted of minimum of 20 patients from the main hospital of the district and 10 patients from the Base Hospital.

	Polonnaruwa		Kurunegala		
Condition	GH Polonnaruwa	BH Medirigiriya	TH Kurunegala	BH Dambadeniya	Total
MI	20	10	20	10	60
IHD	20	10	20	10	60
DM	20	10	20	10	60
CVA	20	10	20	10	60

2.6 Sampling:

Component one: The participants were sampled consecutively at consecutive check-up sessions. All the check-up centres were visited and efforts were taken to recruit all the participants present on that day.

Component two: The patients were consecutively sampled considering inclusion criteria identified for each type of disease until the required sample size was obtained.

2.7 Data collection instruments:

Component one: This was an interviewer-administered questionnaire developed in Sinhala (Annex 1). This was pre-tested among participants of the Ragama Health Study Clinic at Faculty of Medicine, Ragama, in August 2010. Main variables were: basic information of the participant, cost of travelling, lost income by the participant and the family and the cost of food and other expenses incurred due to screening visit.

Component two: 1. An interviewer-administered questionnaire developed in Sinhala (Annex 2) was used for collecting data on the household cost of hospitalisation. This has been used in a previous study (Kasturiratne et al, 2005). Main variables were cost of travel, lost income by the person(s) accompanying the patient or family companion, cost of keeping a companion, cost of medications and investigations obtained from the private sector, cost of special food and other miscellaneous costs.

2. The data collection instruments were data extraction forms developed for each condition studied (given in Annex 3, 4, 5, 6). All cost components incurred in treating each of the selected conditions in hospital were identified (e.g. length of hospital stay, cost of medication, cost of investigations performed on the patient etc.) through expert opinion surveys. Information required in determining each of these cost components was then identified and included in the data extraction forms. The forms were pre-tested and modified according to the findings of the pre-test conducted in July 2010.

2.8 Data collection:

Component one: Data collection was conducted over a period of three months by pre-intern medical officers. They visited the health check-up centres and conducted sampling of participants and data collection.

Component two: Data collection was conducted over a period of three months by pre-intern medical officers. They visited the medical wards of the hospitals and conducted sampling of participants and data collection. Information needed to estimate the household cost of hospitalisation was collected using the interviewer-administered questionnaire.

The information needed to determine the cost of treatment incurred by the hospital and the health system were extracted from the BHT. Clinical opinions were sought from the clinicians for estimating certain cost items.

2.9 Data analysis:

Questionnaires and data extraction forms were checked for completeness before data entry. Data were entered in Epi Data 3.1b and analysis was done using SPSS version 16. The cost of each item was determined and added up to calculate the cost of each component. Then the total cost incurred was calculated. Costs were usually described using median and interquartile range. In some situations median and range was used to describe the data.

2.10 Administrative considerations:

Permission to conduct the study was obtained from provincial and regional health authorities of the two districts as well as the heads of institutions where the study was conducted. Permission was also obtained from the Consultant Physicians in charge of each ward from which patients were recruited for component 2.

2.11 Ethical considerations:

Component one: Individuals were recruited only after informed written consent (consent form - Annex 7) was obtained and the data collected was used only for the purpose of research. They were informed that their participation was entirely voluntary and that their decision to participate or not would not affect the services provided at the check-up and their subsequent follow-up.

Component two: Patients were recruited only after informed written consent was obtained from the patient (consent form- Annex 8). When the patient was unable to give consent due to being too ill, consent was obtained from a first degree relative. They were informed that their participation was entirely voluntary and that their decision to participate or not would not affect the

management of their condition. As some of the conditions under study could potentially be life threatening, care was taken to avoid disturbing the patient during data collection. In situations where the patient was too ill to answer, an informant was identified to provide information on the household cost of hospitalization. This informant was a family member or a person named by the patient's family. All personal information documented in the BHTs were treated as confidential information.

3 Results

3.1 Cost of participation in the health check-up programme of the NPP Project

This component was conducted on a sample of 800 participants comprising 400 participants from each of the two districts. In Kurunegala district the project was conducted in two MOH areas. Participants were recruited consecutively from screening clinics held during the period of data collection. Fewer participants and clinic sessions were observed in Alawwa, as reflected in the number recruited.

Distribution of participants by MOH area is given in Table 1.

District	MOH area	Number of participants	Percentage
Kurunegala	Narammala	250	31.2
	Alawwa	150	18.8
Polonnaruwa	Medirigiriya	400	50.0
	Total	800	100.0

Table 1 Distribution of participants by MOH area

Participants in Kurunegala district travelled a greater distance to the check-up centre compared to participants in Polonnaruwa district. Distance travelled by participants in each district is shown in Table 2.

District Distance to check-up centre (km) Median (interquartile range)		
Kurunegala	3 (2.0-5.0)	
Polonnaruwa 1.5 (0.5-2.0)		
Total	2.0 (1.0-3.0)	

Table 2 Distance to the check-up centre by district

Majority of the participants were between 50 to 59 years of age. Age distribution of the participants is given in Table 3.

U		
Age category	Number	Percentage
< 40 years	15	1.9
40-49 years	260	32.5
50-59 years	307	38.4
60-69 years	164	20.5
≥ 70 years	54	6.8
Total	800	100.00

Table 3 Age distribution of the participants

Study participants were predominantly female, comprising 68% of the total sample. In Kurunegala females comprised 79.7% of the sample compared to 62.3% in Polonnaruwa.

Table 4 Sex distribution of the participants

Sex category	Number	Percentage
Male	257	32.1
Female	543	67.9
Total	800	100.00

Occupations were classified according to International Standard classification of Occupation (ISCO). The largest occupational group participating in the check-up were agricultural workers (22.2%). Few people were engaged in sedentary occupations. The distribution of participants by occupational group is given in Table 5.

Occupation category	Number	Percentage
Legislators, senior officials and managers	0	0
Professionals	9	1.1
Technicians and associate professionals	10	1.3
Clerks	6	0.8
Service and shop and market sales workers	27	3.4
Skilled agricultural and fishery workers	178	22.2
Craft and related workers	20	2.5
Plant and machine operators and assemblers	14	1.7
Elementary occupations	37	4.6
Unemployed	499	62.4
Total	800	100.0

Table 5 Distribution of participants by occupational category

Approximately 71% of the participants were educated above grade 8 in Kurunegala district as compared to 48% in Polonnaruwa district. Only 0.7% of the participants had received higher education. The group who had not received any formal education comprised 2% in Kurunegala district compared to 7.2% in Polonnaruwa district. The educational level of the participants by district is given in Table 6.

District	Educational level	Number	Percentage
	No formal education	8	2.0
	< Grade 5	47	11.7
	Passed Grade 5	63	15.7
Kurunegala	Passed Grade 8	130	32.6
	Passed G.C.E Ordinary Level	86	21.6
	Passed G.C.E. Advanced Level	63	15.7
	Higher education	3	0.7
Total		400	100.0
	No formal education	29	7.2
	< Grade 5	102	25.5
	Passed Grade 5	78	19.6
Polonnaruwa	Passed Grade 8	121	30.2
	Passed G.C.E Ordinary Level	58	14.6
	Passed G.C.E. Advanced Level	9	2.2
	Higher education	3	0.7
	Total	400	100.0

Table 6 Distribution of participants by educational level and district

About 21% of the participants reported that their monthly family income was less than Rs. 5,000.00. Only 22% reported a monthly family income above Rs. 20,000.00. The income distribution of respondents is given in Table 7.

Educational level	Number	Percentage
No formal education	44	5.5
< Grade 5	169	21.1
Passed Grade 5	147	18.4
Passed Grade 8	248	31.0
Passed G.C.E Ordinary Level	135	16.9
Passed G.C.E. Advanced Level	52	6.5
Higher education	5	0.6
Total	800	100.0

The family size of the participants ranged from 1-11. Median family size was 4 (interquartile range

3-5). Distribution of participants by family size is shown in Table 8.

Family size	Number	Percentage	
1-4 members	442	55.2	
5-8 members	354	44.3	
≥ 9 members	4	0.5	
Total	800	100.0	

Table 8 Distribution of participants by family size

Approximately 42% walked to the check-up centre. The most common mode of transport used was the bus. Many participants used bicycles. Distribution of the participants by the mode of transport is given in Table 9.

Mode of transport	Number	Percentage
Walking	338	42.3
Bicycle	149	18.7
Motorcycle	125	15.6
Three-wheeler	5	0.6
Automobile	5	0.6
Hired three-wheeler	12	1.5
Hired automobile	2	0.2
Bus	152	19.0
Train	0	0.0
Others	12	1.5
Total	800	100.0

Table 9 Distribution of participants by mode of transport used to come to the check-up centre

Travel costs were incurred by 71.2% in the Kurunegala district but only 22.7% in the Polonnaruwa district. The cost of traveling to the check-up centre is given in Table 10.

District	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
Kurunegala	20.00	0.00-40.00
Polonnaruwa	0.0	0.00-0.00

Costs incurred for meals during the visit and any other costs incurred due to the visit were considered as incidental expenses due to the visit to the check-up centre. In Kurunegala approximately 51% incurred incidental expenses. In Polonnaruwa only 1.5% incurred any incidental expenses (Table 11).

Table 11 Incidental expenses incurred due to participation in the check-up

District	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
Kurunegala (n=204)	85.00	60.00-110.00
Polonnaruwa (n=6)	40.0	35.00-60.00

Travel costs and incidental expenses of the visit were considered as direct costs of the visit. In Kurunegala district 329 participants incurred direct costs due to participation in the health check-up. Their costs ranged from Rs. 6.00-450.00. Only 92 participants (23%) in Polonnaruwa incurred any costs due to participation in the check-up. Among them the direct costs ranged from Rs. 5.00-200.00.

District	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
Kurunegala (n=329)	84.00	30.00-130.00
Polonnaruwa (n=92)	40.00	23.75-50.00

Loss of income due to being off work to participate in the check-up was reported by 16.3% of the participants in Kurunegala. Only 3.5% reported loss on income in Polonnaruwa district. Participants' lost income is summarized in Table 13.

Many are self-employed so there is not an issue of taking leave but being off work.

Table 13 Loss of income due to participation in the check-up

District	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
Kurunegala (n=65)	200.00	100.00-400.00
Polonnaruwa (n=14)	300.0	200.00-900.00

Loss of income to a family member due to the check-up was reported by only one participant in Polonnaruwa district. None was reported in Kurunegala district. About 7.6% attended the check-up accompanied by family members.

Total loss of income to the families that incurred a loss is shown in Table 14.

Table 14 Total loss of income to the family due to participation in the check-up

District	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
Kurunegala (n=65)	325.00	150.00-450.00
Polonnaruwa (n=15)	250.00	200.00-825.00

3.2 Household costs of hospitalization for four major non-communicable diseases in Sri Lanka

A sample of 243 patients admitted for the four selected diseases was obtained from the four hospitals for this analysis. Table 15 shows the distribution of patients by district and hospital. A larger proportion of patients had to be sampled from the two main hospitals due to insufficient numbers at Base Hospital level.

Table 15 Distribution of patients by district and hospital

District	Hospital	Number	Percentage
Kurupagala	TH, Kurunegala	85	35.0
Kurunegala	BH, Dambadeniya	37	15.2
Delenneruwe	GH, Polonnaruwa	96	39.5
Polonnaruwa	BH, Medirigiriya	25	10.3
Total		243	100.00

A majority of the participants were between 55 to 64 years of age. Age distribution of the participants is given in Table 16. Date of birth was not available for one patient.

Age category	Number	Percentage
< 35 years	7	2.9
35-44 years	17	7.0
45-54 years	40	16.5
55-64 years	103	42.6
65-74 years	47	19.4
≥ 75 years	28	11.6
Total	242	100.00

Table 16 Age distribution of the participants

A greater proportion of the sample was male (69.1%). In Kurunegala males comprised 62.3% of the sample as compared to 76% in Polonnaruwa.

Table 17 Sex distribution of the participants				
Sex category Number Percentage				
Male	168	69.1		
Female	75	30.9		
Total	243	100.00		

Table 17 Sex distribution of the participants

Occupations were classified according to International Standard Classification of Occupation (ISCO). A large proportion was unemployed (33.3%). The largest occupational group hospitalised was agricultural workers (25.9%). All of the occupational groups were represented in the sample. Distribution of participants by occupational group is given in Table 18.

Tuble to Distribution of participants by occupational bategory	Table 18	Distribution of	participants b	by occupational category	
--	----------	-----------------	----------------	--------------------------	--

Occupation category	Number	Percentage
Legislators, senior officials and managers	7	2.9
Professionals	11	4.6
Technicians and associate professionals	2	0.8
Clerks	13	5.4
Service and shop and market sales workers	27	11.1
Skilled agricultural and fishery workers	63	25.9
Craft and related workers	7	2.9
Plant and machine operators and assemblers	13	5.3
Elementary occupations	19	7.8
Unemployed	81	33.3
Total	243	100.0

Approximately 45.7% of the participants were educated above grade 5. Only 4.1% had received higher education. The group who had not received any formal education was unusually high at 11.5%. The educational level of the participants is given in Table 19.

Educational level	Number	Percentage
No formal education	28	11.5
< Grade 5	53	21.8
Passed Grade 5	51	21.0
Passed Grade 8	45	18.5
Passed G.C.E Ordinary Level	43	17.7
Passed G.C.E. Advanced Level	13	5.4
Higher education	10	4.1
Total	243	100.0

Table 19 Distribution of participants by educational level

About 8.6% of the participants reported that their monthly family income was less than Rs. 50,000.00. About 35.8% reported a monthly family income above Rs. 20,000.00. Income distribution is shown in Table 20.

Table 20 Distribution of	participants by	y monthly family income
--------------------------	-----------------	-------------------------

Family income	Number	Percentage
< Rs. 5000	21	8.7
Rs. 5000-9999	64	26.3
Rs. 10000-19999	71	29.2
Rs. 20000-34999	52	21.4
Rs. 35000-49999	17	7.0
≥ Rs. 50000	18	7.4
Total	243	100.0

The family size of the participants ranged from 1-8. Median family size was 4 (interquartile range 3-5). Distribution of participants by family size is shown in Table 21.

Family size	Number	Percentage
1-4 members	132	54.3
5-8 members	111	45.7
≥ 9 members	0	0.0
Total	243	100.0

Table 21 Distribution of participants by family size

Over 55% arrived at the screening centre in a hired three-wheeler. About 16.9% used the bus. About 11% of the participants used their own three-wheeler. Distribution of the participants by the mode of transport is given in Table 22.

Mode of transport	Number	Percentage
Walking	1	0.4
Bicycle	4	1.6
Motorcycle	9	3.7
Three-wheeler	27	11.1
Automobile	11	4.5
Hired three-wheeler	134	55.1
Hired automobile	11	4.5
Bus	41	16.9
Train	4	1.6
Others	1	0.4
Total	243	100.0

Table 22 Distribution of participants by mode of transport used to come to hospital

On discharge, 42.4% hope to go home by hired three-wheeler. A considerable proportion (35%), hope to use the bus. Distribution of the participants by the expected mode of transport to go back on discharge is given in Table 23.

Mode of transport	Number	Percentage
Walking	0	0.0
Bicycle	1	0.4
Motorcycle	8	3.3
Three-wheeler	24	9.9
Automobile	9	3.7
Hired three-wheeler	103	42.4
Hired automobile	10	4.1
Bus	85	35.0
Train	2	0.8
Others	1	0.4
Total	243	100.0

Travel costs were incurred by 95.9% of the hospitalized patients in the Kurunegala district and 100% of the hospitalized patients in the Polonnaruwa district. Travel costs incurred due to the hospitalization are summarized by district in Table 24.

Table 24 Travel cost of hospitalization by distric	Table 24	avel cost of hospitalization b	y district
--	----------	--------------------------------	------------

District	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
Kurunegala (n=122)	400.00	60.00-1000.00
Polonnaruwa (n=121)	362.00	180.00-750.00
Total	390.00	100.00-800.00

Travel costs incurred due to the hospitalization are summarized by hospital in Table 25.

Hospital	Median(Rs.)	Interquartile range(Rs.)
TH, Kurunegala (n=85)	500.00	100.00-1080.00
DH, Dambadeniya (n=37)	200.00	36.00-600.00
GH, Polonnaruwa (n=96)	400.00	200.00-850.00
BH, Medirigiriya (n=25)	260.00	80.00-550.00
Total	390.00	100.00-800.00

Table 25 Travel cost of hospitalization by hospital

Loss of income and costs incurred by the patient's household due to accompanying the patient to hospital are summarized in Table 26 by district and hospital.

Table 26 Loss of income and costs due to accompanying the patient to hospital by district and hospital

District	Median (Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median (Rs.) (interquartile range)
K a secolo	0.00	TH, Kurunegala (n=85)	0.00
Kurunegala	0.00		(0.00-0.00)
(n=122)	(0.00-300.00)	DH, Dambadeniya	0.00
		(n=37)	(0.00-00.00)
		GH, Polonnaruwa	0.00
Polonnaruwa	0.00	(n=96)	(0.00-50.00)
(n=121)	(0.00-50.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	0.00
, <i>,</i> ,			(0.00-30.00)
Total	0.00 (0.00-60.00)	Total	0.00 (0.00-60.00)

Overall 91.8% of households (90.2% in Kurunegala and 93.4% in Polonnaruwa) incurred a cost for visiting the patient. Costs incurred by the patient's household for visiting the patient in hospital are summarized in Table 27 by district and hospital. Travel costs incurred for bringing food to the patient from home are also included.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	506.00	TH, Kurunegala (n=85)	540.00 (205.00-1300.00)
(n=122)	(200.00-1112.50)	DH, Dambadeniya (n=37)	440.00 (190.00-895.00)
Polonnaruwa	525.00	GH, Polonnaruwa (n=96)	550.00 (316.25-937.50)
(n=121)	(n=121) (300.00-885.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	400.00 (215.00-845.00)
Total	510.00 (264.00-950.00)	Total	510.00 (264.00-950.00)

Table 27 Costs incurred by the household for visiting the patient in hospital by district and hospital

Overall 37.9% of households (23.8% in Kurunegala and 52.1% in Polonnaruwa) incurred a cost for keeping a companion with the patient. Costs incurred by the household for keeping a companion are summarized in Table 28 by district and hospital.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	0.00	TH, Kurunegala (n=85)	0.00 (0.00-0.00)
(n=122)		DH, Dambadeniya (n=37)	0.00 (0.00-10.00)
Polonnaruwa	100.00	GH, Polonnaruwa (n=96)	200.00 (0.00-400.00)
(n=121)	(0.00-400.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	0.00 (0.00-200.00)
Total	0.00 (0.00-300.00)	Total	0.00 (0.00-300.00)

Table 28 Costs incurred by the household for keeping a companion by district and hospital

Overall 67.9% of households (43.4% in Kurunegala and 92.6% in Polonnaruwa) incurred a cost for food bought for consumption of the patient. Costs incurred by the household for food are summarized in Table 29 by district and hospital.

Table 29 Costs incurred by the household for food bought for consumption of the patient by district and hospital

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	0.00	TH, Kurunegala (n=85)	0.00 (0.00-245.00)
(n=122)		DH, Dambadeniya (n=37)	0.00 (0.00-147.00)
Polonnaruwa	155.00	GH, Polonnaruwa (n=96)	155.00 (100.00-228.75)
(n=121)	(92.50-230.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	160.00 (67.50-232.50)
Total	110 (0.00-230.00)	Total	110 (0.00-230.00)

Overall 18.1% of households (23.8% in Kurunegala and 12.4 % in Polonnaruwa) incurred a cost for medications (prescription drugs) for the patient during the hospital stay. Costs incurred by the household for medications are summarized in Table 30 by district and hospital.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	0.00	TH, Kurunegala (n=85)	0.00 (0.00-0.00)
(n=122)	(0.00-0.00)	DH, Dambadeniya (n=37)	0.00 (0.00-135.00)
Polonnaruwa	0.00 (0.00-0.00)	GH, Polonnaruwa (n=96)	0.00 (0.00-0.00)
(n=121)		BH, Medirigiriya (n=25)	0.00 (0.00-0.00)
Total	0.00 (0.00-0.00)	Total	0.00 (0.00-0.00)

Table 30 Cost of medications for the patient by district and hospital

None of the patients had to buy surgical consumables for use during hospitalization.

Overall 25.9% of households (40.2% in Kurunegala and 11.6% in Polonnaruwa) incurred a cost for laboratory investigations conducted in the private sector. Costs incurred by the household for laboratory investigations are summarized in Table 31 by district and hospital.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	0.00	TH, Kurunegala (n=85)	0.00 (0.00-125.00)
(n=122)		DH, Dambadeniya (n=37)	970.00 (250.00-1000.00)
Polonnaruwa	0.00	GH, Polonnaruwa (n=96)	0.00 (0.00-0.00)
(n=121)	(0.00-0.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	0.00 (0.00-0.00)
Total	0.00 (0.00-300.00)	Total	0.00 (0.00-300.00)

 Table 31 Cost of laboratory investigation of the patient by district and hospital

Overall 38.3 % of households (48.4% in Kurunegala and 28.1% in Polonnaruwa) incurred a loss of income due to this hospitalization. This loss of income was either by the patient or members of his family.

Loss of income incurred by households is summarized in Table 32 by district and hospital.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	0.00	TH, Kurunegala (n=85)	0.00 (0.00-3375.00)
(n=122)		DH, Dambadeniya (n=37)	800.00 (0.00-2750.00)
Polonnaruwa	0.00	GH, Polonnaruwa (n=96)	0.00 (0.00-720.00)
(n=121)	(0.00-550.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	0.00 (0.00-0.00)
Total	0.00 (0.00-1800.00)	Total	0.00 (0.00-1800.00)

Table 32 Loss of income by the patient's household by district and hospital

All sampled patients incurred a direct household cost due to this hospitalization. Direct cost comprised travel costs, expenses incurred by accompanying persons, cost of keeping a companion, cost of food bought, cost of visits by family members, cost of medications bought from the private sector, cost of investigations conducted in the private sector, cost of other material required by the patient during hospitalization and any other incidental expenses incurred due to the hospital stay. The total direct cost incurred by the household is summarized in Table 33 by district and hospital.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
		TH, Kurunegala	1940.00
Kurunegala	2000.00	(n=85)	(925.00-3575.00)
(n=122)	(n=122) (1009.50-3295.00)	DH, Dambadeniya	2150.00
		(n=37)	(1036.50-3080.00)
		GH, Polonnaruwa	1957.50
Polonnaruwa	1775.00	(n=96)	(1235.00-3007.50)
(n=121)	(1102.50-2857.50)	BH, Medirigiriya	1040.00
		(n=25)	(547.50-1860.00)
Total	1875.00 (1053.00-3010.00)	Total	1875.00 (1053.00-3010.00)

Table 33 Total direct household cost of hospitalization by district and hospital

Total cost of the hospital stay including direct household cost and indirect household cost (loss of income by patient and other household members) is summarized in Table 34.

District	Median(Rs.) (interquartile range)	Hospital	Median(Rs.) (interquartile range)
Kurunegala	3036.50	TH, Kurunegala (n=85)	3020.00 (1671.00-5792.50)
(n=122)	(1722.00-5725.25)	DH, Dambadeniya (n=37)	3053.00 (1984.00-5500.50)
Polonnaruwa	2165.00	GH, Polonnaruwa (n=96)	2460.00 (1390.00-3608.75)
(n=121)	(1285.00-3460.00)	BH, Medirigiriya (n=25)	1535.00 (582.50-2513.50)
Total	2640.00 (1450.00-4520.00)	Total	2640.00 (1450.00-4520.00)

Table 34 Total household cost (direct and indirect) of hospitalization by district and hospital

3.3 Cost of in-patient care for four major non-communicable diseases in Sri Lanka

Data on a minimum of 30 patients admitted due to each of the selected diseases were obtained from each district for this analysis. Table 35 shows the distribution of patients by hospital and disease. A minimum of twenty (20) patients with the disease were obtained from the district's main referral hospital. The number sampled from the main referral centre had to be increased for Cerebro-vascular accidents and Myocardial infarction because sufficient numbers were not available at Base Hospital level.

Table 35 Distribution of patients b	by hospital and disease
-------------------------------------	-------------------------

Diagnosis	TH, Kurunegala	BH, Dambadeniya	GH, Polonnaruwa	BH, Medirigiriya	Total
Cerebro-vascular accident	23	07	28	02	60
Myocardial infarction	20	10	27	04	61
Ischaemic heart disease	21	12	20	10	63
Diabetes mellitus	20	10	20	11	61
Total	84	39	95	27	245

Table 36 shows the median duration of stay by hospital and disease. The longest duration of 6 days was observed for stroke patients at TH, Kurunegala. Shortest duration of stay (2 days) was observed for stroke patients at GH, Polonnaruwa.

Diagnosis	TH, Kurunegala	BH, Dambadeniya	GH, Polonnaruwa	BH, Medirigiriya	Total
Cerebro-vascular accident	6	3	2	5.5	3
	(5-11)	(1-3)	(2-3)	(3-8)	(2-6)
Myocardial infarction	4.5	5.5	4	3	4
	(3.75-5.25)	(4.75-6.25)	(4-4)	(3-3.75)	(4-5)
Ischaemic heart	3	4	3.5	4	4
disease	(2-4)	(2.25-4.75)	(3-4)	(3-4)	(2-4)
Diabetes mellitus	4.5	4.5	3	4	4
	(1.25-5.75)	(2.75-6.75)	(2.25-4.75)	(2-7)	(2-5)

Table 36 Median duration of stay (interquartile range) by hospital and disease

1) Cerebro-vascular accidents (CVA)

Out of the patient-specific costs incurred in hospital, the cost of investigations was the highest. The cost of intravenous fluids was the lowest. The cost of surgical consumable items was higher than the cost of drugs.

Hospital	Investigations	Surgical consumables	IV fluids	Medications
TH,	3704.07	161.20	48.64	216.14
Kurunegala	(3379.70-4206.33)	(130.66-329.87)	(0-97.28)	(120.84-622.67)
BH,	632.96	0	0	4.73
Dambadeniya	(501.99-644.61)	(0-127.70)	(0-0)	(0.99-8.27)
GH, Polonnaruwa	1576.29	209.81	0	68.68
	(1066.41-2736.00)	(127.70-419.61)	(0-48.64)	(34.05-152.69)
BH,	130.97	339.74	0	698.29
Medirigiriya	(130.97-130.97)	(127.70-551.77)	(0-0)	(460.44-936.15)
Total	2398.59	159.72	0	101.12
	(1066.41-3565.21)	(127.70-419.61)	(0-83.82)	(33.22-274.90)

Table 37 Median cost of different elements of in-patient care for Cerebro-vascular accident

Accommodation cost of patients was highest in Teaching Hospital, Kurunegala which has a specialized unit for the management of strokes.

Hospital	Accommodation cost (per day)	Median duration of stay	Total accommodation cost
TH, Kurunegala	1039.09	6	6234.54 (5195.45-11429.99)
BH, Dambadeniya	854.72	3	2564.16 (854.72-2564.16)
GH, Polonnaruwa	1039.09	2	2078.18 (2078.18-3117.27)
BH, Medirigiriya	854.72	5.5	4700.96 (2564.16-6837.76)
Total	-	3	3117.27 (2078.18-6234.54)

Table 38 Accommodation cost of Cerebro-vascular accident by hospital

Table 39 Total cost of in-patient care for Cerebro-vascular accident by hospital

Hospital	Total cost (Median)	Interquartile range
TH, Kurunegala	11317.74	8564.10-17042.41
BH, Dambadeniya	3071.76	1488.67-3344.74
GH, Polonnaruwa	4259.85	3534.02-5532.18
BH, Medirigiriya	8456.65	8456.65-8456.65
Total	5836.56	3674.12-10192.55

2) Myocardial infarction

In the management of Myocardial infarction, out of the patient-specific costs incurred in hospital, the cost of investigations was the highest, followed by the cost of drugs. The cost of intravenous fluids was the lowest.

Hospital	Investigations	Surgical consumables	IV fluids	Medications		
TH,	3026.70	161.20	121.60	3971.64		
Kurunegala	(1990.15-4304.18)	(151.35-330.96)	(36.48-210.91)	(3561.47-4102.92)		
BH, Dambadeniya	1244.61130.660nbadeniya(1012.14-1983.47)(127.70-254.53)(0-48.64)		2287.14 (2230.60-2806.50)			
GH, Polonnaruwa	2178.38 (1946.22-3012.63)			1800.19 (1702.57-1897.53)		
BH, Medirigiriya	856.69	206.82	24.32	119.70		
	(439.29-1233.18)	(127.70-386.19)	(0-48.64)	(37.22-1341.50)		
Total	2130.64	419.61	97.28	1847.86		
	(1529.64-2958.29)	(158.24-547.31)	(25.36-145.92)	(1715.00-2496.46)		

Table 40 Median cost of different elements of in-patient care for Myocardial infarction

Hospital	Accommodation cost (per day)	Median duration of stay	Total accommodation cost
TH, Kurunegala	1039.09	4.5	4675.91 (3896.59-5455.22)
BH, Dambadeniya	854.72	5.5	4700.96 (4059.92-5342.00)
GH, Polonnaruwa	1039.09	4	4156.36 (4156.36-4156.36)
BH, Medirigiriya	854.72	3	2564.16 (2564.16-3205.20)
Total	-	4	4156.36 (4156.36-5195.45)

 Table 41 Accommodation cost of Myocardial infarction by hospital

 Table 42
 Total cost of in-patient care for Myocardial infarction by hospital

Hospital	Median cost	Interquartile range
TH, Kurunegala	11695.44	10225.90-16116.43
BH, Dambadeniya	8424.51	7744.07-11207.62
GH, Polonnaruwa	9065.51	8165.12-9805.77
BH, Medirigiriya	4182.27	3446.63-5525.86
Total	9065.51	7915.84-11006.33

3) Ischaemic Heart Disease

Out of the patient-specific costs incurred in hospital, the cost of investigations was the highest. The cost of intravenous fluids was the lowest. The cost of surgical consumable items was higher than the cost of drugs.

Hospital	Investigations	Surgical consumables	IV fluids	Medications
TH,	1018.67	133.62	0	371.42
Kurunegala	(764.82-1647.40)	(127.70-161.20)	(0-48.64)	(13.33-2310.52)
BH,	922.17	127.70	0	1492.21
Dambadeniya	(728.50-1443.84)	(127.70-127.70)	(0-0)	(284.77-2082.35)
GH,	2038.98	419.61	194.56	285.67
Polonnaruwa	(1818.75-2502.75)	(223.58-419.61)	(158.08-194.56)	(177.61-363.62)
BH,	643.91	158.24	194.56	308.49
Medirigiriya	(392.91-1028.78)	(158.24-158.24)	(85.12-194.56)	(274.32-1706.73)
Total	1217.33 (785.82-1992.87)	158.24 (127.70-419.61)	48.64 (0-194.56)	328.84 (49.00-1489.37)

Table 43 Median cost of different elements of in-patient care for ischaemic heart disease

Hospital	Accommodation cost (per day)	Median duration of stay	Total accommodation cost
TH, Kurunegala	1039.09	3	3117.27 (2078.18-4156.36)
BH, Dambadeniya	854.72	4	3418.88 (1923.12-4059.92)
GH, Polonnaruwa	1039.09	3.5	3636.81 (3117.27-4156.36)
BH, Medirigiriya	854.72	4	3418.88 (2564.16-3418.88)
Total	-	4	3418.88 (2078.18-4156.36)

 Table 44
 Accommodation cost of ischaemic heart disease by hospital

Table 45 Total cost of in-patient care for ischaemic heart disease by hospital

Hospital	Median cost	Interquartile range
TH, Kurunegala	3967.13	3242.67-8770.08
BH, Dambadeniya	6189.69	3233.45-7250.27
GH, Polonnaruwa	6721.17	5829.48-7987.18
BH, Medirigiriya	4879.93	4232.06-5710.18
Total	5967.58	3922.86-7669.58

4) Diabetes mellitus

In the management of Diabetes mellitus, out of the patient-specific costs incurred in hospital, the cost of investigation was the highest. The cost of intravenous fluids was the lowest. The cost of surgical consumable items was higher than the cost of drugs.

Hospital	Investigations	Surgical consumables	IV fluids	Medications
TH,	1294.22	161.20	48.64	106.30
Kurunegala	(765.09-2343.04)	(79.99-290.28)	(0-133.76)	(25.33-1124.98)
BH,	900.28	14.80	0	51.49
Dambadeniya	(469.25-1718.82)	(2.96-172.30)	(0-12.16)	(17.41-103.35)
GH, Polonnaruwa	2411.09	158.24	97.28	118.95
	(1953.26-3267.30)	(127.70-158.24)	(0-145.92)	(51.66-146.88)
BH,	687.50	127.70	0	142.72
Medirigiriya	(447.45-927.55)	(0-158.24)	(0-0)	(23.30-443.94)
Total	1505.97	158.24	0	94.68
	(742.04-2457.74)	(32.56-163.69)	(0-121.60)	(25.79-239.05)

 Table 46
 Median cost of different elements of in-patient care for Diabetes mellitus

Hospital	Accommodation cost (per day)	Median duration of stay	Total accommodation cost
TH, Kurunegala	1039.09	4.5	4675.91 (1298.86-5974.77)
BH, Dambadeniya	854.72	4.5	3846.24 (2350.48-5769.36)
GH, Polonnaruwa	1039.09	3	3117.27 (2337.95-4935.68)
BH, Medirigiriya	854.72	4	3418.88 (1709.44-5983.04)
Total	-	4	3418.88 (2078.18-5195.45)

Table 47 Accommodation cost of Diabetes mellitus by hospital

Table 48 Total cost of in-patient care for Diabetes mellitus by hospital

Hospital	Median cost	Interquartile range
TH, Kurunegala	6631.46	2750.24-8705.12
BH, Dambadeniya	5242.30	2864.02-7518.12
GH, Polonnaruwa	5670.02	5228.54-8282.96
BH, Medirigiriya	4829.28	2371.42-6795.99
Total	5462.44	4227.22-7860.67

4 Discussion

This descriptive cross-sectional study was conducted with two objectives. Firstly to determine the household cost of participating in the health check-up programme conducted in the Kurunegala and Polonnaruwa districts under the NPP project; and secondly, to determine the household and health system cost of hospitalization for the four most important non-communicable diseases in the same districts: Cerebro-vascular accident (stroke), Myocardial infarction, Ischaemic heart disease and Diabetes mellitus.

4.1 Cost of participation in the health check-up programme of the NPP Project

The health check-up programme was conducted in the Alawwa and Narammala MOH areas of the Kurunegala district and the Medirigiriya MOH area in Polonnaruwa district. Sampling of subjects was done consecutively in the health check-up centres of the two districts during August-December 2010. In Kurunegala district, the number of participants in the Alawwa MOH area was relatively lower than the number of participants in Narammala MOH area. This was due to the lower number of check-up sessions conducted in Alawwa MOH area during the study period. This is reflected in the number sampled from each location for the study. The target group for the check-up programme is the general population between 40-75 years of age living in the respective MOH areas. A majority of the attendees at the check-ups were between 50-59 years of age. There were a few participants under 40 years of age in the sample indicating problems in recruitment. The differences in the pattern of health seeking-behaviour between people of different age groups may be an underlying reason for unequal representation of age groups. Recruitment strategies used by the health workers could have been responsible, as the invitation to participate may have been confined to specific population groups.

A large majority of the participants (70%) were female. Female preponderance in health seeking is well documented. Invitations for participating in health check-ups are done through the health system. In Polonnaruwa, a public health midwives are responsible for this task whereas in Kurunegala, participants are invited through the health institutions. A large proportion of the sample being female reflects better health seeking behaviour, higher contact with the health system, especially the public health midwives and higher acceptance of services by females. Relatively few women in rural communities engage in formal occupations making it possible for them to attend the check-ups during weekdays. In contrast, men employed in both the formal and informal sector could have been severely under-represented due to unwillingness to participate and difficulties in taking time off from work. The majority of those affected by NCDs, as reflected in the statistics of the selected hospitals, were male, raising a concern about this pattern.

A majority of the participants were unemployed. Of those employed, a large proportion were employed in the informal sector. People involved in agriculture comprised the majority of the sample. Check-up sessions were mostly held on weekdays and many people employed in the formal sector may not have had the opportunity to attend due to the need to apply for leave. Others may have been reluctant to lose a day's wages. People in occupational groups that can be classified as sedentary (e.g. professionals, technicians as well as associate professionals and clerks) comprised less than 5% of the sample.

Only a few participants from both districts had received higher education. Over 86% had received secondary education in Kurunegala district as compared to only 66% in Polonnaruwa district. Overall, participants in Kurunegala district had a higher level of educational attainment compared to participants from Polonnaruwa district. This may reflect the differences in the educational level of the general population in the two districts.

More than half the sample reported having a monthly family income of less than Rs. 10,000. Ninety-five percent of the sample reported drawing an income less than Rs. 50,000. Reported income by research subjects is usually considered to be an underestimate. In these two districts many households own agricultural land and fixed assets that generate non-monetary income, which may have been under-estimated in reported income.

Median family size was 4, comparable to results of other demographic studies conducted in Sri Lanka in the same period.

Approximately 42% walked to the check-up centre indicating close proximity to their residences. Over 60% walked or cycled - thereby not incurring any travel costs. The commonest mode of transport used was the bus. The other common mode was the motorcycle. In Kurunegala a majority incurred travel costs, while in Polonnaruwa a majority did not incur any travel costs. This may be explained by the longer distance the participants had to travel to reach the clinic in Kurunegala district. The differences in the social structure, rural-urban characteristics, accessibility and common modes of travelling in the two areas could have contributed to this difference to a lesser degree.

The other main cost item was incidental expenses incurred during the visit, which mainly included the cost of snacks, tea and any other food bought during the visit. In Kurunegala this was substantial. In Polonnaruwa, this was minimal. Travel costs and incidental expenses of the visit were considered as direct costs of the visit. Total direct costs were higher in Kurunegala than in Polonnaruwa. Median direct costs were also considerably higher in Kurunegala. This may be due to the longer distance and relatively more urban features in Kurunegala when compared to Polonnaruwa, resulting in greater expense.

In Kurunegala a larger proportion reported loss of income to the family due to the visit. The amount of lost income was comparable in the two districts. Although a relatively larger proportion of daily wage earners are living in these two districts, the informal nature of their occupations may have limited them from identifying the amount lost due to this visit.

4.2 Household cost of hospitalization for four major non-communicable diseases in Sri Lanka

For this component, a larger proportion of patients had to be sampled from the two main hospitals due to insufficient numbers at base hospital level. Considering the importance and life-threatening nature of some of the selected conditions, patients with some types of NCDs are rarely admitted to Base Hospitals, especially in Polonnaruwa district where the facilities available at Base Hospital level are limited.

More than 90% of the patients were above 45 years of age reflecting the fact that NCDs become commoner with advancing age.

Nearly 70% of the total sample was male and the proportion of males was higher in the Polonnaruwa district. This reflects the higher risk for NCDs in males.

In contrast to the participant profile of the check-ups, all occupational groups were represented in this sample of patients. One third of patients were unemployed. The largest occupational group hospitalized were agricultural workers comprising over one fourth of the total sample. Despite agricultural work (farming) being an occupation that involves high levels of physical activity, many farmers seem to experience NCDs. Presence of many other risk factors that predispose to development of NCDs seem to have outweighed the advantages of an active lifestyle. The risk of NCDs that affect every level of social class was reflected in all the occupational groups being represented in the sample.

Nearly half of the participants were educated above grade 5, but less than 5% had received higher education. The group who had not received any formal education was about 12%. This appears higher than the national rates and could be due to the limitations in infrastructure in some parts of these two districts even in the latter half of the 20th century.

About 9% of patients reported a monthly family income of less than Rs. 5,000.00 and only about 36% reported a monthly family income above Rs. 20,000.00. These reports may reflect the economic conditions of the patients seeking in-patient care at state sector hospitals in these districts.

Median family size was similar to that reported in the demographic surveys in Sri Lanka.

A majority of patients arrived in hospital by hired three-wheeler while a considerable proportion used the bus. On discharge, many patients hoped to go home by hired three-wheeler while the number hoping to use the bus was greater than the number that arrived by bus. These represent the commonest modes of transport available for emergency and non-emergency situations in these districts. About 11% of the participants used their own three-wheeler, reflecting the availability of user-owned transport facilities.

Travel costs were incurred by about 96% of the hospitalized patients in the Kurunegala district and all the patients in Polonnaruwa district. On average Rs. 400 was spent on travel. The travel costs of those who had been admitted in referral centres were higher, with an average of Rs. 400-500. The lower cost of travel to Base Hospitals indicates the shorter distances involved.

Loss of patient income and costs incurred by the patient's household due to accompanying the patient to hospital were not substantial. This may be due to many family members being involved in non-formal occupations and problems of estimating and quantifying the loss of income in these occupations.

A large majority of families incurred a cost for visiting the patient in hospital or transporting food from home. On average, visits by family members amounted to Rs. 400-500 during the entire stay at all levels of hospitals.

The costs of keeping a companion were not substantial in these settings. 25-50% of patients had to keep a companion. These companions were non-professional carers and could be relatives or friends of the patient, and may not charge a fee. In these situations the cost incurred for a companion will mainly involve the cost of travel and subsistence. This finding reflects the informal nature of patient care practices at the institutional level.

Another important element is the food bought for consumption of the patient. Over 2/3 of families spent money on food. The limited variation and the poor quality of the hospital diet as well as accessibility problems in providing home cooked food would have led to food being bought from vendors in and around the hospital premises.

Overall 12-24% of households incurred a cost for medications (prescription drugs) for the patient during the hospital stay and about 26% of households incurred a cost for laboratory investigations of the patient conducted in the private sector. The percentage that had to get an investigation done from the private sector was as high as 40% in Kurunegala. These indicate a growing problem in Sri Lankan health sector. Non-availability of necessary and important drugs for treatment of NCDs within the hospital is a serious shortcoming at present. Lack of infrastructure and resources to meet the demand for laboratory investigations and non-availability of modern investigation facilities in the hospitals leads to requests for private investigations. In settings like Kurunegala where private pharmacies and laboratories are widely available and more families can afford these services, accessing services from the private sector is likely to be more common in contrast to Polonnaruwa.

None of the patients had to buy consumable items such as intravenous cannula or injection syringes for use during hospitalization. This is an encouraging finding in this study.

Loss of income experienced by the entire family due to hospitalization for this episode of illness affected about 38.3 % of households. This percentage was close to 50% in the Kurunegala district. In both these districts it can be expected that the proportion occupied in the informal sector is greater than the proportion occupied in the formal sector. The loss of income associated with being away from work is generally greater in the informal sector. Therefore the percentage reporting a loss of income in this study could be an under-estimate as many patients may find it difficult to quantify the loss of income in the informal sector, especially in the self-employed agricultural sector.

All sampled patients incurred a direct household cost due to this hospitalization. The direct cost comprised travel costs, expenses incurred by accompanying persons, the cost of keeping a companion, cost of food bought, cost of visits by family members, cost of medications bought from the private sector, cost of investigations conducted in the private sector, cost of other material required by the patient during hospitalization and any other incidental expenses incurred due to the hospital stay. The total direct cost of a hospitalization is around Rs. 2,000. The total cost of the hospital stay including direct household cost and indirect household cost (loss of income by patient and other household members) ranges from Rs. 2,000-3,000. This is a substantial proportion of the monthly family income specially in settings where more than 60% of families report a monthly income less than Rs. 20,000.

4.3 Cost of in-patient care for four major non-communicable diseases in Sri Lanka

The number of patients admitted due to MI and CVA was markedly small in Base Hospitals. Due to the severity and the life-threatening nature of these conditions and improved health seeking behaviour, patients are more likely to get admitted to a larger hospital with these conditions.

The median duration of stay was 3 days for CVA and 4 days for Myocardial infarction, ischaemic heart disease and Diabetes mellitus. In general, after initiating treatment, management of CVA is largely conservative and patients are discharged early. In the specialized neurology unit in Kurunegala, hospital stay for CVA was markedly longer (6 days). Due to being one of the few specialized neurology units in the country, this unit may get severe cases who need prolonged care leading to a longer stay in hospital.

The accommodation cost of a patient in a medical ward estimated in Teaching Hospital, Kurunegala was applied as a means of estimating costs in both Teaching Hospital, Kurunegala and General Hospital, Polonnaruwa. The accommodation cost of a patient in a medical ward estimated in Base Hospital, Marawila was applied for both Base Hospitals, Dambadeniya and Medirigiriya.

The cost of intravenous fluids used in the management of the four conditions was low. There was a wide variation in the pattern of use across hospitals even for managing the same condition. This may have been due to differences in individual patient requirements as well as differences in management protocols adopted across settings.

1) Cerebro-vascular accident (CVA)

Out of the patient-specific costs incurred in hospital, the highest cost was the cost of investigations. This was higher in referral centres where advanced facilities are available. The cost of intravenous fluids was the lowest. The cost of surgical consumable items was higher than the cost of drugs.

The requirement to conduct CT scans in CVA patients can be considered the main reason for the higher cost of investigations. The cost of drugs and intravenous fluids is minimal due to relatively low cost of these items and their limited use in CVA management. The need to use many types of surgical consumables such as urinary catheters and urine bags, intravenous cannulae and infusion sets contribute to a relatively higher cost for surgical consumables.

The accommodation cost of patients was highest in Teaching Hospital, Kurunegala which has a specialized neurology unit. This was due to longer duration of stay.

The total cost of a hospitalization episode for a stroke ranged from approximately Rs. 3,100 at Base Hospital, Dambadeniya to Rs. 11,300 at the neurology unit of Teaching Hospital, Kurunegala. The median cost across all units was approximately Rs. 5,800. The total median cost was relatively high in Medirigiriya. In Dambadeniya, at least 25% of stroke patients were discharged 24 hours after admission resulting in a lower median cost. Higher total cost in Kurunegala can be attributed to advanced investigation facilities used and longer duration of stay. The relatively higher cost observed in Medirigiriya may not be representative as only 2 patients were included from Medirigiriya.

2) Myocardial infarction

In the management of Myocardial infarction, out of the patient-specific costs incurred in hospital, the cost of investigations was the highest, followed by the cost of drugs. The cost of medication was higher than cost of investigations in both hospitals in the Kurunegala district. The cost of intravenous fluids was the lowest cost, overall. The number of investigations conducted on a patient with Myocardial infarction is high. These include a number of ECGs repeated over the hospital stay as well as many biochemical investigations. The cost of medication includes the cost of relatively expensive thrombolytic drugs like streptokinase or low molecular weight heparins and injectable sedatives for pain relief. Due to these reasons cost of investigations and medications are generally high with only a slight difference depending on the setting.

The average duration of stay was over 4 days except in BH, Medirigiriya where the average stay was 3 days. Being a life threatening condition that needs optimum care in hospital, patients with MI would need at least 3 days in hospital.

Except for BH, Medirigiriya, the total cost of managing an MI was over Rs. 8,000 with an average of Rs. 9,000. The lower cost in Medirigiriya may be due to the shorter duration of stay in hospital and is limited by having only 4 patients in the sample.

3) Ischaemic Heart Disease

Out of the patient-specific costs incurred in hospital, the cost of investigations was markedly higher. The cost of intravenous fluids was the lowest. The cost of surgical consumable items was less than the cost of drugs.

All Ischaemic heart disease patients require investigations for the exclusion of an MI. This investigation process will include a number of ECG repetitions and biochemical investigations contributing to a higher cost. As the disease severity is relatively lower than CVA and MI, use of surgical consumable items is limited in its management. Drugs used in the management of ischaemic heart disease are mostly oral medications. Although the number of different drugs ordered for a patient is high, their cost is relatively low.

The average total cost was around Rs. 6,000 per hospitalization across hospitals. The average total cost was lowest in Kurunegala Teaching Hospital due to the relatively shorter duration of stay.

4) Diabetes mellitus

The cost of investigation was the highest among all patient specific costs in the management of Diabetes mellitus. The cost of surgical consumable items was higher than the cost of drugs. Despite many patients being treated with insulin, the cost of drugs was low. This could be due to the relatively low cost of most oral Diabetes medications.

The average total cost of a hospitalization for Diabetes was around Rs. 5,500. This cost was more at referral centres than at base hospitals. This may be largely due to the relatively expensive investigations and medications ordered at referral centres. In Base Hospitals, due to limited resources these investigations and medications would be obtained from the private sector at the expense of the patient leading to a lower cost of patient care to the state.

References

Constantine G, Herath J, Chang A, Suganthan P, Hewamane B, Thenabadu P. Management of acute Myocardial infarction in general medical wards in Sri Lanka. **Postgrad Med J.** 1999 Dec; 75(890): 718-20.

Gunawardene N. Sri Lanka's double burden kills rich and poor alike. **Health Millions.** 1999 Jul-Aug;25 (4):27.

Kasturiratne A, Wickremasinghe AR, de Silva A. Morbidity pattern and household cost of hospitalisation for non-communicable diseases (NCDs): a cross-sectional study at tertiary care level. **Ceylon Med J.** 2005 Sep; 50 (3):109-13

Premaratne R, Amarasinghe A, Wickremasinghe AR. Hospitalisation trends due to selected non-communicable diseases in Sri Lanka, 2005-2010. **Ceylon Med J.** 2005 Jun; 50 (2): 51-4.

Tziomalos K, Charitha N. Weerasinghe^b, Dimitri P. Mikhailidis^a and Alexander M. Seifalian. Vascular risk factors in South Asians. **Int J Cardiol.** 2008 Aug 1;128(1):5-16. Epub 2008 Feb 5. Annex 1

බෝ නොවක රෝග වැලැක්වීමේ වහපෘතිය

සෞඛා පරික්ෂා වැවසටහනෙහි ආර්ථික විශ්ලේෂණය

සහහාගී වන්නන්ගේ ගෘහස්ථ වියදම පිළිබඳ සම්ක්ෂණය

තේන	\$~DC			මෛදය පුළුද්ශය	1.1	
රික්	මා යෛස්ථානය		1	3-4-1		
	මුදික කොරතුං	si				
1-1.	පයගේ න ෙකු	\$00°C				
1-2	සයගේ පිපිතය	තුකේද	-			
1-1	පතුගේ පදිංච අ	පවුල් ගෞඛා කිලය	ාරිති කොට්ය්)))))))))))))))))))	501	
1-4	සදාගේ උපක් ද	දනය කුෂක්ද	48	80	5	1
1-5	සහගේ රැකියා	ප තුතේද	-	-	4	-
1-6	මය අතා ඇති	ඉහළ අයකසන ම	වට කත්ත්			
	විධිතේ කොප	නයක් අඟා නැත		1		
	5 ගෝණයට අප	ා කොපතයක්	1			
	3 00 00 00		1.			
	8 ගෝණාය සම					
	අ සො ස සා/ෂ		1	0		
	ද පො ස උ/පෙ		10.00	2		
	උසස් අනහමන					
1-7	මයාගේ පසුලේ	ආසික ආදාපම තු	තේද			
_	6, 50000 as		1			
	01 2000-9998		1	19		
	di 10000-198					
-	51 20000-349			1		
	dr 35000-498	and the second second	1			
	රු 50000 හෝ					
1-8	සයයේ පසුලේ	සාමාජිකයන් ගණ	න කොපෂණ	ie		
1.1	49 19 9 49	1	11 1	-	-	
				0		
-	49 15 - 59 ge	aci				

1

Annes 1.1

බෝ නොවන රෝග වැලැක්වීමේ වහපෘතිය සෞඛා පරික්ෂා වැවසටහනෙහි ආර්ථික විශ්ලේෂණය සහභාගී වන්නන්ගේ ගෘහස්ථ වියදම පිළිබඳ සමීක්ෂණය

සමන්ෂණය පිළිබද විස්තරය

හෙත්යොතෙණ්/ හෙත්මයකි

සබගේ සෞඛන වෛදන කිළබාට පුදේශය තුළ සුධාත්තෙ නො හෝ නොනක ටෝග නැදැක්වීමේ නොසෘතියේ සෞඛන පරීක්ෂා නැස සටහනට අද දින සහභාගී නත පයට සමක්ෂණයක් සඳහා සහභාගී වීමට ආරාධනා කරමු මෙම සමක්ෂණයේ අරමුණ මෙම නැත සටහනට සහභාගී වීමට ඔබට දැරීමට සිදුනෙ වියදුම සහ අද දින ඒ සඳහා කාලය මීඩංගු කිරීම නිසා ඔබ අත් විදින ආර්ථකයේ පාසුන නිර්ණය කිරීමයි

මය මෙම සම්ක්ෂණයට සහභාගි විවෙ තිරණය කරන්නේ නම් වෛදපවරයකු ඔයාගෙන් සරල පුශ්ත කිපයක් අසනු ඇත ඒවාට පිළිතුරු දයා දීවෙ ඔබට ගත වන කාදය දළ වශයෙන් විනාහි 15ක් පමණ වනු ඇත එහිදී ඔයාගෙන් යො ගන්නා කොරතුරු වඳ රහසා භාවය පුරකින අතර එම තොරතුරු මෙම සම්ක්ෂණය සඳහා පමණක්ම යොදා ගැනෙනු ඇත

සිග මෙම සම්ක්ෂණයට සහභාගී නොවිටෙ හිරණය කරන්නේ නම් පුවද සිගට සෞත පරීක්ෂා වැඩ සටහනට සානෞ පරිදි සහභාගී විය හැක සම්ක්ෂණයට සහභාගී නොවිටෙ සිග ගන්නා තිරණය සිගගේ පරීක්ෂාවට හෝ ඉන් පසු සිගට කො දෙන වෛදා උපදෙස් සහ වෛදා පහසුකම් වලට කිසිම බලපෑකේ නොකරනු ඇත

මෛ සම්ක්ෂණයට සහභාගි වීමට පෙර සිරට තවත් තොරතුරු අවශා නම් මෛ පතිකාව සරට දහා දුන් සම්ක්ෂණ වෛදනවරයාගෙන් විසෙන්න එසේ නැතිනම පහත දුරකථන අංකය පස්සේ සම්ක්ෂණයේ පුශාන විමර්ශක වෛදන ංංංංං ංංංංංංංංං අමතන්න (දුරකථන අංකය 077ංංංංංං)

(අත්සත)

080,7% saces becomesses

කටිකාවාරිණි

බෛදය පීය්ය කැ පෙ 06 රාගම

Annex 2

බෝ නොවන රෝග වැලැක්වීමේ වහපෘතිය

සෞතා පරික්ෂා වැඩසටහනෙහි ආර්ථක විශ්ලේෂණය

නෝ නොවන රෝග නිසා රෝහල් ගත වුවන්ගේ ගෘහස්ථ වියදා පිළිබඳ සම්ක්ෂණය

	4-DC	80380		10		
ාවදු	5-13C	Ċ.				
÷.,	මුළික තොරතුරු		-			
-1	සීරාගේ නම කුතේද					
-2	.සයගේ පිපිනය කුකේද					
-3	සහ සදිංච සෞභ්ෂ වෛද්ෂ නිලධ ලේකම කොට්ඨාශය කුකේද	ාරී කොචඨාශ	පත් පාදේ	S a		
-4	සයගේ උපත් දිනය කුෂක්ද	42	(19)	5	1	
5	මළුගේ රැකියාව තුකේද		-	-	-	
1-6	මය අයා ඇති ඉහළ අයහපත ම	වටට කුතෝල	2			
	ව්යිතේ අයහපනයක් රෝ නැත	1			-	
	් ශේණයට අඩු අගනපතයක්					
	ර ශූණය සතේ					
	8 ශූණිය සමත්		4.1			
	අ පො ස සා/පෙළ සතේ					
	ද හෝ ස උ/පෙළ සත්ත්	1				
_	උසස් නොමනය ඇතු					
-7	මයගේ පසුළේ ආසික ආදාය ෙකු	තේද				
	St 20000 \$5	12				
	රු 5000-9999 දක්ෂා					
	රු 10000-19999 දක්නා		D			
-						
	රු 20000 34999 දක්නා		1			
	රු 20000 34999 දක්නා		8			
-8	්ද 20000-34999 දක්ෂා රු 35000-49999 දක්ෂා	්ත කොපළණ	ię.			
-8	්ද 20000-34999 දක්නා රු 35000-49999 දක්නා රූ 50000 හෝ ඊට පැඩි	න කොපළණ	ie			
1-8	්, 20000-34999 දක්නා රු 35000-49999 දක්නා රූ 50000 හෝ ඊට නැඩි ඔහුගේ පඩුලේ සාමාජිකයක් ගණ	න කොපළණ	ie I			

1

Annex 2.1

බෝ නොවත රෝග වැලැක්වීමේ වහපෘතිය

සොබා පරීක්ෂා වැවසටහනෙහි ආර්ථක විශ්ලේෂණය

බෝ නොවන රෝග සඳහා රෝහල් ගතවත්නන්ගේ ගෘහස්ථ වියදම පිළිබඳ සමීක්ෂණය

සම්ක්ෂණය පිළිබද විස්තරය

හෙත්යොතෙණි/ හෙත්මයති

රෝ නොවන රෝගයකට පුතිකාර ගැනීමට රෝහල් ගත වූ වූ ඔබට සම්ක්ෂණයක් සඳහා සහභාගී වීටේ ආරායතා කරමු මෙම සම්ක්ෂණයේ අරමුණ මෙම රෝහල් ගත වීම නිසා ඔබට සහ ඔබගේ පවුලේ සාමාජිකයන්ට දැරීටේ සිදුවත වියදුම සහ අත් විදියෙ සිදුවත ආර්ථිකයෙ පාවුව නිර්ණය කිරීම සහ ඔබට පුතිකාර කිරීටේ වෛදන පහසුකම් සැපයීවෙ රෝහල සහ සොහා පද්ගතිය දරන වියදුම ගන්ණය කිරීයේ

පර ජෛ සම්ක්ෂණයට සහභාගි විරේ තීරණය කරන්නේ නම් සිර රෝහලේ සිටින ගායය තුල දින දෙකකට පරක් ජෛදාපරයකු සහගෙන් හෝ සර හෝ සංහි පසුලේ සාෂාපිකයන් විසින් නම් කරන දෙ තොරතුරු සපයන්නෙකුගෙන් සරල පශ්න කීපයක් දෙකු ඇත ඒපාට පිළිතුරු දරා දීරට පරකට ගත පත කායෙ දළ පශයෙක් විනාහි 3-10 ක් පණේ පනු ඇත එහිදී සරගෙන් දරා ගන්නා තොරතුරු පල රහසා භාවය සුරකින අතර එම තොරතුරු මෙම සමක්ෂණය සඳහා පමණක්ෂ යොදා ගැනෙනු ඇත

තවද ඔබට රෝහලේදී කො දෙන සියලු පුතිකාර සහ වෛදය සේවා පිළිබඳ විස්තර ද මබගේ ඇඳ ඉහපතෙක් බොගනු ලැබේ අවශය අමතර විස්තර වාට්ටු තාර්ය මණ්ඩලයෙන් බො ගනු ඇත

මර මෙම සම්ක්ෂණයට සහභාගි නොවීමට තීරණය කරන්නේ තම ඔබට සාමානා පරිදි වෛදා පුතිකාර ඇතෙනු ඇත සම්ක්ෂණයට සහභාගි නොවීමට ඔබ ගන්නා තීරණය ඔබගේ ඔබට අඩා දෙන වෛදා පහසුනම සහ පේවා වඳට කිසිම බඳපෑමක් නොකරනු ඇත

මෛ සම්ක්ෂණයට සහභාගි වීමට පෙර ඔබට තවත් තොරතුරු අවශා තම මෛ පනිකාව ඔබට අඩා දුන් සම්ක්ෂණ වෛදාවරයාගෙන් විසෙන්න එසේ තැනිනම පහත දුරකථන අංකය මස්සේ සම්ක්ෂණයේ පුධාන විමර්ශක වෛදා ංංංශාංශ ංංංශාංශංශංශංශ අමතන්න (දුරකථන අංකය 077moore)

(අත්සන)

00070 seese seese 05000

කටිකාවාටිණ්

මෛදය පියිස් කැ මේ 06 රාගම

NCD Prevention Project (NPP) Cost Accounting of selected diseases - Data Extraction Form Cod CerebroVascular Accident (Stroke)	e:	
Part L. Please complete this check-list before proceeding to Part 2. Cross (X) the relevant cage. 1.1 Has this patient experienced sudden weakness or sensory loss during the last 7	v	
days?	x	
1.2 Is this weakness/ sensory loss, the reason for this admission?	Y	N
1.5 Is it documented on the Bed Head Ticket that the patient had a CVA/ Stroke?	Y	N
1.6 Has the patient developed any complications of other diseases needing ICU admission or surgery during this admission?	Y	N
1.7 Has the patient left against medical advice or reported missing?	Y	N
1.8 Was the patient transferred for further management?	Y	Ň

Annex 3

Part 2. Write the relevant information in the space provided or mark the relevant cage with a \checkmark

2.3 Ward		2.4 BHT	No.			
2.5 Date and time	of Admiss	ion DD	MM	YY	Admis	sion Time
2.6 Nebulisation d	lone:	Yes		No		am/p.m
2.7 Details of neb		se Free	mency	Total No	of To	tal units
Drug combina used	inon pr		deres 1			
Urug comoms used				doses		
used						
used						
used 1 2 3						

65

NCD Prevention Project (NPP) Cost Accounting of selected diseases - Data Extraction Form Cod Myocardial Infarction (MI)	e:	
Part 1. Please complete this check-list before proceeding to Part 2. Cross (X) the relevant cage. 1.1 Was the reason for admission chest pain ± other symptoms?	Y	N
1.2 Is this his/ her first admission for this episode of chest pain?	Y	N
1.3 Is it documented on the BHT that the patient had a MI during this admission?	Ŷ	N
1.6 Has the patient developed any complications of diseases other than the MI needing ICU admission or surgery during this admission?	Y	N
1.7 Has the patient left against medical advice or reported missing?	Y	N
1.8 Was the patient transferred for further management?	Y	N

Part 2. Write the relevant information in the space provided or mark the relevant cage with a \checkmark

2.1 Co	Charles 4	1			pital Cod	ie.	-
2.3 Wa	rd	2.4	BHTN	0.		11.2	
2.5 Dat	e and time of Ad	mission	DD	MM	YY	Admi	ssion Time
				1.004			аш/рл
2.6 Nel	pulisation done:	1	les		No	1	
	tails of nebulisati ug combination		Frequ	ency	Total No	of To	tal units
DI	ug comonauon	2000					
	used			- 4	doses		
1							
1							
2							
1							
1 2 3							
1 2 3 4 5							
1 2 3 4							

Annex 4

NCD Prevention Project (NPP) Cost Accounting of selected diseases - Data Extraction Form Cod Ischaemic Heart Disease (IHD)	e:	
Part L. Please complete this check-list before proceeding to Part 2. Cross (X) the relevant cage.		
1.1 Was the reason for admission chest pain ± other symptoms?	Y	N
1.2 Is this his/ her first admission for this episode of chest pain?	Y	N
1.3 Does the patient have a past history of IHD?	Y	N
1.4 Is it documented that the patient had a MI during this admission?	Y	N
1.5 Has the patient developed any complications of diseases other than IHD meeding ICU admission or surgery during this admission?	Y	N
1.6 Has the patient left against medical advice or reported missing?	Y	N
1.7 Was the patient transferred for further management?	Y	N

Annex 5

Part 2. Write the relevant information in the space provided or mark the relevant cage with a \checkmark

BHT N DD Yes Freque	MM	YY No Total No		am/j	
Yes				a.m/j	
	epcy		of T		p.m
	ency		of T	atal units	
Frequ	ency	Total No	of T	atal units	
	12.00	doses		Utat titlis	7
	1.0			Utat titlis	
1			-	1	
1					
		_			'n

67

NCD Prevention Project (NPP)
Cost Accounting of selected diseases - Data Extraction Form
Diabetes Mellitus

Part L. Please complete this check-list before proceeding to Part 2. Cross (X) the relevant cage.		
1.1 Does this patient have documents to support a diagnosis of diabetes mellitus?	Y	N
1.2 Is he/ she admitted due to a complication of diabetes mellitus?	Y	N
1.5 Is it documented that the patient had a CVA/ Stroke during this admission?	Y	N
1.6 Is it documented that the patient had a Myocardial Infarction (MI) during this admission?	Y	N
1.7 Is there evidence that the patient has been admitted due to an acute coronary event ?	Y	N
6 Has the patient developed any complications of diseases other than diabetes meeding ICU admission or surgery during this admission?	Y	N
1.7 Has the patient left against medical advice or reported missing?	Y	N
1.8 Was the patient transferred for further management?	Y	N

DC:

Part 2. Write the relevant information in the space provided or mark the relevant cage with a \checkmark

2.1 Code			2.2 Ho	spital Cod	de:
2.3 Ward	2.4	BHTN	Io.		
2.5 Date and time o	fAdmission	DD	MM	YY	Admission Time
		L			am/p.n
2.6 Nebulisation do	ne: 1	les		No	1 = 1

27	Details	of	nebu	isation	

Drug combination used	Dose	Frequency	Total No. of doses	Total units
	11.1			
	1		·	
	1			
	-		·	·
+	1 1			
	1	-	1	-
	Drug combination used	Drug combination Dose used	Drug combination Dose Frequency used	Drug combination used Dose Frequency doses used Image: Comparison of the second secon

Annex 6